

上神主・茂原官衙遺跡 茂原向原遺跡

—北関東自動車道側道建設に伴う発掘調査—

平成29年3月

宇都宮市教育委員会



■上神主・茂原官衙遺跡全景（北上空から、手前が北関東自動車道側道調査区）



■上神主・茂原官衙遺跡全景（西上空から、奥が田川低地の水田地帯）

序

上神主・茂原官衙遺跡は、古代の寺院跡として古くから知られておりましたが、宇都宮市と上三川町における合同調査の結果、官衙跡であることが判明し、平成15年8月に国史跡に指定されました。古代の下野国河内郡衙と推定される本遺跡は、宇都宮市では初めての官衙跡であり、全国的に見ても第一級の遺跡であることから、上三川町とともに本遺跡を恒久的に保存し、後世に継承していくため、平成18年3月に上神主・茂原官衙遺跡保存整備基本構想を策定し、これまで保存整備に向けた取組を進めているところであります。

本報告書は、平成10年度に実施した北関東自動車道側道（市道1791号線）建設に伴う上神主・茂原官衙遺跡・茂原向原遺跡の事前調査の成果、及び、基本構想をもとに平成27年度に実施した保存整備に向けた上神主・茂原官衙遺跡の発掘調査の成果をまとめたものであります。

これまでに確認された多数の建物跡や出土した2300点もの文字瓦は、当時の地方行政の実態を伝えるものであり、本地域の古代史研究の深化とともに、本遺跡の今後の保存活用に役立つことを期待するものであります。本報告書が多くの方々にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書作成にあたり、多大なるご指導・ご協力を賜りました上神主・茂原官衙遺跡保存整備委員会、文化庁、栃木県教育委員会、そして地元関係者の皆様に対しまして、厚く御礼申し上げます。

平成29年3月31日

宇都宮市教育委員会

教育長 水越久夫

例 言

- 1 本書は、栃木県宇都宮市茂原町字江面から河内郡上三川町上神主字富士山台にかけて所在する上神主・茂原官衙遺跡と、宇都宮市茂原町字南原から上三川町上神主字富士山台にかけて所在する茂原向原遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本発掘調査は、北関東自動車道側道（市道1791号）建設に伴う事前調査で、宇都宮市教育委員会が宇都宮市建設部の依頼により平成10年度に実施したもの（平成10年度調査）、及び、上神主・茂原官衙遺跡保存整備基本構想に基づき実施した保存整備に向けた発掘調査で、国庫補助を受けて平成27年度に実施したもの（第26次調査）である。
- 3 調査期間は、平成10年度調査は平成10年5月25日～平成11年3月30日の10ヶ月で、調査面積は上神主・茂原官衙遺跡が3,500㎡、茂原向原遺跡が2,400㎡である。第26次調査は、平成27年10月2日～平成27年12月24日の3ヶ月で、調査面積は、550㎡である。
- 4 発掘調査での測量・写真撮影等は、平成10年度調査は梁木 誠が、第26次調査は前原義之・清地良太が実施した。
- 5 遺構・遺物の整理、実測等は、中山真理、澤村有希子、小林順子、澁谷麻友子、関美津恵の協力を得て、梁木 誠、清地 良太がこれにあたった。また、遺物の写真撮影は、梁木、中山、清地がこれにあたった。
- 6 本書の執筆は梁木、清地がこれにあたった。
- 7 本遺跡出土の遺物及び図面・写真は、宇都宮市教育委員会で保管している。
- 8 発掘調査の関係者は、次のとおりである。

〔指導助言〕

○宇都宮市文化財保護審議委員会委員

【平成10年度】

堀 静夫（上神主・茂原官衙遺跡調査指導委員会委員兼任） 大金宣亮 橋本澄朗

【第26次調査（平成27年度）】

橋本澄朗（上神主・茂原官衙遺跡保存整備委員会委員兼任） 竹澤 謙

○上神主・茂原官衙遺跡調査指導委員会委員（平成10年度）

田辺征夫 加藤友康 酒井清治 佐藤 信 田熊信之 日向野 昇 藤井恵介

○上神主・茂原官衙遺跡保存整備委員会委員（平成27年度）

田辺征夫 酒井清治 佐藤 信 田中哲雄 日向野 昇 藤井恵介

〔事務局〕

<平成10年度>

教育長	大塚一之	文化財保護係	梁木 誠	京極隆利
教育次長	須田彰市		小松俊雄	今平利幸
文化課長	桜井敬朔		大塚雅之	清水正幸
文化課長補佐	西田秀雄		栗原武夫	高野欽哉
文化財保護係長	手塚英男		神野安伸	吉澤宣行
			富川 努	

<平成27年度>

教育長	水越久夫	文化財保護グループ	江川尚美	仲沢 隼
教育次長	篠塚茂夫		石川和弘	清地良太
文化課長	松本邦夫		君島直人	高橋 慧
文化課長補佐	板倉英伸		前原義之	
文化財保護グループ	今平利幸		近藤 真	
			竹下 亘	

○発掘調査補助員

<平成10年度>

石塚倫芳 伊藤明日香 今井徳三 入江タネ子 上野良夫 大塚清 大野節子 岡崎正人
岡田健男 川島栄子 川島一司 菊池孝典 北村昭貞 黒須昭吾 小松寅雄 手塚崇 後藤守三
篠原和江 須永剛生 清水豊 鈴木崇之 鈴木常男 鈴木道子 高嶋キヨノ 高嶋好子 高嶋義雄
高嶋ミヨ子 高橋邦雄 高松ヨシ 濱島幸子 寺内清 寺内千代子 寺内キミ 寺内好 寺内雄司
中村ヒサ 橋本一夫 橋本フジ 平出宣幸 福田喜久栄 吉澤良助 吉田多計男 若林サト

<平成27年度>

新井ミヤ子 高島勝征 高島典子

- 9 発掘調査及び報告書作成においては、次の諸機関、諸氏にご指導・御助言いただいた。記して感謝の意を表する。(敬称略、順不同)

栃木県教育委員会文化財課、(財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター、大川清、岩上照朗、水野順敏、河野一也、中山晋、田熊清彦、田代隆、大橋泰夫、秋元陽光、真保昌弘、山口耕一、山路直充、安永真一、板橋正幸、深谷昇、大島孝博、保坂知子

凡 例

- 1 挿図の縮尺は、原則として竪穴住居跡などの遺構が1/60、土器などの遺物を1/4とした。また、遺物実測図番号は、遺構平面・断面図の番号及び図版の遺物番号と一致する。
- 2 遺構実測図中の方位は、国土方眼座標による北を示している。
- 3 遺物実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
ローム粒：LR ロームブロック：LB 今市バミス：IP 七本桜バミス：SP
鹿沼バミス：KP 焼土粒：SY 焼土ブロック：SYB 炭化物：C
- 4 遺構は種類ごとに次の略号で示した。なお、遺構番号は確認順の通し番号とした。
竪穴住居跡：SI 掘立柱建物跡：SB 溝：SD 土坑：SK 不明：SX
井戸：SE

目 次

・序	
・例言・凡例	
I はじめに	
1 調査の経過	1
2 遺跡の環境	
(1) 地理的環境	3
(2) 歴史的環境	3
II 上神主・茂原官衙遺跡	
1 掘立柱建物跡	8
2 長方形竪穴建物跡	11
3 竪穴住居跡	13
4 その他	16
付 上神主・茂原官衙遺跡第26次確認調査	
1 竪穴住居跡	17
2 掘立柱建物跡	18
3 土坑	18
III 茂原向原遺跡	
1 竪穴住居跡	80
2 掘立柱建物跡	82
3 その他	83
IV おわりに	100
・報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図	1	第43図	SI203実測図	54
第2図	調査地区図	1	第44図	SI206実測図	54
第3図	遺跡周辺の地形区分	2	第45図	SI207、SK219実測図	55
第4図	周辺の遺跡分布図	4	第46図	SI208実測図	55
第5図	上神主・茂原官衙遺跡遺構配置図(1)	19	第47図	SB210、SI209・211・212、SK213～218 実測図	56
第6図	上神主・茂原官衙遺跡遺構配置図(2)	21	第48図	SI74・77・78出土遺物	57
第7図	SB70実測図(1)	22	第49図	SI75出土遺物(1)	58
第8図	SB70実測図(2)	23	第50図	SI75出土遺物(2)	59
第9図	SB71～73実測図(1)	24	第51図	SI75出土遺物(3)	60
第10図	SB71～73実測図(2)	25	第52図	SI75出土遺物(4)	61
第11図	SB91実測図(1)	26	第53図	SI79出土遺物(1)	62
第12図	SB91実測図(2)	27	第54図	SI79出土遺物(2)	63
第13図	SB105～107実測図(1)	28	第55図	SI79出土遺物(3)	64
第14図	SB105～107実測図(2)	29	第56図	SI79出土遺物(4)	65
第15図	SB102実測図	30	第57図	SI81出土遺物	66
第16図	SB103実測図	31	第58図	SI82・83・90・99出土遺物	67
第17図	SB109実測図	32	第59図	SI88・89(1)出土遺物	68
第18図	SI90実測図	33	第60図	SI89出土遺物(2)	69
第19図	SI104実測図	33	第61図	SI89出土遺物(3)	70
第20図	SI99実測図(1)	34	第62図	SI89(4)・SB70・91、SK80出土遺物	71
第21図	SI99実測図(2)	35	第63図	SI95・100・101・104出土遺物	72
第22図	SI100実測図(1)	36	第64図	SI203・206～209・211・212出土遺物	73
第23図	SI100実測図(2)	37	第65図	茂原向原遺跡遺構配置図	84
第24図	SI74実測図	38	第66図	SI110(1)、SK134実測図	85
第25図	SI75実測図	38	第67図	SI110実測図(2)	86
第26図	SI76実測図	39	第68図	SI111実測図	86
第27図	SI82実測図	39	第69図	SI112実測図	87
第28図	SI77実測図(1)	40	第70図	SI113実測図	87
第29図	SI77実測図(2)	41	第71図	SI126実測図	88
第30図	SI77実測図(3)	42	第72図	SI127実測図	88
第31図	SI78実測図	43	第73図	SI128実測図	89
第32図	SI79実測図(1)	44	第74図	SI129実測図	89
第33図	SI79実測図(2)	45	第75図	SB116・117実測図(1)	90
第34図	SI79実測図(3)	46	第76図	SB116・117実測図(2)	91
第35図	SI81実測図	47	第77図	SB123実測図	92
第36図	SI83実測図	48	第78図	SB130・SE118実測図	93
第37図	SI88実測図	49	第79図	SI110・111出土遺物	94
第38図	SI89実測図	50	第80図	SI112・113・127出土遺物	95
第39図	SI95実測図	51	第81図	SI126・128出土遺物	96
第40図	SI101実測図	52	第82図	SI129・SB117出土遺物	97
第41図	SE94、SK80・96・131・132実測図	52			
第42図	SD92・93実測図	53			

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧(1)	5	第20表	SB91出土土器観察表	79
第2表	周辺の遺跡一覧(2)	6	第21表	SK80出土土器観察表	79
第3表	SI74出土土器観察表	74	第22表	SI203出土土器観察表	79
第4表	SI75出土土器観察表	74	第23表	SI206出土土器観察表	79
第5表	SI77出土土器観察表	74	第24表	SI207出土土器観察表	79
第6表	SI78出土土器観察表	74	第25表	SI208出土土器観察表	79
第7表	SI79出土土器観察表	74	第26表	SI209出土土器観察表	79
第8表	SI81出土土器観察表	76	第27表	SI211出土土器観察表	79
第9表	SI82出土土器観察表	77	第28表	SI212出土土器観察表	79
第10表	SI83出土土器観察表	77	第29表	SI110出土土器観察表	98
第11表	SI88出土土器観察表	77	第30表	SI111出土土器観察表	98
第12表	SI89出土土器観察表	77	第31表	SI112出土土器観察表	98
第13表	SI90出土土器観察表	78	第32表	SI113出土土器観察表	98
第14表	SI95出土土器観察表	78	第33表	SI126出土土器観察表	98
第15表	SI99出土土器観察表	78	第34表	SI127出土土器観察表	99
第16表	SI100出土土器観察表	78	第35表	SI128出土土器観察表	99
第17表	SI101出土土器観察表	78	第36表	SI129出土土器観察表	99
第18表	SI104出土土器観察表	78	第37表	SB117出土土器観察表	99
第19表	SB70出土土器観察表	79	第38表	上神主・茂原官衙遺跡、茂原向原遺跡の 主な遺構変遷	100

図 版 目 次

上神主・茂原官衙遺跡 (遺構)

図版1	調査区全景、掘立柱建物跡群
図版2	SB48、SB50
図版3	SB70、SB71～73
図版4	SB91
図版5	SB102、SB103、SB105～107
図版6	SB105～107、SB109、SI99
図版7	SI99、SI100、SI90、SI104、SI74、SI76
図版8	SI75、SI77、SI78、SI81、SI82
図版9	SI79、SI83、SI95、SI88、SI89
図版10	SE94、SD92・93、SI203、SI206
図版11	SI206～SI208、SI211、SB210

茂原向原遺跡 (遺構)

図版12	調査区全景、SI110～SI113、SI129
図版13	SI126、SI127、SB116・117、SB123、 SB130、SE118

上神主・茂原官衙遺跡 (遺物)

図版14	SI74、SI78、SI79 (1)
図版15	SI79 (2)、SI81
図版16	SI75、SI83 (1)
図版17	SI83 (2)、SI88、SI89
図版18	SI90、SI95、SI100、SI99、SK80
図版19	SI203、SI206、SI209、SI110、SI111
茂原向原遺跡 (遺物)	
図版20	SI112、SI113、SI126、SI127、SI128

1 はじめに

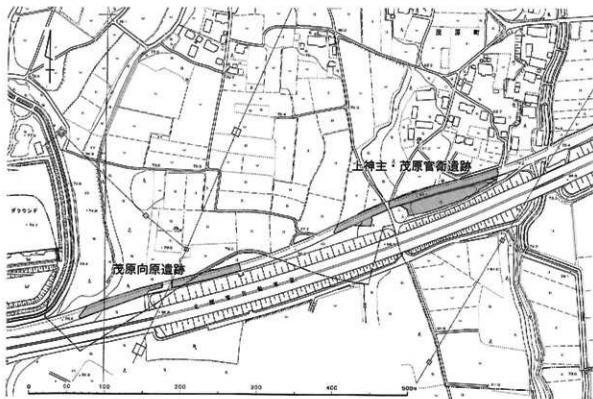
1 調査の経過

平成5年12月、栃木県教育委員会文化課は、北関東自動車道(都賀～上三川)建設計画にともない、関係機関及び関係市町教育委員会立ち会いのもと埋蔵文化財所在調査を実施した。その結果は平成6年2月7日付け文化第501号「北関東自動車道事業地内の遺跡の取り扱いについて」として当該市町村教育長にも報告され、宇都宮市内では茂原向原遺跡・上神主・茂原遺跡(平成15年の国指定により上神主・茂原官衙遺跡と改称)・東谷遺跡群・杉村遺跡等が埋蔵文化財発掘調査の対象となった。

北関東自動車道本体に関わる発掘調査は、日本道路公団と栃木県教育委員会の協定(平成6年12月締結)により、財団法人栃木県文化振興事業団が実施することとなり、本書に該当する茂原向原遺跡と上神主・茂原遺跡の発掘調査も平成8・9年度に実施されている。



第1図 遺跡位置図



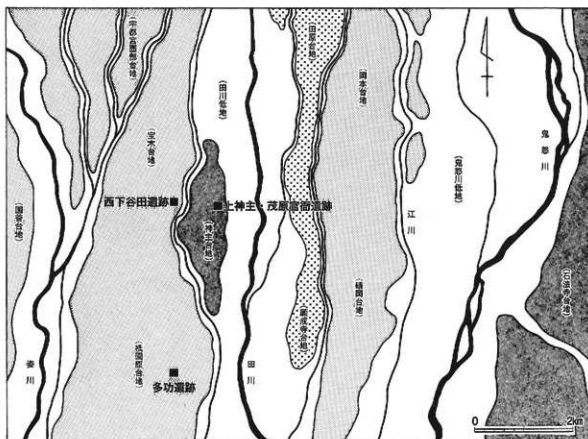
第2図 調査地区図

ただしこの区間においては、宇都宮市が建設中の清掃工場（クリーンパーク茂原）への導入路として北側側道部分を利用したいことから、市道として幅12mの道路を建設することとなり、これを受けて、これら2遺跡の市道建設部分については、宇都宮市教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は平成10年5月25日～平成11年3月30日の10ヶ月間実施した。調査対象区間は総延長約800mに及んでいたが、財団法人栃木県文化振興事業団により先行して実施された自動車道本体部分の調査成果に基づき、遺構等が確認されなかった谷部・低地部等は調査対象から外した。この結果調査面積は、茂原向原遺跡が延長距離約220mで約2,400㎡、上神主・茂原遺跡が延長距離約230mで拡張部分を含め約3,500㎡となった。

現地調査は自動車道本体部の調査状況から、遺構の密集が予測された上神主・茂原遺跡の方から開始した。またこの区間は、市道が共同墓地を避けて迂回するルートをとったため自動車道本体との間に空閑地ができたが、市の買収地でもあることから拡張して調査をすることとした。この結果、市道側にも大型の建物跡を含む高い密度の遺構が確認され、調査は12月末までの約7ヶ月間を要した。続いて茂原向原遺跡の発掘調査を、年が明けた平成11年1月から開始した。こちらは上神主・茂原遺跡に比較して遺構の密度は薄く、一般集落的な内容であったため、年度内の3月にほぼ終了することができた。

なお、今回の調査における遺構番号は、北関東自動車道本体調査区（財団法人栃木県文化振興事業団担当）からの連番として付している。



第3図 遺跡周辺の地形区分

2 遺跡の環境

(1) 地理的環境

上神主・茂原官衙遺跡と茂原向原遺跡は、ともに宇都宮市と上三川町の境界付近に位置し、宇都宮市街地からは南に約10km、上三川町の中心部からは北へ約4kmの距離にある。平地林・畑・水田等の広がる農村地帯であるが、近年は近隣に大規模な住宅団地や商業施設が相次いで造成され、周辺の生活環境は大きく変貌しつつある。

両遺跡が立地するのは、大きくは姿川と田川に挟まれて南北に細長く伸びる宝木台地（宇都宮西部台地、祇園原台地など）の東縁部であり、東側は広大な田川低地に臨んでいる。また、細かくみると、本遺跡が載る宝木台地近辺は、田川の支流によって浸食された谷により独立した小台地（神主台地）としても形成されている。

標高は上神主・茂原官衙遺跡付近が82m前後、茂原向原遺跡付近がやや低く78m前後であり、田川低地とは7～8mの比高差を有している。また、上神主・茂原官衙遺跡と茂原向原遺跡の間には、標高77mほどのごく浅い谷部が入っている。なお遺跡周辺の土地利用状況は、台地上は畑地・宅地・平地林等が入り交じり、低地部は大部分が水田となっている。

(2) 歴史的環境

第4図は本遺跡周辺の主な遺跡分布図である。南流する田川及びその低地を挟んで、多数の遺跡が所在する様子がよく分かる。特に本遺跡の立地する宝木台地の東縁部（神主台地を含む）は、遺跡の宝庫とも言える。以下、時代毎に周辺の主な遺跡の状況を概観することにした。

旧石器時代

上神主・茂原官衙遺跡（1）では、平成9年の北関東自動車道本体工事にともなう発掘調査において、宝木ローム層上位の暗色帯下部と想定できる層位から、3つの接合資料を含む多数の旧石器（ナイフ・スクレーパー、打製石斧など）が確認され、周辺地域でも古い段階の資料として注目されている。周辺ではこの他に、宇都宮市の権現山北遺跡（12）・上三川町の殿山遺跡（27）・蒲市遺跡（29）・西赤堀遺跡（47）などで良好な資料が確認されている。

縄文時代

周辺における遺跡分布密度の高さのわりには、縄文時代の遺跡はやや少なめである。上三川町の島田遺跡（64）のように、多数の竪穴住居跡や配石遺構が確認された中期の大規模集落跡もみられるが、宇都宮市の杉村遺跡（43）・上三川町の殿山遺跡（27）など、多くは断片的な資料を伴う小規模な集落跡とみられる。ちなみに上神主・茂原官衙遺跡（1）・茂原向原遺跡（2）においても、僅かながら早期から後期にかけての資料が確認されている。

弥生時代

縄文時代同様、弥生時代も遺跡数は少ない。特に中期は少なく、宇都宮の磯岡北遺跡（40）や杉村遺跡（43）で、竪穴住居跡1軒と土坑などの確認例があるだけである。しかし後期になると遺跡数はかなり多くなり、上三川町の殿山遺跡（27）では隣り合う上ノ原遺跡（26）・向原南遺跡（23）との合計で35軒もの竪穴住居跡が確認されるなど、県内でも貴重な例となっている。なお、宇都宮市の西下谷田遺跡（20）では、古墳時代前期への過渡的な様相を示す資料も確認されている。



第4図 周辺の遺跡分布図

No.	遺跡名	所在地	時代と種類
1	上神主・茂原官衙遺跡	宇都宮市茂原町・上三川町上神主	旧石器、縄文、弥生、飛鳥・奈良時代の官衙関連遺跡、古墳後期～平安時代の集落跡
2	茂原向原遺跡	宇都宮市茂原町	古墳後期～平安時代の集落跡
3	雀の宮四丁目遺跡	宇都宮市雀の宮四丁目	古墳時代の集落跡
4	雀宮東浦遺跡	宇都宮市雀宮町	奈良時代の集落跡
5	雀宮駅東遺跡	宇都宮市雀宮町	奈良～平安時代の集落跡
6	牛塚東遺跡	宇都宮市雀宮町	古墳前期の方墳2基
7	牛塚古墳	宇都宮市新富町	古墳中期の前方後円墳(墳長56m)
8	赤土山遺跡	宇都宮市南町	奈良時代の集落跡
9	大谷田遺跡	宇都宮市雀宮町	奈良～平安時代の集落跡
10	宇都宮機器南遺跡	宇都宮市下横田町	奈良時代の集落跡
11	茂原北遺跡	宇都宮市茂原町	奈良～平安時代の集落跡
12	権現山北遺跡	宇都宮市茂原町	旧石器、弥生、古墳時代中期～後期の集落跡
13	権現山古墳	宇都宮市茂原町	古墳前期の前方後方墳(全長63m)
14	大日塚古墳	宇都宮市茂原町	古墳前期の前方後方墳(全長36.5m)
15	愛宕塚古墳	宇都宮市茂原町	古墳前期の前方後方墳(全長50m)
16	江前遺跡	宇都宮市茂原町	奈良～平安時代の集落跡
17	西の前遺跡	宇都宮市茂原町	奈良～平安時代の集落跡
18	前畑遺跡	宇都宮市茂原町	古墳～奈良時代の集落跡
19	小蓋遺跡	宇都宮市茂原町	奈良～平安時代の集落跡
20	西下谷田遺跡	宇都宮市茂原町	古墳前期、飛鳥・奈良時代の官衙関連遺跡
21	北原遺跡	下野市下古山	古墳～平安時代の集落跡
22	一本松遺跡	下野市下古山	奈良～平安時代の集落跡
23	向原南遺跡	上三川町上神主	弥生、古墳後期～平安時代の集落跡
24	後志部遺跡	上三川町上神主	弥生、古墳～平安時代の集落跡
25	神主古墳群	上三川町上神主・下神主	大型円墳(直径58m)、前方後円墳3基など
26	上ノ原遺跡	上三川町多功	弥生、奈良時代の集落跡
27	殿山遺跡	上三川町上神主	旧石器、弥生、古墳中期～平安時代の集落跡
28	大山遺跡	上三川町大山	古代末期の墓域
29	沼市遺跡	上三川町下神主	旧石器、古墳後期～平安時代の集落跡
30	後志部東遺跡	上三川町上神主	古墳～平安時代の集落跡
31	大山古墳群	上三川町大山	前方後円墳4基を含む
32	新出遺跡	上三川町大山	古墳～平安時代の集落跡
33	二の谷沼北遺跡	上三川町多功	奈良時代の集落跡
34	天神町北遺跡	上三川町多功	奈良～平安時代の集落跡
35	多功遺跡	上三川町多功	奈良～平安時代の官衙関連遺跡、集落跡
36	鋪飛内遺跡	上三川町多功	古墳～平安時代の集落跡
37	木田遺跡	上三川町多功	古墳～平安時代の集落跡
38	西州部西原遺跡	宇都宮市西州部町	古墳時代の古墳群、推定東山道跡
39	琴平塚古墳	宇都宮市平塚町	古墳後期の前方後方墳(全長52m)
40	磯岡北遺跡	宇都宮市砂田町	縄文、古墳～平安時代の集落跡、推定東山道跡
41	立野遺跡	宇都宮市東谷町	縄文・弥生・古墳中期～奈良時代の集落跡
42	権現山遺跡	宇都宮市東谷町	豪族居館関連、古墳中期～奈良時代の集落跡
43	杉村遺跡	宇都宮市砂田町	縄文・弥生・古墳中期～奈良時代の集落跡
44	原遺跡	宇都宮市東谷町	古墳～平安時代の集落跡

第1表 周辺の遺跡一覧(1)

No	遺跡名	所在地	時代と種類
45	西沼遺跡	宇都宮市平塚町	奈良～平安時代の集落跡
46	内野遺跡	宇都宮市西刑部町	古墳～平安時代の集落跡
47	西赤堀遺跡	上三川町西汗	旧石器・縄文・古墳後期の集落跡
48	双子塚古墳	宇都宮市東谷町	古墳時代の前方後円墳（墳長73m）
49	笹塚古墳	宇都宮市東谷町	古墳中期の前方後円墳（墳長105m）
50	鶴舞塚古墳	宇都宮市東谷町	古墳中期の円墳（直径53m）
51	百目鬼遺跡	宇都宮市東谷町	古墳中期～後期の集落跡
52	松の塚古墳	宇都宮市東谷町	古墳時代の円墳（直径約50m）
53	原古墳群	宇都宮市東谷町	古墳時代の円墳10基
54	権現塚古墳群	宇都宮市東谷町	古墳時代の円墳3基
55	車塚古墳群	宇都宮市東谷町	古墳時代の円墳5基
56	上石田遺跡	上三川町石田	古墳～平安時代の集落跡
57	西田遺跡	上三川町石田	古墳時代の集落跡
58	磯岡・西汗古墳群	上三川町西汗	古墳中期～後期の古墳群、前方後円墳数基など
59	西赤堀東遺跡	上三川町西汗	古墳～平安時代の集落跡
60	願成寺遺跡	上三川町上蒲生	古墳時代の集落跡
61	荒田古墳群	上三川町荒田	古墳時代の円墳2基
62	上蒲生古墳群	上三川町上蒲生	古墳時代の円墳4基
63	粕内遺跡	上三川町川中子	縄文・古墳時代の集落跡
64	島田遺跡	上三川町上三川	旧石器・縄文・古墳～平安時代の集落跡
65	上三川古墳群	上三川町上三川	古墳時代の古墳群

第2表 周辺の遺跡一覧（2）

古墳時代

古墳時代を迎えると遺跡数は飛躍的に増加する。まず古墳分布状況から見ると、本地域で最初に築造されるのが宇都宮市茂原の3つの前方後方墳（大日塚古墳（14）・愛宕塚古墳（15）・権現山古墳（13））である。これらの前期古墳に続くのが、神主古墳群（25）の主墳である直径58mの大型円墳・上神主浅間神社古墳であり、上神主・茂原官衙遺跡の南東に位置している。中期になると首長墓級の造営は田川を挟んで対岸の宇都宮市東谷地内に移り、墳長105mの大型前方後円墳である笹塚古墳（49）を主墳とした古墳群が出現する。これを契機に本地域一帯の本格的な開発が進んだものとみられ、後期にかけては、上三川町の大山古墳群（31）や磯岡・西汗古墳群（58）など、小規模前方後円墳や円墳を主体とする古墳群が各地域に広がっていったものとみられる。

一方集落跡の方も古墳とほぼ同様な展開がみられる。まず前期の集落跡は全体に少なめであるが、3つの前方後方墳が築かれた宇都宮市茂原地内の西下谷田遺跡では、15軒というまとまった数の竪穴住居跡が確認されている。中・後期になると集落跡は面的な広がりをもせるとともに、477軒の竪穴住居跡が確認された殿山遺跡（27）のような拠点集落も形成されるようになる。なお、宇都宮市の権現山遺跡（42）では、笹塚古墳と密接に関連するとみられる豪族居館跡が確認されている。

古代

古代になると集落跡数はさらに増加する。上神主・茂原官衙遺跡や茂原向原遺跡のように古墳時代後期から継続するものを中心に、奈良時代あたりから新たに現れる集落跡も相当数認められる。

ただし内容的には、宇都宮市の杉村遺跡(43)や立野遺跡(41)のように古墳時代後期より大きく規模を縮小する地域もみられる。

一方、古代河内郡の官衙関連遺跡として、上神主・茂原官衙遺跡を中心に西下谷田遺跡(20)と多功遺跡(35)の3遺跡が密接な関連性をもって展開している。上神主・茂原官衙遺跡は、人名文字瓦を多く出土することからかつては寺院跡と考えられてきたが、平成9年度から継続している宇都宮市教育委員会と上三川町教育委員会の合同調査により、正倉・政庁・館・厨等が整然と配置された状況が明らかとなり、河内郡衙の可能性が高くなっている。これに対し、7世紀後半・飛鳥期の造営と考えられる西下谷田遺跡の区画施設は、大型の掘立柱建物跡を配し八脚門跡が確認されていることなどから「評家」等の官衙施設と考えられている。また、多功遺跡では奈良～平安期の郡衙正倉級の掘立柱建物跡・地業建物跡が多数確認されており、同郡内とみられる上神主・茂原官衙遺跡との関係が注目されている。なお、上三川町の西赤堀遺跡(47)では、かつて整然と配置された掘立柱建物跡が確認され、「郷の倉院」の可能性が指摘されている。

本遺跡周辺では、推定東山道跡に関するルートも明らかになりつつある。なかでも宇都宮市東谷・中島地区の大規模開発による発掘調査では、西刑部西原遺跡(38)・磯岡北遺跡(40)・杉村遺跡(43)において総延長1.5kmにも及ぶ道路遺構が確認されている。さらにこの南南西延長上では、上神主・茂原官衙遺跡の南東コーナーを取り巻くような道路遺構が調査され、現在の宇都宮市と上三川町の境界線がほぼルートとなっていることが確認されている。なお、上神主・茂原官衙遺跡を過ぎると、多功遺跡(35)近くを経由し、下野薬師寺方面に南下するものと想定されている。

(参考文献)

- 前澤輝政「西赤堀遺跡」上三川町教育委員会 1975
「宇都宮の遺跡」宇都宮市教育委員会 1983
久保哲三ほか「下野茂原古墳群」宇都宮市教育委員会 1990
石部正志・秋元陽光「上神主浅間神社古墳・多功大塚山古墳」上三川町教育委員会 1994
大川清ほか「栃木県上三川町殿山遺跡」上三川町教育委員会 1995
秋元陽光ほか「上神主・茂原遺跡」上三川町教育委員会 1999
藤田典夫ほか「杉村・磯岡・磯岡北」栃木県教育委員会 2000
安永真一ほか「上神主・茂原 茂原原 北原東」栃木県教育委員会 2001
板橋正幸・田熊清彦「西下谷田遺跡」栃木県教育委員会 2003
田代 隆・藤田直也「東谷・中島地区遺跡群3 推定東山道関連地区」栃木県教育委員会2003
深谷 昇・梁木 誠「上神主・茂原官衙遺跡」上三川町教育委員会・宇都宮市教育委員会 2003
今平利幸「西下谷田遺跡 -古代編Ⅰ-」宇都宮市教育委員会 2007
今平利幸「西下谷田遺跡 -古代編Ⅱ-」宇都宮市教育委員会 2008
今平利幸「笹塚古墳」宇都宮市教育委員会 2012
深谷 昇・前原義之「上神主・茂原官衙遺跡Ⅱ」上三川町教育委員会・宇都宮市教育委員会 2015

II 上神主・茂原官衙遺跡

本遺跡の北関東自動車道側道（市道1791号線）建設地内で確認された遺構は、掘立柱建物跡15棟、長方形竪穴建物跡4棟、竪穴住居跡14軒、井戸跡1基、溝2条等である。なお、遺構番号は北関東自動車道本体建設地内（栃木県教育委員会担当）からの継続である。また、両地内にまたがって確認されたSB 48・SB 50については、栃木県教育委員会発行の報告書に掲載されている。

1 掘立柱建物跡

SB70（第7・8・62図）

概要：桁行4間×梁行2間の側柱式の南北棟建物で、南北の方位は $N-4^{\circ}-E$ である。南東の隅柱は、生活道路にかかったため未確認である。 **位置：**調査区の東端で、台地東縁の崖線付近に位置する。なお、東側柱列は、南方約12mの東西棟SB 40（県教委分）の東妻柱列とほぼ一致している。

規模・柱間寸法：桁行総長は9.15mで、柱間寸法は西側柱列が北から2.05+2.45+2.35+2.30m、東側柱列が北から2.30+2.15+2.35+x mである。梁行総長は4.75mで、柱間寸法は北妻柱列が西から2.50+2.25m、南妻柱列が西から2.30+x mである。面積は43.4㎡である。 **掘方：**平面形は0.60～0.90m×0.85～1.45mの長方形で、確認面からの深さは0.45～0.75mである。隅柱は建物の隅を切るように45度傾けているが、他は長辺を側列に沿って配している。確認されたすべての柱穴で柱痕跡が残っており、柱の太さは15～20cmである。 **出土遺物：**南棟持柱柱痕跡中から土師器の坏片、南西隅柱柱痕跡中から手捏ね土器が出土している。

SB71（第9・10図）

概要：桁行4間×梁行2間の側柱式の東西棟建物で、南北の方位は $N-3^{\circ}-E$ である。北側柱列の東2・3柱及び南側柱列の東2・3柱の4本は、後世の攪乱により消失したものである。 **位置：**台地上平坦面のほぼ中央部に位置し、西妻柱列は南方8.7mの南北棟SB 50（県教委分）の西側柱列とほぼ一致している。 **規模・柱間寸法：**桁行総長は11.30mで、柱間寸法は北側柱列の西一間が2.85m、南側柱列の西一間2.90mである。梁行総長は5.70mで、柱間寸法は西妻柱列が2.85m等間、東妻柱列が北から2.90+2.80mである。面積は64.4㎡である。 **掘方：**平面形は0.80～1.05m×0.95～1.50mの長方形で、確認面からの深さは0.65～0.90mである。隅柱は建物の隅を切るように45度傾けているが、他は長辺を側列に直交するように配している。多くの柱穴で柱痕跡が残っており、柱の太さは15～20cmである。 **出土遺物：**なし。

SB72（第9・10図）

概要：梁行2間の東西棟建物か。南北の方位は $N-2^{\circ}-E$ である。確認されたのは東妻柱列と思われる柱穴列で、他は後世の攪乱により消失したものである。 **位置：**SB71と重複するが、先後関係は不明である。 **規模・柱間寸法：**梁行総長は4.60mで、柱間寸法は北から2.00+2.60mである。 **掘方：**平面形は0.45～0.50m×0.55～0.65mの楕円形で、確認面からの深さは棟持柱が0.30mと浅く、他は0.65～0.75mである。なお、隅柱は建物の隅を切るように45度傾けている。いずれも柱痕跡を残しており、柱の太さは15cm前後である。 **出土遺物：**なし。

SB73A・B (第9・10図)

概要: A・B両棟とも桁行4間×梁行2間の側柱式の東西棟建物である。柱穴の重複はないが、ほぼ同型同大であることから位置を少しずらして建て替えたものとみられる。南北の方位はA棟がN-3°-E、B棟がN-2°-Eである。なお、A棟の北東隅柱がSB71の北側柱列西2柱を切っている。
位置: 台地上平坦面のほぼ中央部に位置し、SB71やSB72と重複又は並立する。
規模・柱間寸法: 桁行総長はA棟が8.80m・B棟が9.05mで、柱間寸法はA棟北側柱列が西から2.20+2.05+x+x m・B棟北側柱列が西から2.40+2.15+1.90+2.50m、A棟南側柱列が西から2.25+2.15+2.00+2.30m・B棟南側柱列が2.30+2.20+2.20+2.30mである。梁行総長はA棟が4.75m・B棟が4.80mで、柱間寸法はA棟西妻柱列が北から2.25+2.50m (B棟西妻柱列は棟持柱欠損) で、A棟東妻柱列が北から2.35+2.40m・B棟東妻柱列が北から2.40+2.35mである。面積はA棟41.8㎡・B棟43.4㎡で、B棟が僅かに大きい。
掘方: A・B両棟とも平面形は直径0.45～0.65mの円形で、確認面からの深さは0.40～0.75mである。確認された多くの柱穴で柱痕跡が残っており、柱の太さは15cm前後である。
出土遺物: なし。

SB91 (第11・12・61図)

概要: 桁行4間×梁行2間の側柱式の東西棟建物で、これを身舎として東面に3間分、南北両面の東半分は2間分の廂状柱穴 (ただし身舎東第2梁行列以外は柱筋が一致しない) が巡る特異な形態である。南北の方位はN-9°-Eである。
位置: 官衙域の西限と考えられるSD93寄り、東から西へと緩やかに下る斜面上に立地している。
規模・柱間寸法: 桁行総長は13.45 (南側) ～14.00 (北側) mと北側が長く、柱間寸法は南側柱列が西から2.75+2.85+2.50+2.60+2.80m、北側柱列が西から3.00+2.80+2.75+2.35+3.05mである。梁行総長は5.05mで、柱間寸法は西妻柱列が南から2.55+2.45m、東妻柱列が南から2.40+2.70mである。廂部は東面廂柱列が総長8.75m (柱間寸法は南から3.00+3.00+2.75m) で廂の出は1.15～1.40m、南面廂柱列が総長6.85m (柱間寸法は西から3.40+3.45m) で廂の出は1.80m、北面廂柱列が総長6.55m (柱間寸法は西から3.20+3.35m) で廂の出は1.95mである。なお、身舎の面積は69.2㎡、廂部を含めると100.2㎡である。
掘方: 身舎の柱穴は平面形が一辺0.85～1.25mの方形で、確認面からの深さは0.45～1.10m。また廂部の柱穴は平面形が一辺0.85～1.05mの方形で、確認面からの深さは0.30～0.55mと一回り小さい。確認され柱痕跡から柱の太さは身舎が20～25cm、廂部が15～20cmである。
出土遺物: 身舎北側柱列西3柱の掘方埋土中から土師器の甕片が出土している。

SB102 (第15図)

概要: 桁行4間×梁行2間の側柱式の東西棟建物で、南北の方位はN-5°-Eである。北西部は調査区外のため未確認である。
位置: 調査区のほぼ中央部に位置し、SB40 (県教委分) やSB71等の東西棟とほぼ軒を並べる。長方形竪穴建物跡SI99を切っている。
規模・柱間寸法: 桁行総長は11.20mで、柱間寸法は南側柱列で西から2.95+2.65+2.65+2.90mである。梁行総長は5.40mで、柱間寸法は東妻柱列で2.70m等間である。面積は推定で60.5㎡である。
掘方: 平面形は0.75～0.85m×0.85～1.35mの長方形で、隅柱は鉤の手状となる。確認面からの深さは0.35～0.80mである。確認されたすべての柱穴で柱痕跡が残っており、柱の太さは20cm前後である。なお、床面中央で確認された柱穴P1は、間仕切り等に伴うものと思われる。
出土遺物: なし。

SB103A・B (第16図)

概要: 桁行5間×梁行2間の側柱式の南北棟建物で、A棟から南西へ若干ずらしてB棟へ建て替えたものである。南北の方位はA棟がN-5°-E、B棟がN-7°-Eである。なお、南半分はB棟の南妻柱列を僅かに残して、擾乱により大きく消失している。 **位置:** 台地上平坦面のほぼ中央部に位置し、SB50やSB109の南北棟と棟を並べている。 **規模・柱間寸法:** 桁行総長はA棟が13.20m(推定)・B棟が13.05mで、柱間寸法はA棟東側柱列が北から2.65+2.50m+Xm・B棟東側柱列が北から2.45+2.50+Xm、A棟西側柱列が北から2.60+Xm・B棟西側柱列が北から2.55+Xmである。梁行総長はA棟が5.35m・B棟が5.20mで、柱間寸法はA棟北妻柱列が西から2.65+2.70m・B棟北妻柱列が西から2.55+2.65mで、A棟南妻柱列が西から2.80+Xmである。面積はA棟70.6㎡・B棟67.6㎡で、A棟が僅かに大きい。 **掘方:** 建て替え時の抜き取り等による変形はあるが、AB両棟とも基本的な平面形は一辺1.00～1.50mの方形と思われ、確認面からの深さはB棟で0.90～1.20mである。B棟で抜き取り穴や底面の柱アタリから推定すると、柱の太さは20cm前後である。 **出土遺物:** なし。

SB105 (第13・14図)

概要: 桁行5間×梁行2間の側柱式の南北棟建物で、南北の方位はN-1°-Eである。南妻側の棟持柱が調査区外で未確認であるが、他の建物の状況から桁行5間と考えた。 **位置:** 調査区西寄りで、台地が緩やかな西斜面にさしかかる部分に位置する。なお、東に2m弱に隣接するSB106とはほぼ棟を揃えているが、先後関係は不明。また、SI104を切りSB108には切られている。 **規模・柱間寸法:** 桁行総長は12.95mで、柱間寸法は西側柱列が北から(2.70)+2.50+2.50+2.75+2.50m、東側柱列が北から2.85+2.70+2.30+Xmである。梁行総長は5.30mで、柱間寸法は北妻柱列で推定2.65m等間である。面積は推定で68.6㎡である。 **掘方:** 平面形は一辺1.05～1.45mのほぼ方形で、確認面からの深さは0.85～1.25mである。柱はいずれも抜き取られていたが、確認されたアタリ等から太さは20cm前後とみられる。 **出土遺物:** なし。

SB106 (第13・14図)

概要: 桁行4間以上×梁行2間の側柱式の南北棟建物で、南北の方位はN-1°-Wである。南部が調査区外のため未確認であるが、他の建物の状況から桁行は5間と思われる。 **位置:** 調査区の西寄りに位置し、東側のSB105とはほぼ棟を揃えている。なお、SB107及びSB131に切られている。 **規模・柱間寸法:** 桁行総長は不明で、柱間寸法は西側柱列が北から2.70+2.60+Xm、東側柱列が北から(2.65)+2.60+2.70+Xmである。梁行総長は5.90mで、柱間寸法は北妻柱列で推定2.95m等間である。 **掘方:** 平面形は0.75～1.05m×1.10～1.25mの長方形で、確認面からの深さは0.65～0.95mである。柱はいずれも抜き取られていたが、確認されたアタリ等から太さは20cm前後とみられる。 **出土遺物:** なし。

SB107 (第13・14図)

概要: 桁行4間以上×梁行2間の側柱式の南北棟建物で、南北の方位はN-2°-Eである。北部が調査区外のため未確認であるが、他の建物の状況から桁行は5間と思われる。なお、南妻側の棟持柱は一本分外側に飛び出している。 **位置:** 調査区の西寄りに位置し、SI104及びSB106を切っている。 **規模・柱間寸法:** 桁行総長は不明で、柱間寸法は西側柱列が南から2.05+1.90+1.90+Xm、東側柱列が南から1.95+2.00+2.71+Xmである。梁行総長は5.20mで、柱間寸法は南妻柱列で推定

2.60m等間である。掘方：平面形は0.60～0.95m×0.90～1.25mの長方形で、確認面からの深さは0.55～0.80mである。ただし、南妻側棟持柱は一边0.75mの方形、また南東隅柱はL字型に近い。確認された柱痕跡等から太さは20cm前後とみられる。出土遺物：なし。

SB108 (第13・14図)

概要：桁行1間×梁行1間の南北棟建物で、南北の方位はN-1°-Wである。位置：SB107の北東部に位置し、これを切っている。規模・柱間寸法：桁行(南北)長1.85m、梁行(東西)長1.45mで、面積は2.7㎡と非常に小さい。掘方：平面形は0.55～0.65m×0.70～0.85mの楕円形で、確認面からの深さは0.35～0.45mである。梁行き(東西)方向が布掘り状の浅い溝(幅0.40～0.55m・深さ0.15～0.20m)で結ばれている。確認された柱痕跡等から太さは15cm前後とみられる。出土遺物：なし。

SB109 (第17図)

概要：桁行3間×梁行2間の側柱式の南北棟建物で、南北の方位はN-2°-Eである。位置：調査区のほぼ中央で、SB48(県教委分)のすぐ西側に棟を並べるように位置している。規模・柱間寸法：桁行総長は8.65(東側)～8.65(西側)mと西側がやや長く、柱間寸法は西側柱列が北から3.30+2.35+3.30m、東側柱列が北から3.10+2.35+3.20mであり、東西とも中央間が狭くなっている。梁行総長は4.90mで、両妻側とも2.45m等間である。面積は43.1㎡である。掘方：平面形は直径0.5m前後のほぼ円形(方形のものも若干みられる)で、確認面からの深さは0.50～0.85mである。いずれも柱痕跡が残っており、柱の太さは10～15cmである。出土遺物：なし。

SB131 (第13・14図)

概要：桁行1間×梁行1間の東西棟建物で、南北の方位はN-1°-Wである。位置：SB106のほぼ中程に位置し、これを切っている。規模・柱間寸法：桁行(東西)長4.95m、梁行(南北)長2.55mで、面積は12.6㎡である。掘方：平面形は直径0.40～0.55mのほぼ円形で、確認面からの深さは0.30～0.55mである。出土遺物：なし。

2 長方形竪穴建物跡

この建物跡は、本遺跡の北開東自動車道本体建設地内及び西隣の西下谷田遺跡でも確認された竪穴建物で、長方形で大型であることや煙道の長い竈を有することなどを特徴としている。一般の竪穴住居跡とは明らかに様相を異にするものであり、本調査区内では4棟が確認されている。

S199 (第20・21・58図)

概要：長大な南北棟の竪穴建物で、東壁南寄りに煙道の長い竈を有する。主軸の方位はN-3°-Eである。位置：調査区のほぼ中央部に位置し、SB102に切られている。規模：南北11.90m×東西5.50mで、確認面から床面までの深さは0.45mである。覆土：全体に小ロームブロックやローム粒の混入が多く、特に上層には焼土や粘土粒も多く含まれていた。人為的に短時間で埋め戻された可能性が高いと思われる。床面：ほぼ平坦で、竈の前面はかなり硬化していた。柱穴：主柱穴は南北2間×東西1間の6本(P1～5)とみられるが、北東隅はSB102の柱穴によって消失したものと思われる。柱穴はいずれも直径20～30cmの小さな円形で、深さも20～40cmと浅め

である。壁溝：幅20cm・深さ15cm前後の壁溝が全周する。間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴：確認されていない。竈：確認された煙道は幅40～45cmで、西壁から約2m切り込まれている。燃焼部から緩やかに立ち上った後、約1m水平となり、先端には煙出しに関わるとみられる小穴が掘られている。なお、埋土の状況から煙道部は白色粘土で覆われていたものとみられる。出土遺物：出土した遺物は少なく、図示し得たのは土師器環5点のみで、いずれも覆土中からの出土である。

S190 (第18・58図)

概要：南半部が調査区外のため未確認であるが、南北棟の長方形竪穴建物と思われる。主軸の方位はN-1°-Eである。位置：調査区西部の緩やかな斜面上に位置する。規模：東西4.80mで、南北は10m前後と推定される。確認面から床面までの深さは0.20mである。覆土：全体に小ロームブロックやローム粒の混入が多く、中層には焼土や炭化物も多く含まれていた。人為的に埋め戻された可能性が高いと思われる。床面：ほぼ平坦である。柱穴：主柱穴は3本(P1～3)確認されたが、全体の配置は南北2間×東西1間の6本であったものと思われる。柱穴はいずれも直径20～30cmの小さな円形で、深さも20～30cmと浅めである。壁溝：幅20cm・深さ10cm前後の壁溝が全周するものとみられる。間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴・竈：確認されていない。出土遺物：出土した遺物は少なく、図示し得たのは土師器の環7点・塊1点・甕1点で、いずれも床面又は覆土下層からの出土である。

S1100 (第22・23・62図)

概要：長大な南北棟の竪穴建物で、東壁南寄りに煙道の長い竈を有する。主軸の方位はN-2°-Eである。位置：調査区のほぼ中央部に位置し、S199の南約5mに軒を連ねるように並んでいる。規模：南北9.45m×東西4.60mで、確認面から床面までの深さは0.45mである。覆土：全体に小ロームブロックやローム粒の混入が多く、人為的に埋め戻された可能性が高いと思われる。床面：ほぼ平坦で、電付近はかなり硬化していた。柱穴：大きな攪乱のため確認された主柱穴はP1(直径25cm・深さ42cm)だけであるが、全体は6本主柱であったものとみられる。壁溝：幅15～20cm・深さ10cm前後の壁溝が全周する。間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴：確認されていない。竈：確認された煙道は幅0.70m幅掘りで、西壁からほぼ水平に2.70mほど切り込まれている。なお竈本体袖部には凝灰岩切石(第62図S1100-7)が芯として使用されている。出土遺物：図示し得たのは土師器の環3点・甕2点及び須恵器の蓋1点等で、いずれも覆土の中・下層からの出土である。なお、5の小型甕はS199竈内出土の破片と接合している。

S1104 (第19・63図)

概要：南半部が調査区外のため未確認であるが、南北棟の長方形竪穴建物と思われる。主軸の方位はN-5°-Eである。位置：調査区やや西寄りに位置し、SB105・SB107に切られている。規模：東西4.90mで、南北は10m前後と推定される。確認面から床面までの深さは0.45mである。覆土：全体に小ロームブロックや炭化物等が多く含まれており、人為的に埋め戻された可能性が高いと思われる。床面：ほぼ平坦である。中央部に小規模な炉跡状の焼土が確認されている。柱穴：確認されていない。壁溝：幅15cm前後・深さ5～10cmの壁溝が全周するものとみられる。間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴・竈：確認されていない。出土遺物：出土した遺物は少なく、図示し得たのは土師器環1点で、覆土上層からの出土である。

3 竪穴住居跡

S174 (第24・48図)

概要: やや小型の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-6°-Eである。位置: 調査区東端に位置し、台地東崖に面している。規模: 南北4.35mで、確認面から床面までの深さは0.65mである。覆土: 全体に小ロームブロックやローム粒の混入が多く、人為的に埋め戻された可能性が高いと思われる。床面: ほぼ平坦で、電前面から中央部はかなり硬化していた。柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴: 確認されていない。竈: 北壁のほぼ中央に位置するものとみられる。確認された煙道の切り込みは0.5m程と小さい。袖部は粘土とロームを混ぜた土で構築されたものとみられる。出土遺物: 遺物は少なく、図示し得たのは土師器高坏1点と、覆土中に混入した石斧1点である。

S175 (第25・49・52図)

概要: 今回確認された中で最も小型の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-10°-Eである。位置: 調査区の東端寄り、台地崖線まで10数mの地点。規模: 南北3.42m×東西2.85mで、確認面から床面までの深さは0.35mである。覆土: 自然堆積で、中層には瓦片が多く含まれていた。床面: ほぼ平坦で、電前面はかなり硬化していた。柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴: 確認されていない。竈: 位置は北壁のやや東寄り、壁を0.8mほど切り込んで燃焼部及び煙道が構築されている。袖はほぼ壁線上で、丸瓦や平瓦を「コ」の字状に組んで焚き口の補強としている。また燃焼部中央には支脚として平瓦が立てられている。出土遺物: 図示し得たのは土師器の坏1点・甕1点と瓦9点である。このうち文字瓦が4点確認され、3が「白マ立万呂」、8が「矢田マル戸」、9が「口男」、11が「白マ毛人」であり、いずれも男瓦の凸面にへら書きされたものである。

S176 (第26図)

概要: 南東コーナーのみが確認された竪穴住居跡で、主軸の方位はN-3°-Eか。位置: 調査区の東端寄りの北側で、大部分は調査区外である。規模: 大きさは不明で、確認面から床面までの深さは0.45mである。覆土: 自然堆積である。床面: ほぼ平坦であるとみられる。柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴・竈: 確認されていない。出土遺物: なし。

S177 (第28・29・48図)

概要: 大型方形の竪穴住居跡で、東壁南寄りに煙道の長い竈を有する。主軸の方位はN-4°-Eである。なお本住居跡は埋め戻された可能性が高く、竈や主軸方位等の共通性とも合わせ、長方形竪穴建物と関連するものとみられる。位置: 調査区の東寄りに位置し、東方約10mのSB70とは主軸方向が同じである。規模: 南北7.85m×東西7.90mのほぼ方形で、確認面から床面までの深さは0.50mである。覆土: 全体に小ロームブロックや焼土・炭化物の混入が多く、人為的に埋め戻された可能性が高いと思われる。なお、壁際には縦に伸びる黒褐色土がみられるが、一気に埋め戻されたため壁構築材が腐食して残ったものと思われる。床面: ほぼ平坦で、電付近はかなり硬化していた。なお中央部には南北に伸びる浅い凹み(南北3.70m×東西1.20m・深さ15cm)があり、底面には焼土の点在が確認されている。柱穴: 主柱穴はP1~4(直径35~80cm・深さ65~80cm)の4本で、P4以外は抜き取られているものとみられる。壁溝: 幅15~20cm・深さ10cm前後の壁溝が全周する。間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴: 確認されていない。竈: 煙道は幅0.5~0.6mで、西壁から緩やかな角度で2.0mほど切り込まれている。袖から天井部にかけては、褐色粘土で構

築かれた様子が良く残されている。 **出土遺物**：規模のわりには遺物は少なく、図示し得たのは土師器の坏3点・壺2点及び鉄滓1点で、土師器坏はいずれも電前面の床面からの出土である。

S178 (第31・48図)

概要：中規模な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-8°-Wである。 **位置**：調査区の東寄りに位置し、北半部がSD85に切られている。 **規模**：南北5.75m×東西5.65mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.35mである。 **覆土**：自然堆積である。 **床面**：ほぼ平坦で、電前面から中央部はかなり硬化している。 **柱穴**：主柱穴はP1~4（直径50~60cm・深さ60~85cm）の4本で、いずれもほぼ同じ位置で付け替えられたものとみられる。 **壁溝**：幅20~30cm・深さ10cm前後の壁溝が全周する。 **間仕切り溝**：東壁南寄りで、幅20cm・深さ15cmの溝が約1m確認されている。 **入口ピット**：南壁中央に、直径45cm・深さ20cmの小穴がみられる。 **貯蔵穴**：確認されていない。 **竈**：北壁のほぼ中央に位置し、壁を0.6m切り込んで煙道が築かれている。 **出土遺物**：遺物は比較的多く、図示し得たのは土師器の坏8点・高坏1点・壺2点及び鉄釘片3点・砥石1点・礫（編み物石か）11点で、いずれも覆土下層から床面の出土である。

S179 (第32~34・53・56図)

概要：今回確認された中で最も大型の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-8°-Wである。 **位置**：調査区の東寄りに位置し、後世の溝や水道管によってかなり攪乱を受けている。 **規模**：南北8.65m×東西8.75mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.50mである。 **覆土**：自然堆積である。 **床面**：ほぼ平坦で、電前面から中央部はかなり硬化している。 **柱穴**：主柱穴はP1~4（直径70~85cm・深さ60~90cm）の4本で、確認された柱痕跡から太さは15~20cmとみられる。 **壁溝**：幅20~30cm・深さ10cm前後の壁溝が全周する。四隅は径0.5~1m・深さ15~20cmの不整な凹みとなっている。 **間仕切り溝**：確認されていない。 **入口ピット**：南壁中央に、P6~8（直径20~30cm・深さ20cm前後）の3つの小穴が確認されている。P7とP8は対と思われる。 **貯蔵穴**：竈右手の北東コーナー寄りに位置する。70cm×95cmの長方形で、深さは65cm。少しずらして一度掘り替えられている。 **竈**：北壁のほぼ中央に位置し、壁を0.7m切り込んで煙道が築かれている。両袖の先端には凝灰岩の切石（第55図122）が立てられており、焚き口部を補強していたものとみられる。 **出土遺物**：遺物は比較的多く、図示し得たのは土師器の坏82点・高坏4点・壺7点・瓦1点・紡錘車1点・白玉1点及び礫（編み物石か）27点で、いずれも覆土下層から床面の出土である。なお、土師器坏のうち64点（24~87）は手捏ね風のものである。

S181 (第35・57図)

概要：中規模な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-11°-Wである。 **位置**：調査区の東寄りに位置し、SI82に切られている。 **規模**：南北5.75m×東西5.70mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.47mである。 **覆土**：全体に小ロームブロックや焼土・炭化物の混入が多く、人為的に埋め戻されたものとみられる。 **床面**：ほぼ平坦で、電前面から中央部はかなり硬化している。 **柱穴**：主柱穴はP1~4（直径40~55cm・深さ45~50cm）の4本で、確認された柱痕跡から太さは15cm前後とみられる。 **壁溝**：幅15~20cm・深さ10cm前後の壁溝が全周する。 **入口ピット**：南壁ほぼ中央に直径35cm・深さ40cmの小穴が確認されている。 **間仕切り溝**・**貯蔵穴**：確認されていない。 **竈**：北壁のほぼ中央に位置し、壁を0.5m切り込んで煙道が築かれている。焚き口付近には土師器破片が多く出土しており、補強材として使われていた可能性もある。 **出土遺物**：図示し得たのは土師器

の坏9点・鉢1点・甕5点及び須恵器坏1点・壺1点で、概ね覆土下層から床面の出土である。

S182 (第27・58図)

概要: 小型な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-2°-Wである。炭化材の状況から焼失家屋とみられる。**位置:** 調査区の東寄りに位置し、S181を切っている。**規模:** 南北3.45m×東西3.55mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.25mである。**覆土:** 自然堆積であり、覆土全体に焼土・炭化物が多く含まれている。**床面:** ほぼ平坦で、炭化材が放射状に散乱していた。**柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット:** 確認されていない。**貯蔵穴:** 竈右手・北東コーナー寄りに位置し、直径50cmの円形で深さは20cmである。**竈:** 北壁のやや東寄りに位置し、壁を0.6m切り込んで煙道が築かれている。**出土遺物:** 図示し得たのは須恵器の坏2点(内1点は墨書片)・蓋1点・甕1点及び瓦3点で、いずれも覆土下層から床面の出土である。

S183 (第36・58図)

概要: 中規模な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-8°-Wである。後世の溝や土取りによる攪乱を受けている。**位置:** 調査区の中央部に位置し、S195に切られている。**規模:** 南北5.40mで、東西は不明である。確認面から床面までの深さは0.50mである。**覆土:** 自然堆積である。**床面:** ほぼ平坦で、電前面から中央部はかなり硬化している。**柱穴:** 確認された主柱穴はP1~3(直径35~45cm・深さ50~75cm)の3本で、配置から4本主柱であったものとみられる。**壁溝:** 幅20cm・深さ10cm前後の溝が、北壁の西側のみで確認されている。**間仕切り溝・入口ピット:** 確認されていない。**貯蔵穴:** 竈右手・北東コーナー寄りに位置し、45cm×55cmで深さは45cmである。**竈:** 北壁のほぼ中央に位置し、壁を0.5m切り込んで煙道が築かれている。**出土遺物:** 図示し得たのは土師器の坏3点・鉢2点・埴1点・甕3点で、いずれも覆土中層から床面の出土である。

S188 (第37・59図)

概要: 小型な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-4°-E。後世の溝により攪乱を受けている。**位置:** 調査区のほぼ中央部に位置している。**規模:** 南北3.65m×東西4.05mのやや東西に長い長方形で、確認面から床面までの深さは0.50mである。**覆土:** 自然堆積である。**床面:** ほぼ平坦で、電前面は硬化している。**柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴:** 確認されていない。**竈:** 北壁のやや西寄りに位置し、壁を0.55m切り込んで煙道が築かれている。**出土遺物:** 図示し得たのは土師器の坏2点・須恵器の坏2点・高台坏1点及び瓦1点で、概ね覆土中からの出土である。

S189 (第38・第59~62図)

概要: かなり小型な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-2°-W。炭化材の出土状況から焼失家屋とみられる。**位置:** 調査区のほぼ中央部で、SB48(県教委分)を切っている。**規模:** 南北2.95m×東西3.50mのやや東西に長い長方形で、確認面から床面までの深さは0.40mである。**覆土:** 自然堆積であり、焼土・炭化物の混入が多くみられる。**床面:** ほぼ平坦で、電前面は硬化している。**柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴:** 確認されていない。**竈:** 北壁のやや東寄りに位置し、壁を「凸」字状に0.50m切り込んで煙道が築かれている。焚き口から燃焼部の内側には男瓦や女瓦が補強材として使用されている。**出土遺物:** 図示し得たのは須恵器坏3点・土師器甕1点・紡錘車1点及び瓦9点で、いずれも覆土中層から床面の出土である。このうち文字瓦が4点確認され、11が「足万呂」、12が「丈マ忍万呂」、13が「雀男」か、14が「酒万呂」とヘラ書きされている。

SI95 (第39・63図)

概要: 小型な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-2°-Wである。 **位置:** 調査区のほぼ中央部に位置し、SI83を切っている。 **規模:** 南北3.75m×東西3.80mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.53mである。 **覆土:** 自然堆積である。 **床面:** ほぼ平坦で、電前面から中央部はかなり硬化している。 **柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴:** 確認されていない。 **竈:** 北壁のほぼ中央に位置し、壁を0.3m切り込んで煙道が築かれている。 **出土遺物:** 出土遺物は比較的多く、図示し得たのは須恵器の坏5点・蓋1点、土師器の坏1点・壺2点及び瓦2点で、いずれも覆土下層から床面の出土である。

SI101 (第40・63図)

概要: 土取りの擾乱により南西コーナーのみが残った竪穴住居跡で、主軸の方位はN-7°-Wである。 **位置:** 調査区のやや西寄りに位置している。 **規模:** 平面規模は不明であるが、確認面から床面までの深さは0.50mである。 **覆土:** 自然堆積である。 **床面:** ほぼ平坦と思われる。 **壁溝:** 南壁下に幅20cm・深さ10cmほどの溝が一部確認されている。 **柱穴・間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴・竈:** 確認されていない。 **出土遺物:** 図示し得たのは土師器の壺1点である。

4 その他

井戸 (SE94) (第41図)

調査区西側の緩斜面上に掘られた平面楕円形の素掘りの井戸であり、SB91の北10mに位置する。平面形は開口部 (2.05×1.70m)・底面 (0.75×0.55m)とも楕円形で、断面はほぼ漏斗状となる。確認面からの深さは2.85mで、鹿沼軽石層を貫いている。覆土は自然堆積で、全体にロームブロックや鹿沼軽石粒等が多く含まれている。出土遺物は土師器の小片が若干確認されただけである。

土坑 (第41・62図)

SK80: 調査区のやや東寄り確認された土坑。平面形は1.40×1.25mの楕円形で、確認面からの深さは0.80mである。覆土上層より土師器坏2点が出土している。 **SK96:** 調査区東寄り、SI77近くで確認された土坑。平面形は0.85×0.80mのほぼ円形で、確認面からの深さは0.30mである。

SK132: 調査区中央部で確認された土坑で、北半分は調査区外。平面形は1.40×Xmの楕円形とみられ、確認面からの深さは0.75mである。 **SK131:** 調査区中央部、SB103のすぐ北で確認された土坑。平面形は1.85×1.40mの楕円形で、底面はすり鉢状となる。確認面からの深さは0.95mである。

溝 (第42図)

今回の調査で確認された溝はSD17・44 (以上は県教委分から継続)・84・85・86・87・92・93・97・98の10条である。これらの溝の大部分は、現・旧土地境に関連する近世以降のものと思われるが、SD17・92・93の3条については古代に遡る可能性が考えられる。

SD17: 調査区の中央部をほぼ南北に走る溝で、幅0.70～0.95m・深さ0.20～0.40mである。SB48やSI88等を切っているが、覆土からは須恵器・瓦片等が出土している (県教委分)。

SD93: 調査区西側の浅い谷部を臨むように南北に走る溝で、確認面における幅は0.90～2.30m・深さ0.20～0.30mである。後世の削平等により浅くはなっているが、位置的に官衙施設全体の西外郭溝と考えられるものである。 **SD92:** SD93のすぐ東側を南北に走る溝で、幅0.60～0.75m・深さ0.10～0.20mである。SD92と密接に関連する溝と思われる。

付 上神主・茂原官衙遺跡第26次確認調査

本発掘調査は、平成26年11～12月、遺跡の範囲・性格等の確認を目的として実施したものである。対象地区は北関東自動車道の北側約3,000㎡で、官衙の北限や北方建物群の展開状況の把握を目的としたものである。トレンチによる調査の結果、竪穴住居跡8軒・掘立柱建物跡1棟その他土坑等が確認されたが、北限を画すとみられる遺構は未確認である。

1 竪穴住居跡

SI203 (第43・64図)

概要:台地上やや西斜面寄りのトレンチにおいて、南辺が確認された竪穴住居跡である。 **規模:**東西5.05mで、確認面から床面までの深さは0.50mである。 **覆土:**若干後世の攪乱を受けているが、自然堆積である。 **床面:**ほぼ平坦である。 **柱穴:**トレンチ北壁に直径45cm・深さ35cmの小穴がみられるが、主柱穴であるかどうかは不明。 **出土遺物:**土師器甕2点・須恵器蓋1点・瓦1点で、いずれも覆土下層からの出土である。

SI206 (第44・64図)

概要:台地上平坦部のほぼ中央のトレンチにおいて確認された小型な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-10°-Eである。 **規模:**南北4.05m×東西4.00mで、確認面から床面までの深さは0.55mである。 **覆土:**自然堆積である。 **床面:**中央部に南北2.10m×東西1.85m・深さ10cm前後の浅い凹みがあるが、貼床されている。 **出土遺物:**土師器甕2点・須恵器壺1点(壺G)及び瓦2点で、いずれも覆土下層からの出土である。 **竈:**北壁のほぼ中央に位置し、壁を0.35m切り込んで煙道が築かれている。袖には凝灰岩の切石が使用されている。

SI207 (第45・64図)

概要:SI206のすぐ東から確認された竪穴住居跡である。 **規模:**南北3.15m～3.95mの不整形な方形で、確認面から床面までの深さは0.35mである。 **覆土:**自然堆積である。 **床面:**ほぼ平坦である。 **柱穴:**トレンチ北壁に直径45cm・深さ35cmの小穴がみられるが、主柱穴であるかどうかは不明。 **出土遺物:**土師器甕1点が出土している。

SI208 (第46・64図)

概要:SI206のすぐ南から確認されたやや大型の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-3°-Wである。 **規模:**南北5.35mで、確認面から床面までの深さは0.65mである。 **覆土:**自然堆積である。 **床面:**ほぼ平坦で、電前面から中央部は硬化している。 **柱穴:**東壁沿いで確認されたP1・2(直径25cm前後・深さ未確認)が主柱穴とみられる。 **竈:**北壁やや東寄りに位置するとみられ、壁を0.50m切り込んで煙道が築かれている。 **出土遺物:**須恵器高台付坏1点・平瓶1点・電形土製品1点で、いずれも覆土下層からの出土である。

SI209 (第47・64図)

概要:台地上東崖地寄りのトレンチにおいて確認された竪穴住居跡の北西コーナーである。 **規模:**東西3.70m以上で、確認面から床面までの深さは0.45mである。 **覆土:**自然堆積である。 **床面:**ほぼ平坦である。 **出土遺物:**土師器高坏1点・甕1点で、いずれも覆土下層からの出土である。

SI211 (第47・64図)

概要:台地上東崖地寄りのトレンチにおいて確認された竪穴住居跡の南壁である。規模:東西4.95mで、確認面から床面までの深さは0.65mである。覆土:攪乱を受けているが、自然堆積である。床面:ほぼ平坦である。柱穴:南壁沿いにP1~3(直径40cm前後・深さ未確認)の3つの小穴が確認されたが、位置的に主柱穴の可能性は低いとみられる。壁溝:確認された範囲では、幅20cm・深さ10cm前後の溝が全周している。出土遺物:土師器壘1点・須恵器環1点で、覆土下層からの出土である。

SI212 (第47・64図)

概要:台地上東崖地寄りのトレンチにおいて確認された竪穴住居跡の北東コーナーである。規模:大きさは不明で、確認面から床面までの深さは0.75mである。覆土:自然堆積である。床面:ほぼ平坦である。壁溝:確認された範囲では、幅20cm・深さ10cm前後の溝が全周している。出土遺物:土師器環2点で、いずれも覆土下層からの出土である。

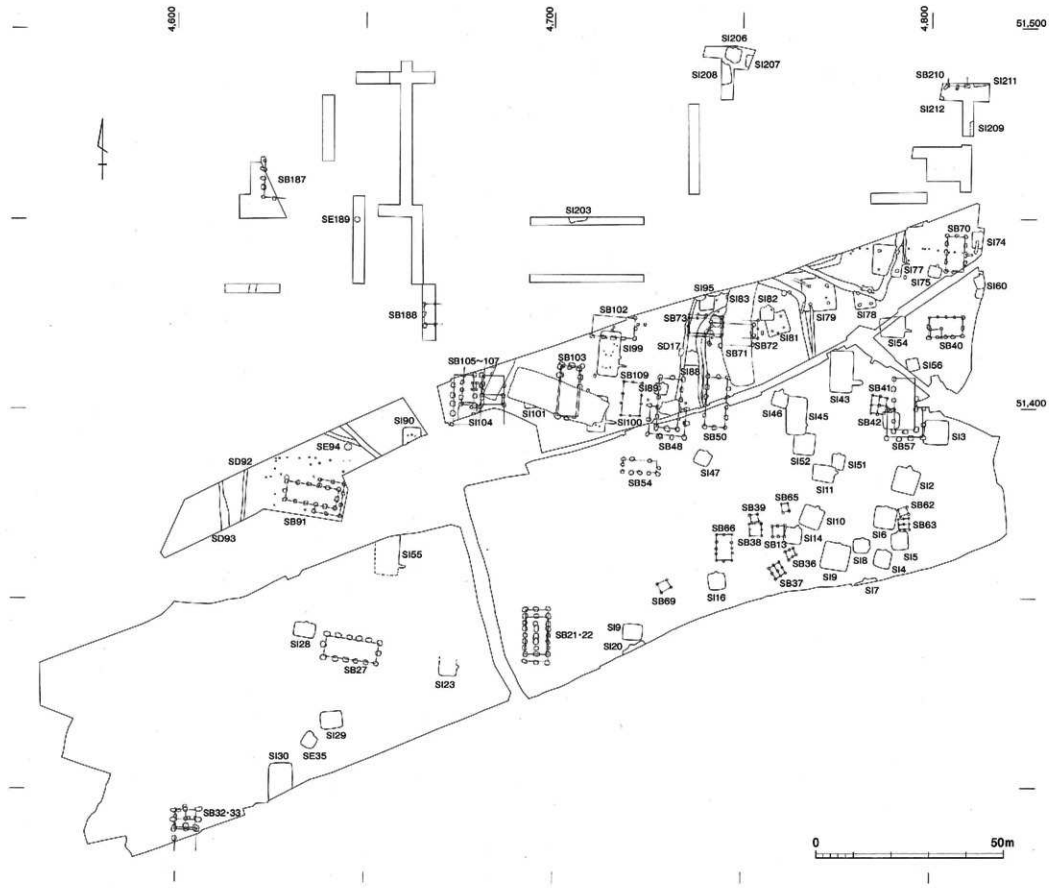
2 掘立柱建物跡

SB210 (第47図)

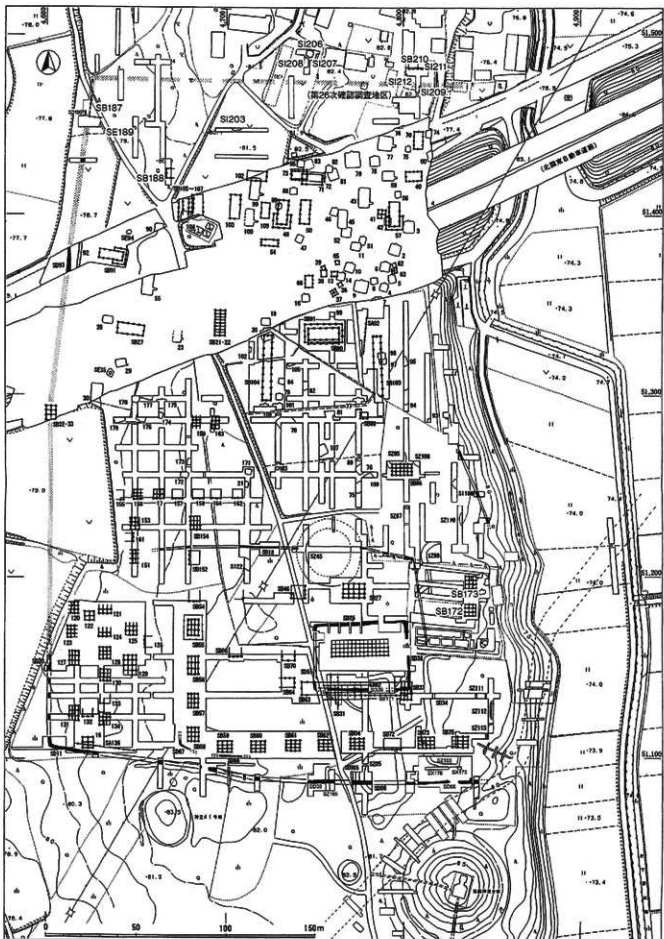
概要:台地上東崖地寄りのトレンチにおいて確認された掘立柱建物跡で、南側柱列とみられる部分が2間分確認されたものである。SI211側への展開が認められなかったことから、おそらく東西2間の南北棟建物と思われる、主軸方位はN-3°-Wである。規模・柱間寸法:東西(桁行)総長は5.20mで、柱間寸法は2.60m等間である。掘方:平面形は0.65~0.75m×1.40~1.55mの長方形で、確認面からの深さは0.65~0.85mである。南東隅柱で確認された柱痕跡から、柱の太さは20cm前後とみられる。出土遺物:なし。

3 土坑

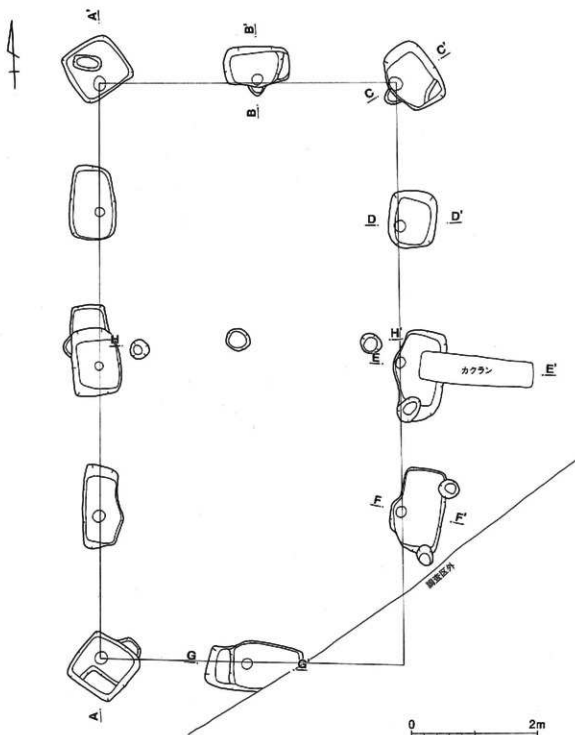
SK213 (第47図):SI209の西側で確認された土坑。平面形は直径2m以上の円形とみられ、確認面からの深さは0.65mである。 **SK214 (第47図):**SK213のすぐ北側で確認された土坑。平面形は直径1.05mの円形とみられ、確認面からの深さは0.47mである。 **SK215 (第47図):**SI209の北西コーナー近くで確認された土坑。平面形は長軸2.07m×短軸0.65mの南北に長い長方形で、確認面からの深さは0.65mである。 **SK216 (第47図):**SK215のすぐ北で確認された土坑。平面形は直径0.95mの円形とみられ、確認面からの深さは0.15mである。 **SK217 (第47図):**SK218のすぐ南で確認された土坑。平面形は0.95以上×0.75mの楕円形で、確認面からの深さは0.20mである。 **SK218 (第47図):**SB210の南側で確認された土坑。平面形は直径0.95mの円形で、確認面からの深さは0.25mである。 **SK219 (第45図):**SI207の南西コーナー付近で確認された土坑で、SI207に切られている。平面形は0.65以上×0.55mの楕円形で、確認面からの深さは0.10mと非常に浅い。



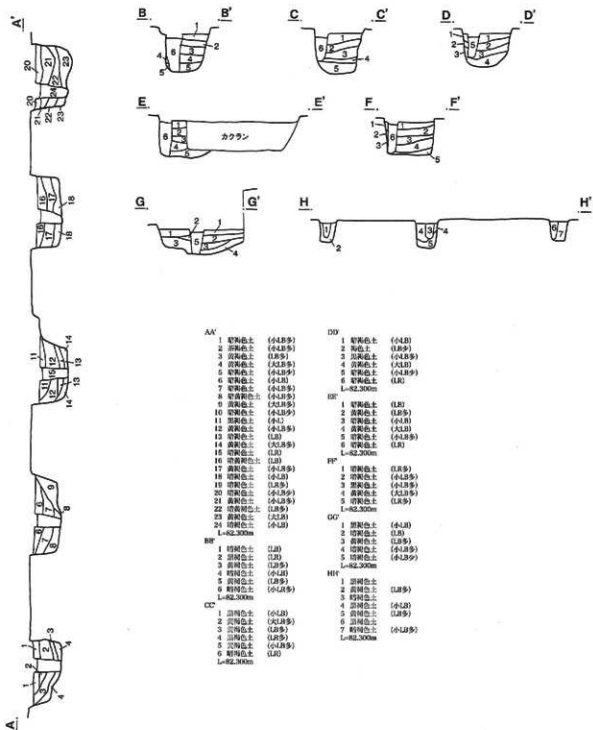
第5図 上神主・茂原宮術遺跡遺構配置図(1)



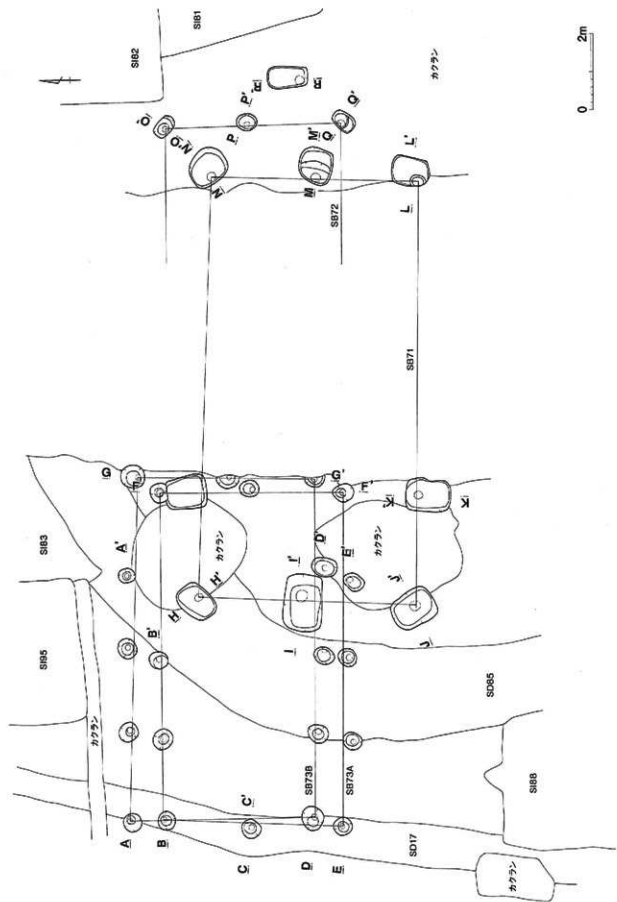
第6図 上神主・茂原官衙遺跡遺構配置図(2)



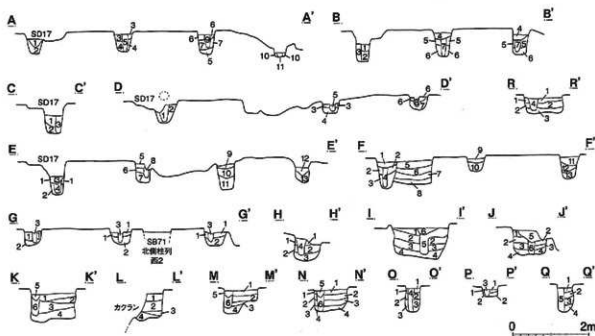
第7図 SB70実測図(1)



第8図 SB70実測図(2)



第9図 SB71~73実測図(1)

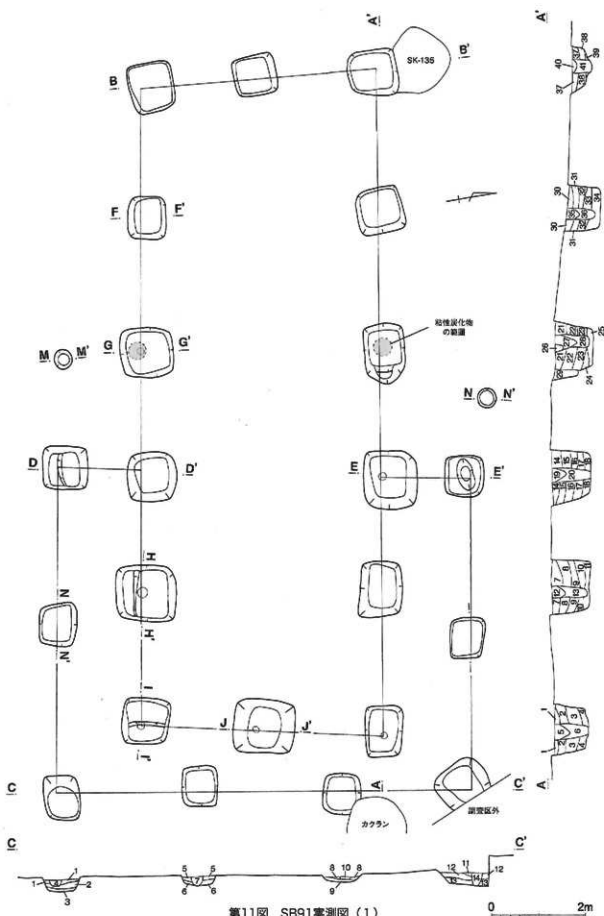


- AA'**
- 1 暗栗色土 (小L多)
 - 2 深褐色土 (小L多)
 - 3 暗栗色土 (L多)
 - 4 暗栗色土 (小L多)
 - 5 暗栗色土 (L多)
 - 6 暗栗色土 (L多)
 - 7 暗栗色土 (小L多)
 - 8 暗栗色土 (L多)
 - 9 暗栗色土 (ローム少, やわらか)
 - 10 暗栗色土 (L多)
 - 11 暗栗色土 (L多やわらか)
- BB**
- L=82.000m
- 1 黄褐色土 (小L多)
 - 2 暗栗色土 (L多)
 - 3 暗栗色土 (L多, やわらか)
 - 4 黄褐色土 (L多)
 - 5 暗栗色土 (小L多)
 - 6 暗栗色土 (L多)
 - 7 暗栗色土 (L多, やわらか)
- CC**
- L=82.000m
- 1 暗栗色土 (小L多)
 - 2 深褐色土 (小L多)
 - 3 暗栗色土 (小L多)
- DD**
- L=82.000m
- 1 暗栗色土 (L多)
 - 2 暗栗色土 (小L多)
 - 3 暗栗色土 (L多)
 - 4 暗栗色土 (小L多)
 - 5 暗栗色土 (L多, やわらか)
 - 6 暗栗色土 (L多)
 - 7 暗栗色土 (小L多)
 - 8 暗栗色土 (L多, やわらか)
- EE**
- L=82.000m
- 1 暗栗色土 (L多)
 - 2 暗栗色土 (小L多)
 - 3 暗栗色土 (L多)
 - 4 暗栗色土 (小L多)
 - 5 暗栗色土 (小L多)
 - 6 暗栗色土 (L多)
 - 7 暗栗色土 (L多)
 - 8 暗栗色土 (小L多)
 - 9 暗栗色土 (L多)
 - 10 暗栗色土 (小L多)
 - 11 暗栗色土 (L多)
 - 12 暗栗色土 (小L多)
 - 13 暗栗色土 (L多)
- L=82.000m

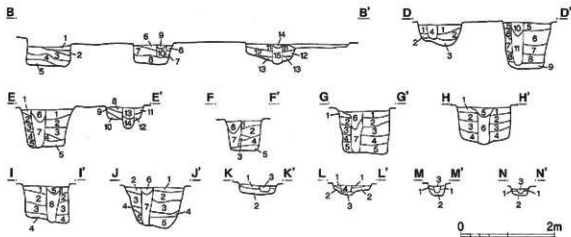
- FF**
- 1 暗栗色土 (小L多)
 - 2 暗栗色土 (L多)
 - 3 暗栗色土 (小L多)
 - 4 暗栗色土 (小L多, やわらか)
 - 5 暗栗色土 (小L多, L多)
 - 6 暗栗色土 (L多)
 - 7 暗栗色土 (小L多)
 - 8 暗栗色土 (L多)
 - 9 暗栗色土 (小L多)
 - 10 暗栗色土 (L多)
 - 11 暗栗色土 (L多)
 - 12 暗栗色土 (小L多)
 - 13 暗栗色土 (L多)
- L=82.000m
- GG**
- 1 暗栗色土 (L多)
 - 2 暗栗色土 (小L多)
 - 3 暗栗色土 (L多, やわらか)
- L=82.000m
- HH'**
- 1 暗栗色土 (小L多)
 - 2 暗栗色土 (L多)
 - 3 暗栗色土 (L多)
 - 4 暗栗色土 (小L多, やわらか)
- L=82.000m
- II**
- 1 暗栗色土 (L多)
 - 2 暗栗色土 (L多)
 - 3 暗栗色土 (小L多)
 - 4 暗栗色土 (小L多)
 - 5 暗栗色土 (小L多, やわらか)
 - 6 暗栗色土 (暗L多)
- L=82.000m
- JJ**
- 1 暗栗色土 (L多)
 - 2 暗栗色土 (小L多)
 - 3 暗栗色土 (小L多)
 - 4 暗栗色土 (L多)
 - 5 暗栗色土 (L多)
 - 6 暗栗色土 (暗L多, 数分強)
 - 7 暗栗色土 (L多, やわらか)
- L=82.000m
- KK**
- 1 暗栗色土 (L多)
 - 2 暗栗色土 (小L多)
 - 3 暗栗色土 (L多)
 - 4 暗栗色土 (小L多)
 - 5 暗栗色土 (暗L多)
 - 6 暗栗色土 (L多, やわらか)
- L=82.000m

- LL**
- 1 暗栗色土 (小L多)
 - 2 暗栗色土 (L多)
 - 3 暗栗色土 (小L多)
 - 4 暗栗色土 (L多)
- L=82.000m
- MM**
- 1 暗栗色土 (L多, 小L多)
 - 2 暗栗色土 (小L多)
 - 3 暗栗色土 (L多)
 - 4 暗栗色土 (小L多)
 - 5 暗栗色土 (暗L多)
 - 6 暗栗色土 (L多, やわらか)
- L=82.000m
- NN**
- 1 暗栗色土 (L多)
 - 2 暗栗色土 (小L多)
 - 3 暗栗色土 (L多)
 - 4 暗栗色土 (小L多)
 - 5 暗栗色土 (暗L多)
 - 6 暗栗色土 (L多, やわらか)
- L=82.000m
- OO'**
- 1 暗栗色土 (小L多)
 - 2 暗栗色土 (L多)
 - 3 暗栗色土 (小L多)
 - 4 暗栗色土 (L多, やわらか)
- L=82.000m
- PP**
- 1 暗栗色土 (小L多)
 - 2 暗栗色土 (L多)
 - 3 暗栗色土 (L多)
 - 4 暗栗色土 (小L多)
- L=82.000m
- QQ'**
- 1 暗栗色土 (小L多)
 - 2 暗栗色土 (L多)
 - 3 暗栗色土 (L多)
 - 4 暗栗色土 (小L多)
- L=82.000m
- RR**
- 1 暗栗色土 (L多)
 - 2 暗栗色土 (L多)
 - 3 暗栗色土 (L多)
 - 4 暗栗色土 (L多)
- L=82.000m

第10図 SB71~73実測図(2)



第11図 SB91実測図(1)

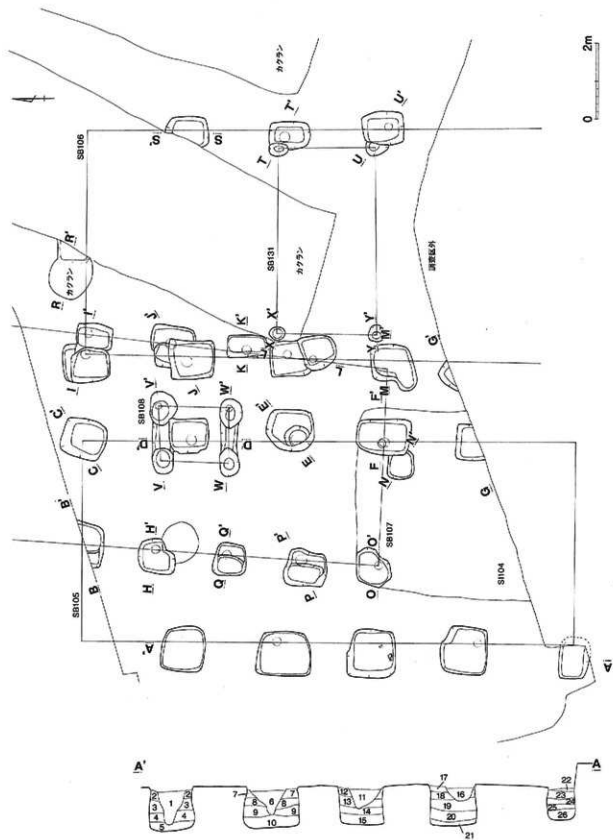


- AA'**
- 1 砂岩土 (LR)
 - 2 砂岩土 (LR少, 小L多)
 - 3 砂岩土 (LR多, LR少)
 - 4 砂岩土 (小L多)
 - 5 砂岩土 (LR少, 粘土数少)
 - 6 砂岩土 (LR少, 小L多)
 - 7 砂岩土 (小L, LR)
 - 8 砂岩土 (小L多, LR多)
 - 9 砂岩土 (小L多)
 - 10 砂岩土 (LR多)
 - 11 砂岩土 (小L多)
 - 12 砂岩土 (C, 粘土)
 - 13 砂岩土 (LR, 砂 4 2 6)
 - 14 砂岩土 (LR, 小L)
 - 15 砂岩土 (砂 3 5)
 - 16 砂岩土 (LR, LR)
 - 17 砂岩土 (LR多)
 - 18 砂岩土 (小L多)
 - 19 砂岩土 (LR少, 粘土 5, 砂 5)
 - 20 砂岩土 (小L, LR, 砂 5)
 - 21 砂岩土 (LR多, 小L多)
 - 22 砂岩土 (LR少, 小L多)
 - 23 砂岩土 (LR多, 小L多)
 - 24 砂岩土 (小L多)
 - 25 砂岩土 (LR少, 小L多)
 - 26 砂岩土 (粘土 7 5)
 - 27 砂岩土 (砂 3, 粘土, C, 砂 4 2 6)
 - 28 砂岩土 (LR少, 小L多, 砂 5 2 6)
 - 29 砂岩土 (LR, 小L, 砂 5 2 6)
 - 30 砂岩土 (LR多)
 - 31 砂岩土 (LR少, 小L多)
 - 32 砂岩土 (小L多)
 - 33 砂岩土 (LR多, 小L多)
 - 34 砂岩土 (LR, LR)
 - 35 砂岩土 (粘土数少, 粘土 5, 砂 4 2 6)
 - 36 砂岩土 (LR, 砂 5 2 6)
 - 37 砂岩土 (小L, LR)
 - 38 砂岩土 (LR多)
 - 39 砂岩土 (LR多)
 - 40 砂岩土 (C, 粘土数少)
 - 41 砂岩土 (LR, 砂 4 2 6)
- L=70,100m

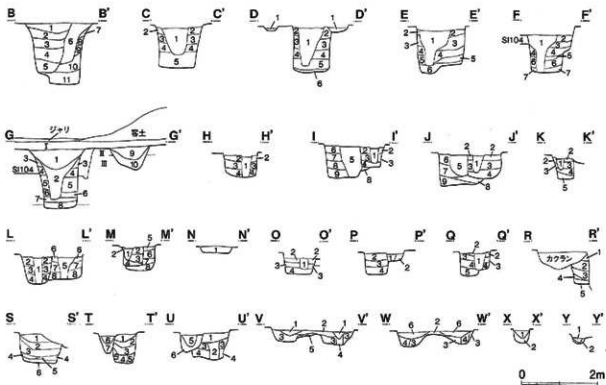
- CC'**
- 1 砂岩土 (LR, 小L)
 - 2 砂岩土 (小L多)
 - 3 砂岩土 (LR多)
 - 4 砂岩土 (LR少)
 - 5 砂岩土 (LR多)
 - 6 砂岩土 (小L多)
 - 7 砂岩土 (LR少)
 - 8 砂岩土 (LR, LR)
 - 9 砂岩土 (LR, 小L)
 - 10 砂岩土 (LR少)
 - 11 砂岩土 (LR少)
 - 12 砂岩土 (LR, 小L)
 - 13 砂岩土 (小L多)
 - 14 砂岩土 (LR, 砂 5 2 6)
- L=70,600m
- DD'**
- 1 砂岩土 (LR, 小L)
 - 2 砂岩土 (LR多)
 - 3 砂岩土 (小L)
 - 4 砂岩土 (LR多)
 - 5 砂岩土 (LR, 小L)
 - 6 砂岩土 (LR多, 小L多)
 - 7 砂岩土 (小L多)
 - 8 砂岩土 (LR多)
 - 9 砂岩土 (小L)
 - 10 砂岩土 (C, 粘土)
 - 11 砂岩土 (LR, 砂 5 2 6)
- L=70,100m
- EE'**
- 1 砂岩土 (LR, 小L)
 - 2 砂岩土 (小L多)
 - 3 砂岩土 (LR, LR)
 - 4 砂岩土 (LR多)
 - 5 砂岩土 (LR, 小L)
 - 6 砂岩土 (LR多, 粘土 5, 砂 4 2 6)
 - 7 砂岩土 (小L, LR)
 - 8 砂岩土 (LR少)
 - 9 砂岩土 (LR, 小L)
 - 10 砂岩土 (小L多)
 - 11 砂岩土 (LR多)
 - 12 砂岩土 (小L多)
 - 13 砂岩土 (LR)
 - 14 砂岩土 (小L多)
- L=70,100m
- FF'**
- 1 砂岩土 (LR多, 小L多)
 - 2 砂岩土 (小L多, LR多)
 - 3 砂岩土 (小L多)
 - 4 砂岩土 (LR多, 小L多)
 - 5 砂岩土 (小L多)
 - 6 砂岩土 (LR多, C多)
 - 7 砂岩土 (LR, 小L, 砂 5 2 6)
- L=70,100m

- GG'**
- 1 砂岩土 (LR多, 小L多)
 - 2 砂岩土 (LR, 小L)
 - 3 砂岩土 (LR多, 小L多)
 - 4 砂岩土 (LR多)
 - 5 砂岩土 (小L, LR)
 - 6 砂岩土 (C, 粘土)
 - 7 砂岩土 (LR少, 小L多, 砂 4 2 6)
- L=70,100m
- HH'**
- 1 砂岩土 (LR, 小L)
 - 2 砂岩土 (LR多, 小L多)
 - 3 砂岩土 (LR多)
 - 4 砂岩土 (LR多, 小L多)
 - 5 砂岩土 (C, 粘土)
 - 6 砂岩土 (LR少, 小L多, 砂 4 2 6)
- L=70,100m
- II'**
- 1 砂岩土 (小L多, LR多)
 - 2 砂岩土 (小L, LR)
 - 3 砂岩土 (小L多)
 - 4 砂岩土 (LR多)
 - 5 砂岩土 (LR, 粘土, C)
 - 6 砂岩土 (LR少, 小L多, 砂 4 2 6)
- L=70,100m
- JJ'**
- 1 砂岩土 (LR, 小L)
 - 2 砂岩土 (小L)
 - 3 砂岩土 (小L多, LR多)
 - 4 砂岩土 (小L多)
 - 5 砂岩土 (LR多)
 - 6 砂岩土 (LR少, C, 粘土数少)
 - 7 砂岩土 (LR少, 小L多)
- L=70,100m
- KK'**
- 1 砂岩土 (LR多)
 - 2 砂岩土 (LR, 小L)
 - 3 砂岩土 (LR少)
 - 4 砂岩土 (LR多)
- L=70,100m
- LL'**
- 1 砂岩土 (LR多)
 - 2 砂岩土 (LR, 小L)
 - 3 砂岩土 (小L多)
 - 4 砂岩土 (LR, 砂 5 2 6)
- L=70,200m
- MM'**
- 1 砂岩土 (LR少, 中L数)
 - 2 砂岩土 (小L)
 - 3 砂岩土 (LR多)
- L=70,100m
- NN'**
- 1 砂岩土 (LR少)
 - 2 砂岩土 (小L)
 - 3 砂岩土 (C, 粘土数少)
- L=70,100m

第12图 SB91实测图 (2)

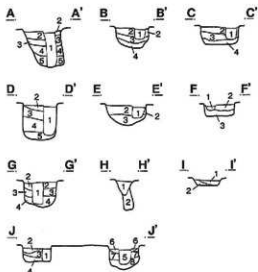
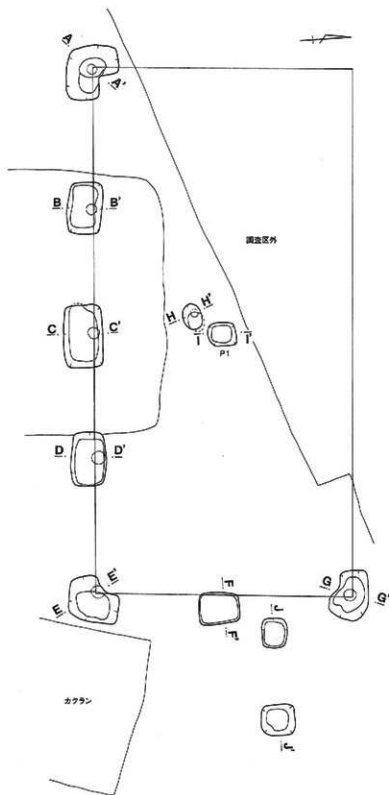


第13図 SB105~107実測図(1)



- AA' 1 礫岩礫土 (L.R. 小ロ-A, C, C'ロ-Aロ-A)
- 2 礫岩土 (小L)
- 3 礫岩礫土 (L.R.)
- 4 礫岩礫土 (L.R.)
- 5 礫岩礫土 (L.R.)
- 6 礫岩礫土 (L.R. 小L, C)
- 7 礫岩礫土 (L.R.)
- 8 礫岩土 (L.R. 主層)
- 9 礫岩礫土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R. 主層)
- 11 礫岩礫土 (C, D, L.R. 小L, 少, 中ロ-Aロ-A)
- 12 礫岩礫土 (L.R. 主層)
- 13 礫岩土 (L.R. 主層)
- 14 礫岩礫土 (L.R. 主層)
- 15 礫岩土 (L.R. 主層)
- 16 礫岩礫土 (L.R. C, 中ロ-Aロ-A)
- 17 礫岩土 (L.R.)
- 18 礫岩礫土 (L.R.)
- 19 礫岩土 (L.R. 主層)
- 20 礫岩土 (L.R. 主層)
- 21 礫岩礫土 (L.R.)
- 22 礫岩土 (小L)
- 23 礫岩礫土 (L.R. 主層)
- 24 礫岩礫土 (小L)
- 25 礫岩礫土 (L.R.)
- 26 礫岩土 (L.R. 主層)
- L=80.400m
- BB' 1 礫岩土 (L.R.)
- 2 礫岩礫土 (小ロ-A, C, D)
- 3 礫岩礫土 (小L, D)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R. 主層)
- 6 礫岩土 (L.R. 小L)
- 7 礫岩土 (L.R. 主層)
- 8 礫岩礫土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R.)
- 11 礫岩土 (L.R.)
- L=80.400m
- CC' 1 礫岩礫土 (L.R., C)
- 2 礫岩土 (小ロ-A, D)
- 3 礫岩礫土 (L.R.)
- 4 礫岩礫土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R. 主層)
- L=80.400m
- DD' 1 礫岩礫土 (L.R., C, D)
- 2 礫岩土 (小L, D)
- 3 礫岩土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R. 主層)
- L=80.400m
- EE' 1 礫岩礫土 (L.R., 中ロ-Aロ-A)
- 2 礫岩土 (小L, 主層)
- 3 礫岩礫土 (小ロ-A, 主層)
- 4 礫岩土 (L.R. 主層)
- 5 礫岩土 (L.R. 主層)
- 6 礫岩土 (L.R.)
- 7 礫岩土 (L.R. 主層)
- 8 礫岩土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- FF' 1 礫岩礫土 (L.R., 中ロ-A, C, 中L, 主層)
- 2 礫岩土 (小L, D)
- 3 礫岩礫土 (小L, L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R.)
- 6 礫岩土 (L.R. 主層)
- 7 礫岩土 (小L)
- L=80.400m
- GG' 1 礫岩土 (L.R., 中L, C)
- 2 礫岩土 (小L, D)
- 3 礫岩土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R. 主層)
- 5 礫岩土 (L.R.)
- 6 礫岩土 (L.R.)
- 7 礫岩土 (L.R.)
- 8 礫岩土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R.)
- L=80.400m
- HH' 1 礫岩礫土 (L.R., 中ロ-Aロ-A)
- 2 礫岩土 (小L, D)
- 3 礫岩土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R. 主層)
- 5 礫岩土 (L.R. 主層)
- 6 礫岩土 (L.R. 主層)
- 7 礫岩土 (L.R. 主層)
- 8 礫岩土 (L.R. 主層)
- 9 礫岩土 (L.R. 主層)
- 10 礫岩土 (L.R. 主層)
- L=80.400m
- II' 1 礫岩礫土 (L.R.)
- 2 礫岩土 (L.R.)
- 3 礫岩礫土 (小L, D)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R.)
- 6 礫岩土 (L.R.)
- 7 礫岩土 (L.R. 主層)
- 8 礫岩土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R.)
- L=80.400m
- KK' 1 礫岩礫土 (L.R.)
- 2 礫岩土 (L.R.)
- 3 礫岩礫土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R.)
- 6 礫岩土 (L.R.)
- 7 礫岩土 (L.R.)
- 8 礫岩土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R.)
- L=80.400m
- LL' 1 礫岩礫土 (L.R.)
- 2 礫岩土 (L.R.)
- 3 礫岩礫土 (小L, D)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R.)
- 6 礫岩土 (L.R.)
- 7 礫岩土 (L.R. 主層)
- 8 礫岩土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R.)
- L=80.400m
- MM' 1 礫岩礫土 (小L, D)
- 2 礫岩土 (L.R.)
- 3 礫岩土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R.)
- 6 礫岩土 (L.R.)
- 7 礫岩土 (L.R.)
- 8 礫岩土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R.)
- L=80.400m
- NN' 1 礫岩礫土 (L.R.)
- 2 礫岩土 (L.R.)
- 3 礫岩土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R.)
- 6 礫岩土 (L.R.)
- 7 礫岩土 (L.R.)
- 8 礫岩土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R.)
- L=80.400m
- OO' 1 礫岩土 (L.R.)
- 2 礫岩土 (L.R.)
- 3 礫岩土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R.)
- 6 礫岩土 (L.R.)
- 7 礫岩土 (L.R.)
- 8 礫岩土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R.)
- L=80.400m
- PP' 1 礫岩礫土 (L.R., 中ロ-Aロ-A)
- 2 礫岩土 (小L, D)
- 3 礫岩礫土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R. 主層)
- L=80.400m
- QQ' 1 礫岩礫土 (L.R., 中ロ-Aロ-A)
- 2 礫岩土 (小L, 主層)
- 3 礫岩土 (小L, 主層)
- 4 礫岩土 (L.R. 主層)
- 5 礫岩土 (L.R. 主層)
- L=80.400m
- RR' 1 礫岩礫土 (L.R.)
- 2 礫岩土 (小L, D)
- 3 礫岩土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R. 主層)
- 6 礫岩土 (L.R. 主層)
- L=80.400m
- SS' 1 礫岩土 (L.R.)
- 2 礫岩土 (L.R.)
- 3 礫岩土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R.)
- 6 礫岩土 (L.R.)
- 7 礫岩土 (L.R.)
- 8 礫岩土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R.)
- L=80.400m
- TT' 1 礫岩礫土 (L.R., 小L)
- 2 礫岩土 (L.R.)
- 3 礫岩土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R.)
- 6 礫岩土 (L.R.)
- 7 礫岩土 (L.R.)
- 8 礫岩土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R.)
- L=80.400m
- UU' 1 礫岩礫土 (L.R., 中ロ-Aロ-A)
- 2 礫岩土 (小L, D)
- 3 礫岩土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R.)
- 6 礫岩土 (L.R.)
- 7 礫岩土 (L.R.)
- 8 礫岩土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R.)
- L=80.400m
- VV' 1 礫岩礫土 (L.R., 中ロ-Aロ-A)
- 2 礫岩土 (小L, D)
- 3 礫岩土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R.)
- 6 礫岩土 (L.R.)
- 7 礫岩土 (L.R.)
- 8 礫岩土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R.)
- L=80.400m
- WW' 1 礫岩礫土 (L.R., 中ロ-Aロ-A)
- 2 礫岩土 (小L, D)
- 3 礫岩土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R.)
- 6 礫岩土 (L.R.)
- 7 礫岩土 (L.R.)
- 8 礫岩土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R.)
- L=80.400m
- XX' 1 礫岩土 (L.R.)
- 2 礫岩土 (L.R.)
- 3 礫岩土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R.)
- 6 礫岩土 (L.R.)
- 7 礫岩土 (L.R.)
- 8 礫岩土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R.)
- L=80.400m
- YY' 1 礫岩土 (L.R.)
- 2 礫岩土 (L.R.)
- 3 礫岩土 (L.R.)
- 4 礫岩土 (L.R.)
- 5 礫岩土 (L.R.)
- 6 礫岩土 (L.R.)
- 7 礫岩土 (L.R.)
- 8 礫岩土 (L.R.)
- 9 礫岩土 (L.R.)
- 10 礫岩土 (L.R.)
- L=80.400m

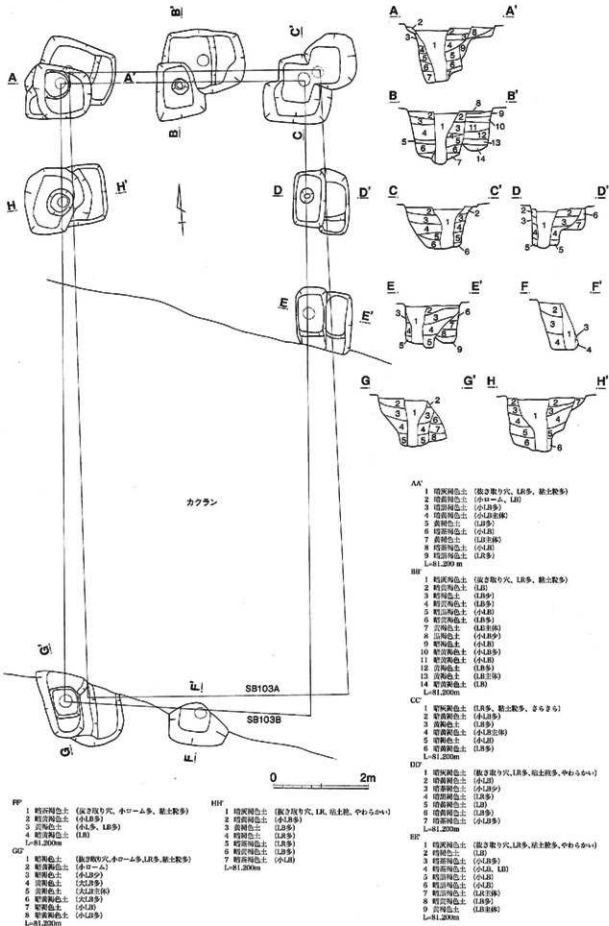
第14圖 SB105~107実測圖 (2)



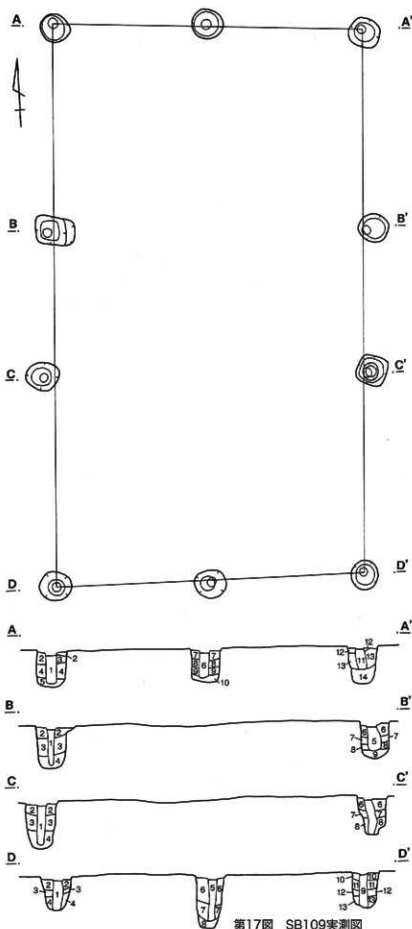
- AA'
- 1 礫層色土 (L.R.多, 3.5.2.4)
 - 2 泥炭層色土 (A.L.層)
 - 3 泥炭層色土 (A.L.層多, 1.2.5)
 - 4 腐土 (A.L.層)
 - 5 礫層色土 (L.R. 4.1.1)
 - L=81.500m
- BB'
- 1 礫層色土 (L.R.多, 3.5.2.4)
 - 2 泥炭層色土 (A.L.層)
 - 3 泥炭層色土 (A.L.層多, 1.2.5)
 - 4 泥炭層色土 (A.L.層中多)
 - L=81.600m
- CC'
- 1 礫層色土 (L.R. 2.5.2.4)
 - 2 泥炭層色土 (A.L.層)
 - 3 礫層色土 (A.L.層)
 - 4 礫層色土 (A.L.層中多)
 - L=81.600m
- DD'
- 1 礫層色土 (L.R.多, 3.5.2.4, 上部に粘土附層)
 - 2 礫層色土 (A.L.層)
 - 3 泥炭層色土 (A.L.層多)
 - 4 礫層色土 (A.L.層中多)
 - 5 泥炭層色土 (A.L.層多)
 - L=81.500m
- EE'
- 1 礫層色土 (L.R.多, 3.5.2.4)
 - 2 礫層色土 (A.L.層)
 - 3 礫層色土 (A.L.層多)
 - L=81.200m
- FF'
- 1 礫層色土 (L.R. 4.1.5.4)
 - 2 泥炭層色土 (A.L.層)
 - 3 礫層色土 (A.L.層多)
 - L=81.500m
- GG'
- 1 礫層色土 (L.R.多, 3.5.2.4)
 - 2 礫層色土 (A.L.層)
 - 3 礫層色土 (A.L.層中多)
 - 4 泥炭層色土 (A.L.層多)
 - L=81.500m
- HH'
- 1 礫層色土 (A.L.層)
 - 2 礫層色土 (L.R.多, 3.5.2.4)
 - L=81.500m
- II'
- 1 礫層色土 (A.L.層)
 - 2 礫層色土 (L.R.多)
 - L=81.500m
- JJ'
- 1 礫層色土 (L.R.多, 3.5.2.4, 上部に粘土附層)
 - 2 泥炭層色土 (A.L.層)
 - 3 礫層色土 (A.L.層)
 - 4 泥炭層色土 (A.L.層)
 - 5 礫層色土 (L.R. 2.5.2.4, 上部に粘土附層)
 - 6 腐土 (A.L.層)
 - 7 礫層色土 (A.L.層)
 - 8 泥炭層色土 (A.L.層多)
 - L=81.500m

第15図 SB102実測図

0 2m



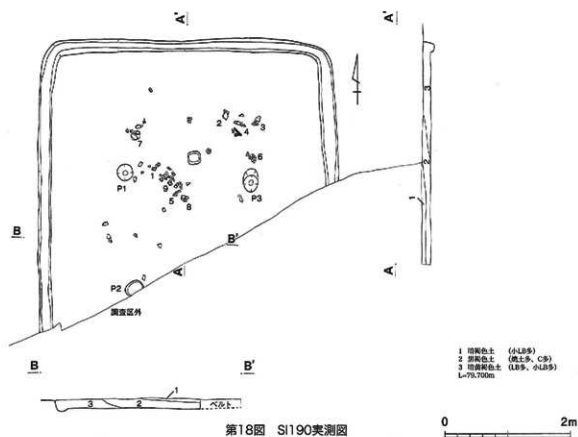
第16図 SB103実測図



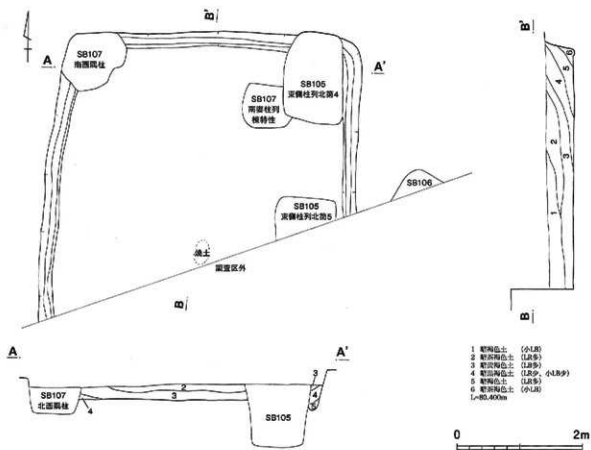
第17図 SB109実測図

- AA'
- 1 紫褐色土 (灰まじり多)
 - 2 赤褐色土 (大土塊多)
 - 3 褐色土 (小土塊多)
 - 4 暗褐色土 (小土塊多)
 - 5 暗褐色土 (大土塊多)
 - 6 紫褐色土 (灰多)
 - 7 褐色土 (灰 1 層より多)
 - 8 赤褐色土 (小土塊多)
 - 9 紫褐色土 (小土塊多)
 - 10 紫褐色土 (ローム層)
 - 11 褐色土 (灰層)
 - 12 暗褐色土 (小土塊多)
 - 13 紫褐色土 (ローム層)
 - 14 赤褐色土 (小土塊多)
- L=81.500m
- BB'
- 1 褐色土 (小土塊多)
 - 2 紫褐色土 (大土塊多)
 - 3 暗褐色土 (灰多)
 - 4 紫褐色土 (ローム層)
 - 5 暗褐色土 (小土塊多)
 - 6 暗褐色土 (ローム層)
 - 7 紫褐色土 (大土塊)
 - 8 紫褐色土 (大土塊ロームの塊)
 - 9 褐色土 (灰多)
- L=81.500
- CC'
- 1 褐色土 (灰多)
 - 2 紫褐色土 (小土塊多)
 - 3 紫褐色土 (大土塊多)
 - 4 紫褐色土 (ローム層)
 - 5 褐色土 (灰多)
 - 6 紫褐色土 (灰層)
 - 7 紫褐色土 (小土塊多)
 - 8 紫褐色土 (灰多)
- L=81.500
- DD'
- 1 褐色土 (灰まじり多)
 - 2 紫褐色土 (灰層)
 - 3 褐色土 (灰多、大土塊)
 - 4 紫褐色土 (ローム層)
 - 5 褐色土 (灰多)
 - 6 紫褐色土 (小土塊多)
 - 7 褐色土 (小土塊多)
 - 8 紫褐色土 (ローム層)
 - 9 紫褐色土 (小土塊多)
 - 10 紫褐色土 (大土塊多、小土塊多)
 - 11 褐色土 (大土塊多)
 - 12 紫褐色土 (ローム層)
 - 13 紫褐色土 (ローム層)
- L=81.500m

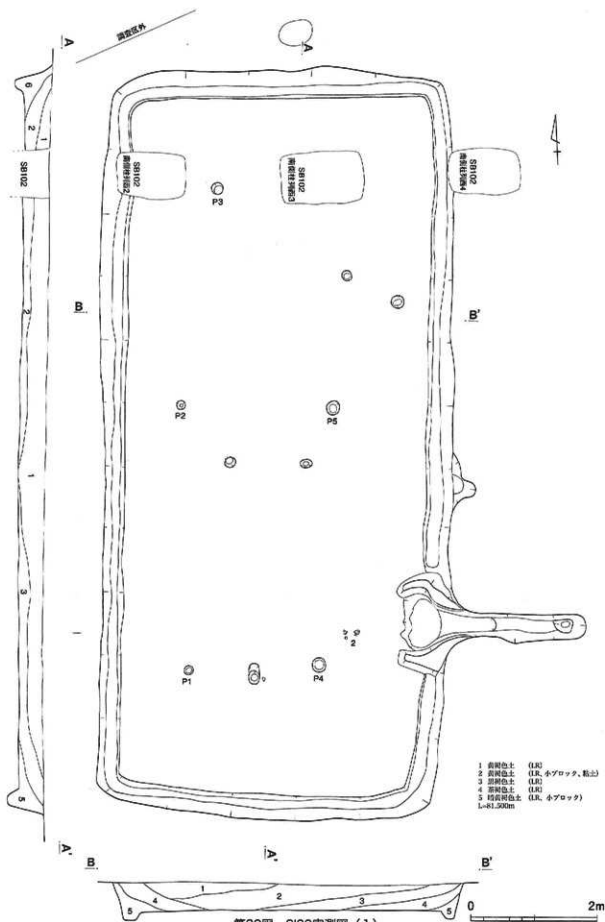
0 2m



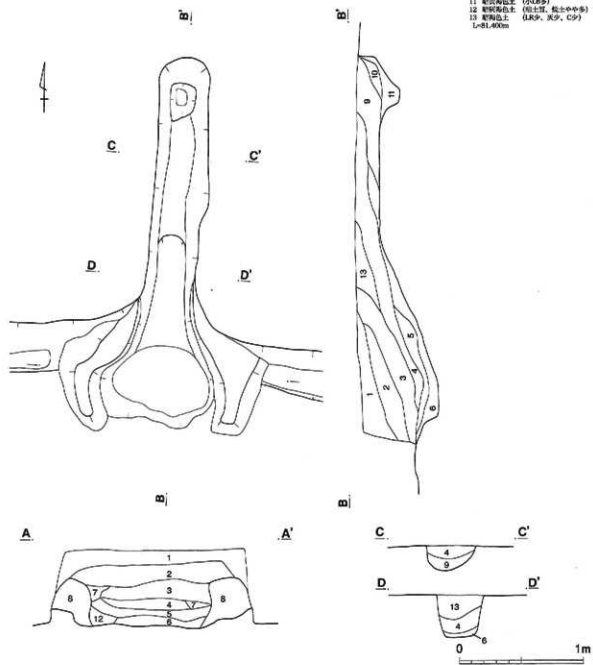
第18图 SI190実測図



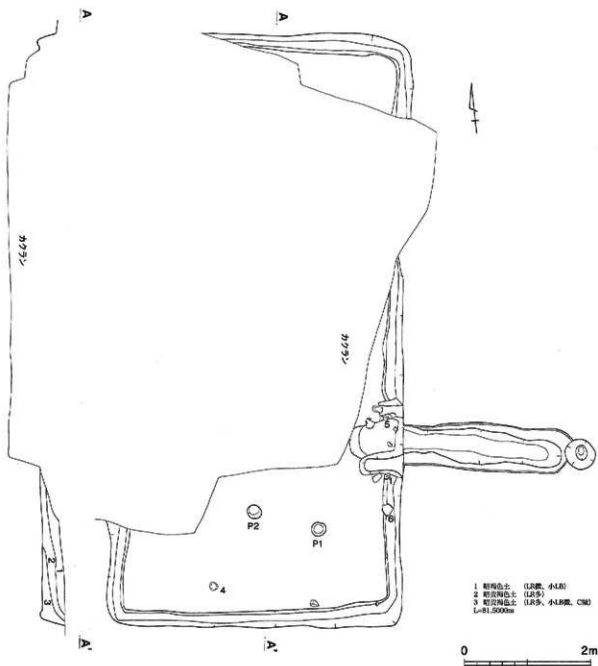
第19图 SI104実測図



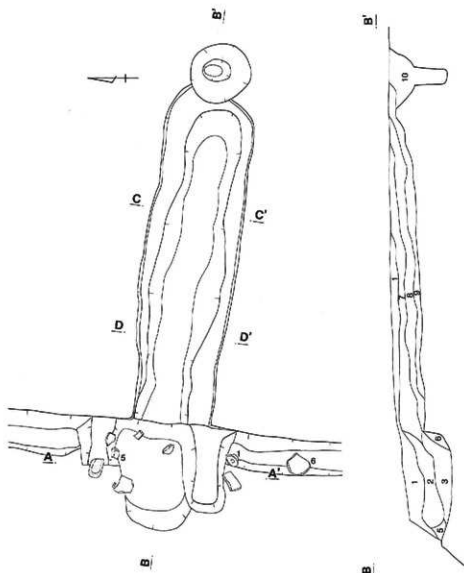
- 1 紫泥海泡土 (L, 小山)
 - 2 泥质土 (小A-A, C, 粘土层)
 - 3 紫泥海泡土 (L, 粘土, 粘土层)
 - 4 紫泥海泡土 (粘土层)
 - 5 紫泥海泡土 (粘土层, 小山层)
 - 6 泥质土 (L, 粘土)
 - 7 泥质土 (粘土中心)
 - 8 紫泥海泡土 (泥质土)
 - 9 紫泥海泡土 (粘土层, 粘土层, C, 砂)
 - 10 紫泥海泡土 (粘土层, C, 砂)
 - 11 紫泥海泡土 (小山层)
 - 12 紫泥海泡土 (粘土层, 粘土中心层)
 - 13 泥质土 (L, 粘土, 粘土层, C, 砂)
- 1:61, 400m



第21图 S199实测图(2)

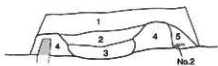


第22图 SI100实测图(1)



A

A'



C

C'



D

D'

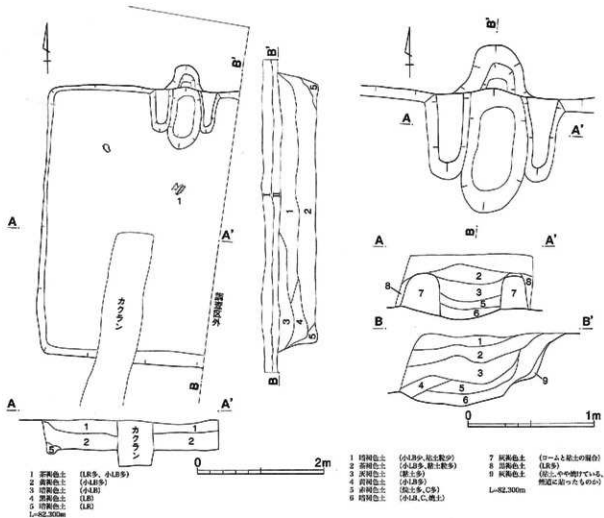


- 1 赤褐色土 (石灰多、小石多、砂穴混入)
- 2 暗褐色土 (C多、黄土少、粘土質、灰質層)
- 3 暗褐色土 (黄土多)
- 4 暗褐色土 (灰質、小石混入、粘土質、黄土混入)
- 5 暗褐色土 (黄土多、L.R.混、D.V.混)
- 6 赤褐色土 (C)
- 7 灰褐色土 (石灰、C多、粘土質)
- 8 灰褐色土 (石灰少、C多、C混)
- 9 暗褐色土 (石灰多、C多、C混)
- 10 暗褐色土 (石灰多、C)
- 11 赤褐色土 (黄土70%程度、L.R.少)
- 12 赤褐色土 (黄土70%程度、L.R.少)

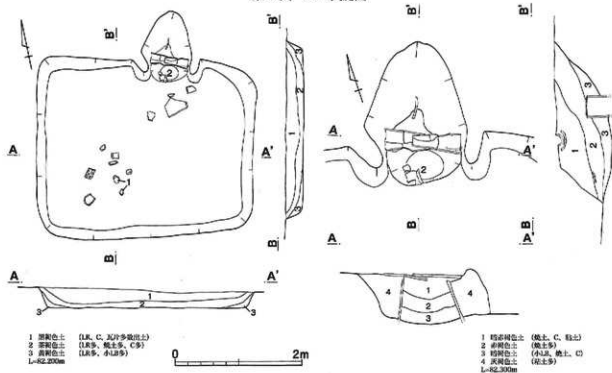
L=61,400mm



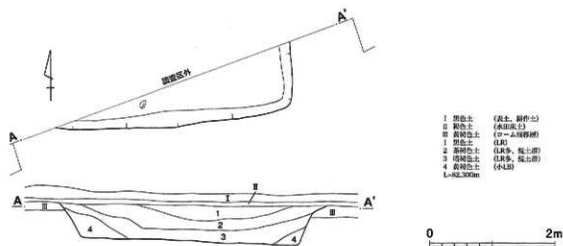
第23図 SI100実測図(2)



第24図 SI74実測図

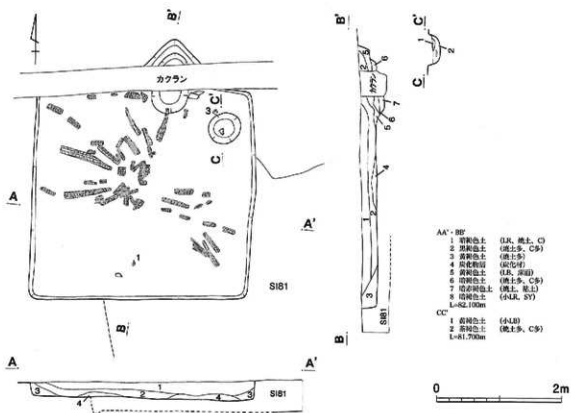


第25図 SI75実測図



第26図 SI76実測図

- I 黒色土 (灰土、餅作土)
 - II 赤色土 (赤田灰土)
 - III 黄褐色土 (ローム層付)
 - 1 黒色土 (L.R)
 - 2 茶褐色土 (L.R多、灰土層)
 - 3 暗褐色土 (L.R多、灰土層)
 - 4 黄褐色土 (小L)
- L=82.300m

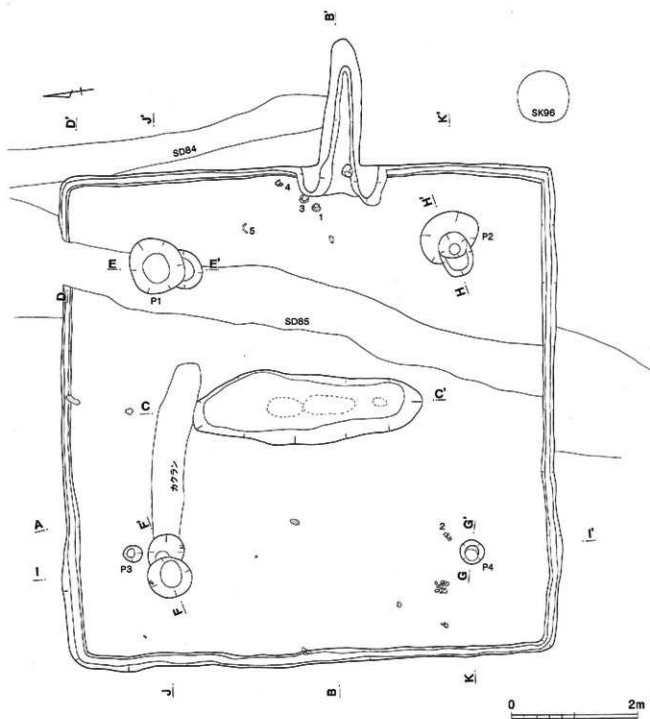


第27図 SI82実測図

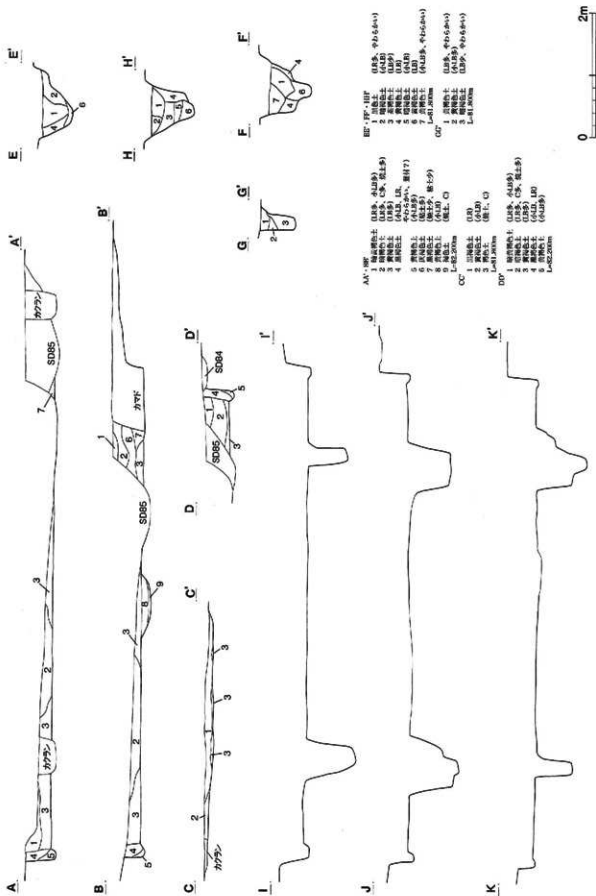
- AA'-BB' 1 黄褐色土 (L.R、灰土、C)
 - 2 黄褐色土 (灰土少、C少)
 - 3 黄褐色土 (灰土多)
 - 4 黄褐色土 (灰土少)
 - 5 黄褐色土 (L.R、灰土)
 - 6 暗褐色土 (灰土多、C多)
 - 7 暗褐色土 (灰土、灰土)
- CC' 1 黄褐色土 (小L)

2 茶褐色土 (灰土少、C少)

L=81.700m



第28図 SI77実測図(1)



第29図 S177実測図(2)

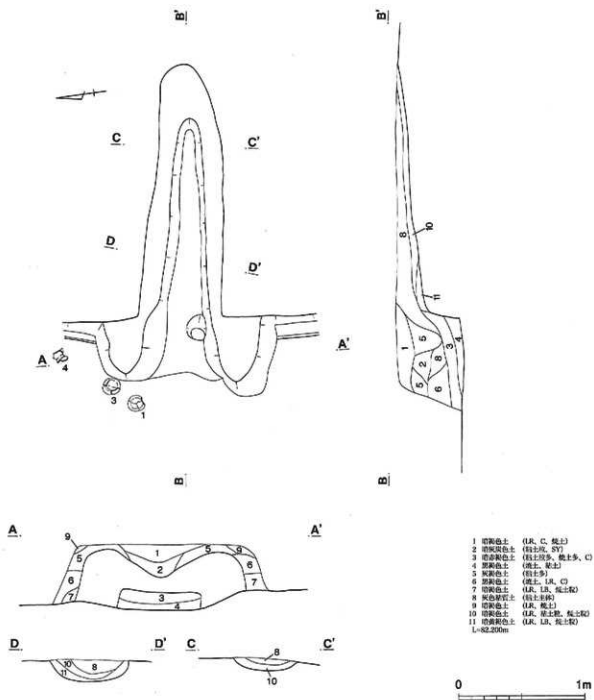
BE'・BF'・BF'
 1 土壌土 (G, 丸石多)
 2 厚砂土 (G, 丸石多)
 3 厚砂土 (G, 丸石多)
 4 厚砂土 (G, 丸石多)
 5 厚砂土 (G, 丸石多)
 6 厚砂土 (G, 丸石多)
 7 厚砂土 (G, 丸石多)
 8 厚砂土 (G, 丸石多)
 9 厚砂土 (G, 丸石多)
 10 厚砂土 (G, 丸石多)
 L=1.300m

AA'・BB'
 1 厚砂土 (G, 丸石多)
 2 厚砂土 (G, 丸石多)
 3 厚砂土 (G, 丸石多)
 4 厚砂土 (G, 丸石多)
 5 厚砂土 (G, 丸石多)
 6 厚砂土 (G, 丸石多)
 7 厚砂土 (G, 丸石多)
 8 厚砂土 (G, 丸石多)
 9 厚砂土 (G, 丸石多)
 10 厚砂土 (G, 丸石多)
 L=1.300m

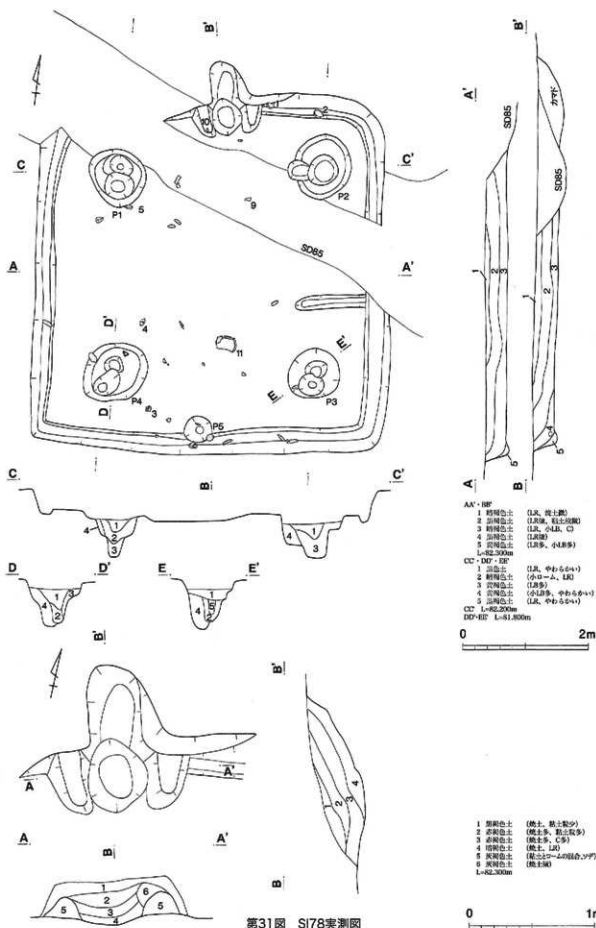
CC'
 1 土壌土 (G)
 2 厚砂土 (G, 丸石多)
 3 厚砂土 (G, 丸石多)
 L=1.300m

DD'
 1 土壌土 (G, 丸石多)
 2 厚砂土 (G, 丸石多)
 3 厚砂土 (G, 丸石多)
 4 厚砂土 (G, 丸石多)
 5 厚砂土 (G, 丸石多)
 6 厚砂土 (G, 丸石多)
 7 厚砂土 (G, 丸石多)
 8 厚砂土 (G, 丸石多)
 9 厚砂土 (G, 丸石多)
 10 厚砂土 (G, 丸石多)
 L=1.300m

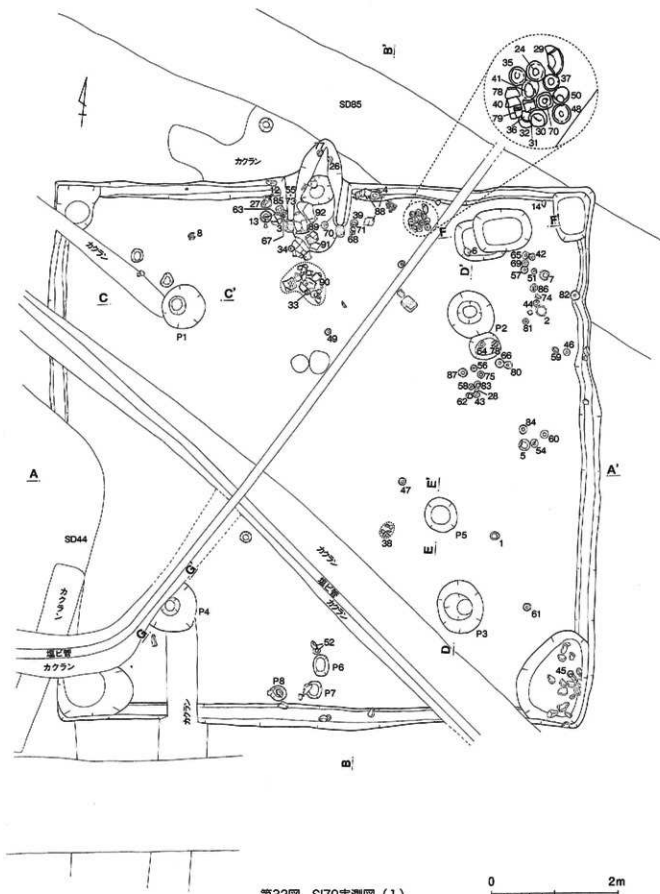




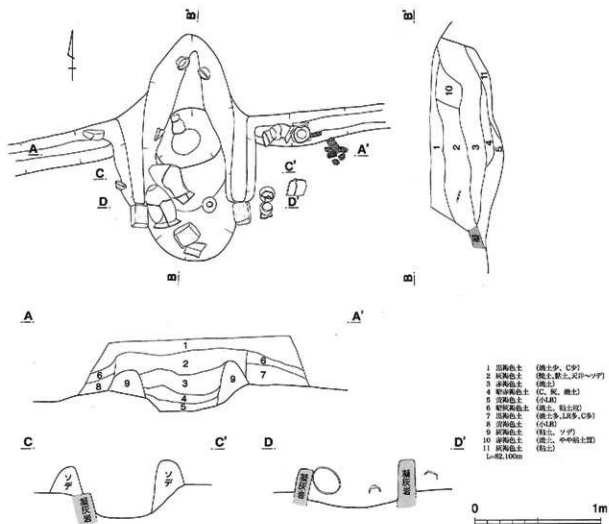
第30图 SI77实测图(3)



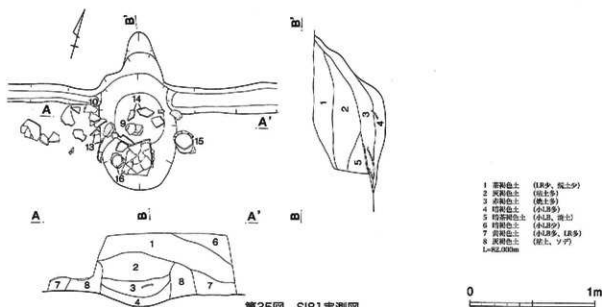
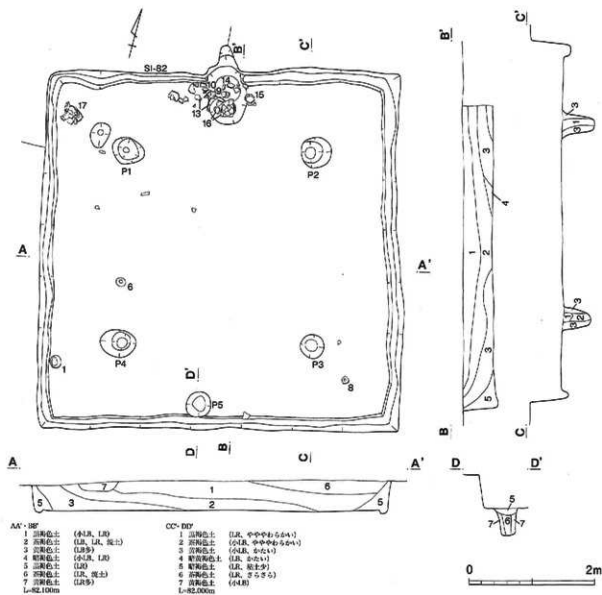
第31図 SI78実測図

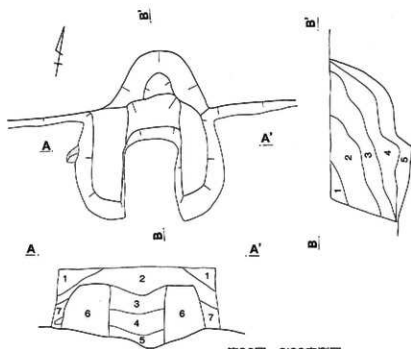
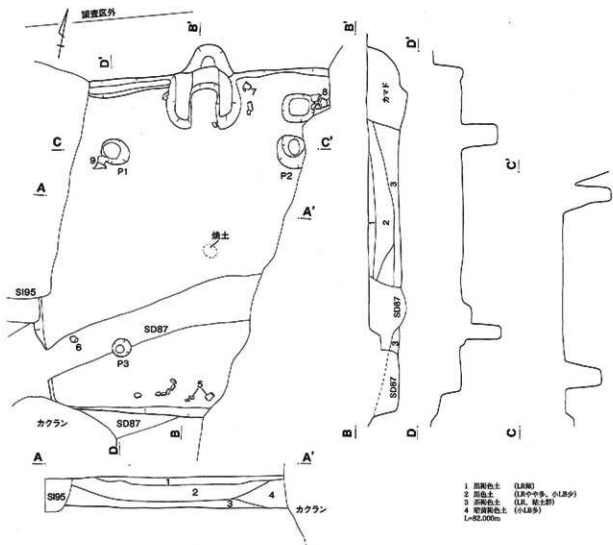


第32図 SI79実測図(1)

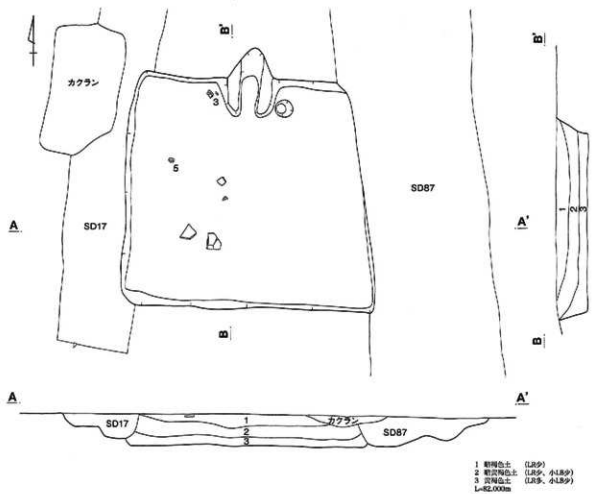


第34図 SI79実測図(3)

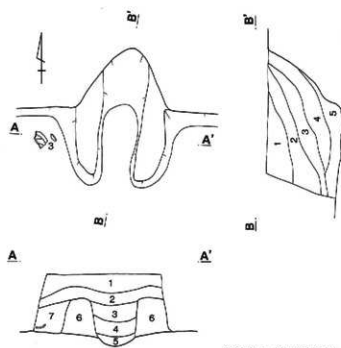




第36図 SI95実測図

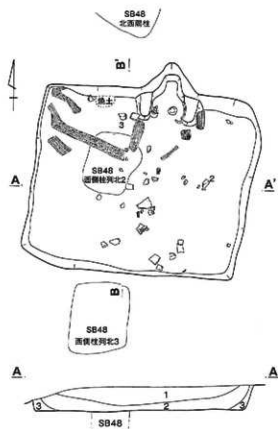


0 2m

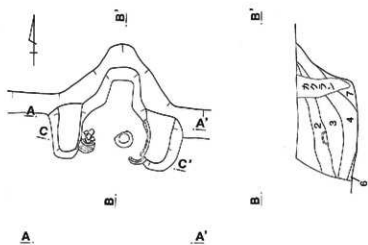


0 1m

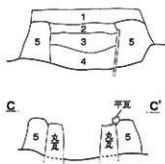
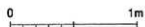
第37図 SI88実測図



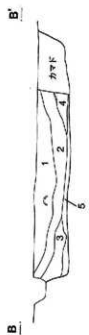
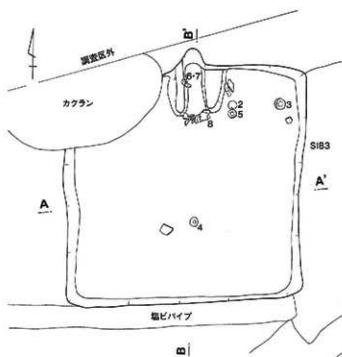
- 1 黏土
2 黏土、灰、口
3 灰土、小土多
L=81.800m



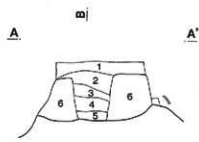
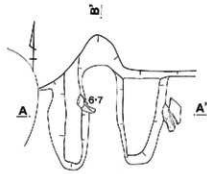
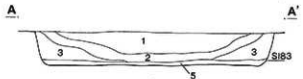
- 1 黏土
2 黏土、灰、口
3 灰土、小土多
4 黏土、灰、口
5 灰土、小土多
6 黏土、灰、口
7 黏土、灰、口
L=81.800m



第38图 SI89实测图



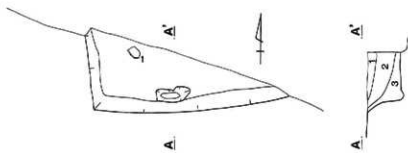
- 1 黄褐色土 (LJ多、しまりあり)
- 2 赤褐色土 (LJ多、中～粗粒)
- 3 黄褐色土 (LJ多、小LJ多)
- 4 赤褐色土 (LJ、灰土)
- 5 黄褐色土 (小LJ、粗り混)
- L=82.000m



- 1 黄褐色土 (LJ多)
- 2 赤褐色土 (LJ、LJ)
- 3 赤褐色土 (ロー～粗、LJ)
- 4 黄褐色土 (粘土多)
- 5 赤褐色土 (粘土少、LJ)
- 6 黄褐色土 (LJ、粘土、粗、C混、ソフ)
- L=81.900m



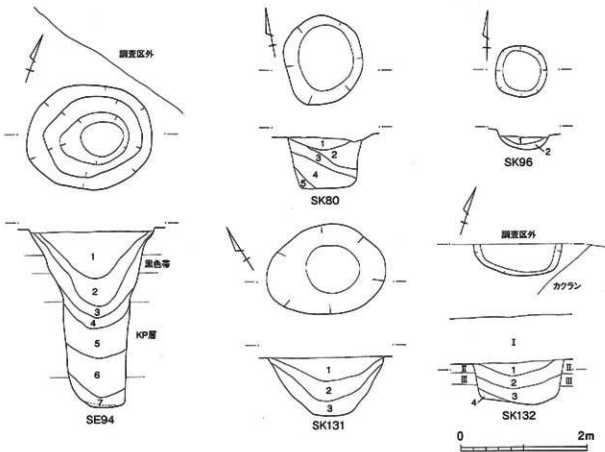
第39図 SI95実測図



- 1 黒褐色土 (L赤少、SY無)
 - 2 暗褐色土 (L赤少、SY無)
 - 3 暗褐色土 (L赤中少、L赤少、SY)
- L=81.000m



第40図 SI101実測図



SE94

- 1 黒褐色土 (L赤、赤褐色に粘土質)
 - 2 暗褐色土 (L赤多、切取は1.2号同イ)
 - 3 暗褐色土 (L赤、小L赤多イ、やわらかイ)
 - 4 黒褐色土 (L赤赤帯に多、小L赤赤帯に多、切取、やわらかイ)
 - 5 暗褐色土 (L赤赤帯と暗褐色土の混合土、やわらかイ)
 - 6 暗褐色土 (ローム主珠、暗褐色土の層を成している、やわらかイ)
 - 7 黒褐色土 (L赤多、小L赤多、黒褐色土、黄帯にKP層)
- L=73.300m

SK80

- 1 暗褐色土 (L赤)
 - 2 暗褐色土 (L赤、粘土、ローム様)
 - 3 暗褐色土 (L赤多、小L赤多)
 - 4 暗褐色土 (L赤、小L赤)
 - 5 褐色土 (L赤)
- L=82.000m

SK96

- 1 暗褐色土 (小L赤)
 - 2 暗褐色土 (L赤少)
- L=82.100m

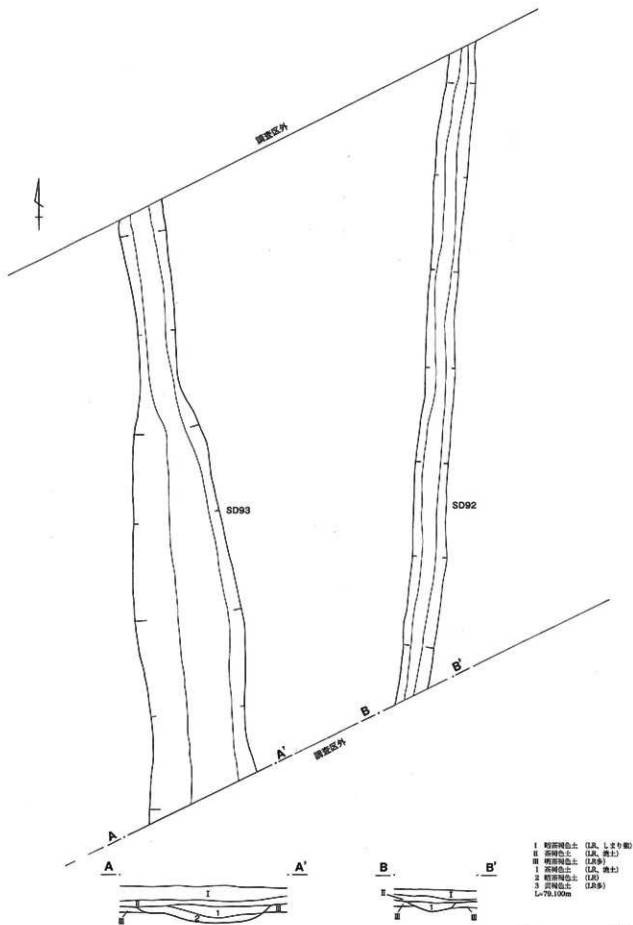
SK131

- 1 暗褐色土 (L赤)
 - 2 暗褐色土 (小L赤)
 - 3 暗褐色土 (L赤少)
- L=81.200m

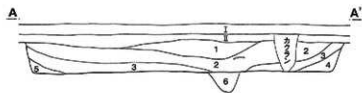
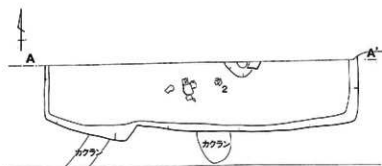
SK132

- 1 暗褐色土 (L赤少)
 - 2 暗褐色土 (小L赤多)
 - 3 暗褐色土 (小L赤)
 - 4 暗褐色土 (L赤主珠)
- L=83.000m

第41図 SE94・SK80・96・131・132実測図

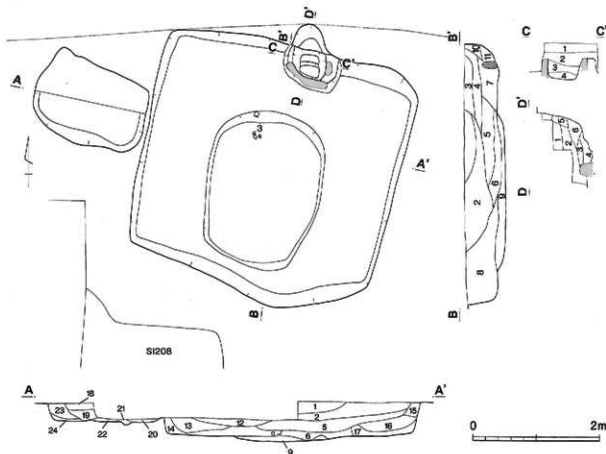


第42図 SD92・93実測図



- | | |
|----|----------------------------------|
| 1 | 黄土 |
| 2 | 褐色土 (L.B.中中多, 黄L.B.中中多) |
| 3 | 褐色土 (L.B.少) |
| 4 | 褐色土 (L.B.中中多, 黄L.B.中中多) |
| 5 | 褐色土 (L.B.少, 黄L.B.少) |
| 6 | 黄土 (L.B.中中多, 黄L.B.少) |
| 7 | 赤褐色土 (L.B.多) |
| 8 | 切羽色土 (L.B.中中多) |
| 9 | 切羽褐色土 (L.B.中中多, 小L.B.切羽, 黄L.B.少) |
| 10 | 赤褐色土 (L.B.多, 黄L.B.少) |
- L=81.600m

第43図 SI203実測図

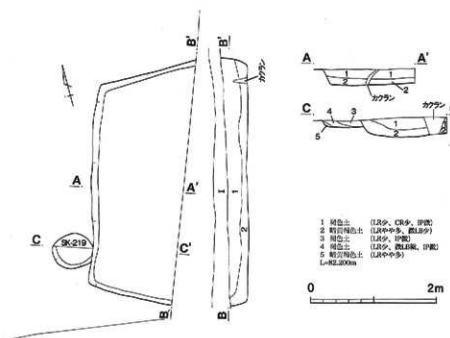


- | | |
|---------|---|
| AA'-BB' | 1 切羽色土 (L.B.切) |
| | 2 切羽色土 (L.B.少, 黄L.B.切) |
| | 3 切羽色土 (L.B.少) |
| | 4 褐色土 (L.B.少) |
| | 5 褐色土 (L.B.少) |
| | 6 切羽褐色土 (L.B.中中多, 黄L.B.少) |
| | 7 切羽色土 (L.B.中中多, 黄L.B.中中多, 黄L.B.中中多, CR少, 小n-切) |
| | 8 褐色土 (L.B.少) |
| | 9 切羽褐色土 (L.B.多, 小L.B.中中多, 黄L.B.中中多) |
| | 10 褐色土 (L.B.少) |
| | 11 切羽褐色土 (L.B.中中多) |
| | 12 切羽褐色土 (L.B.少) |
| | 13 褐色土 (L.B.少) |

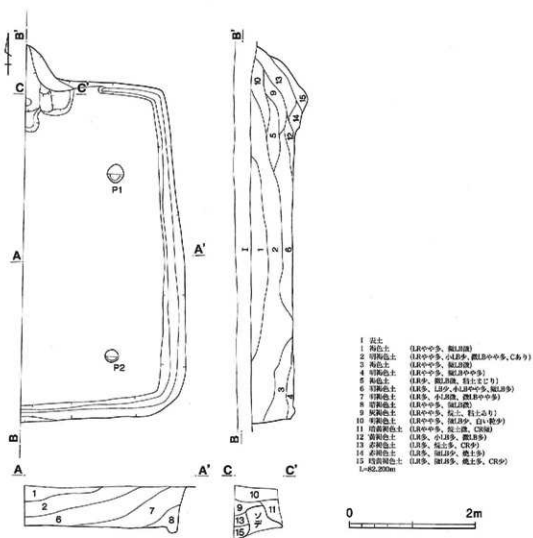
- | | |
|----|-------------------------|
| 14 | 切羽褐色土 (L.B.多, 黄L.B.少) |
| 15 | 切羽色土 (L.B.切) |
| 16 | 褐色土 (L.B.少, 黄L.B.切) |
| 17 | 切羽褐色土 (L.B.中中多, 黄L.B.切) |
| 18 | 褐色土 (L.B.中中多) |
| 19 | 褐色土 (L.B.少, 黄L.B.切) |
| 20 | 褐色土 (L.B.中中多) |
| 21 | 切羽褐色土 (L.B.少) |
| 22 | 赤褐色土 (L.B.多) |
| 23 | 褐色土 (L.B.少) |
| 24 | 切羽褐色土 (L.B.多) |
- L=62.350m

- | | |
|---------|-------------------------------|
| CC'-DD' | 1 褐色土 (L.B.切, 黄土, CR切) |
| | 2 褐色土 (L.B.少, 黄土, CR少) |
| | 3 切羽褐色土 (L.B.中中多, 黄土中中多, CR少) |
| | 4 赤褐色土 (L.B.中中多, 黄土多) |
| | 5 赤褐色土 (L.B.少, 黄土多) |
| | 6 赤褐色土 (L.B.少, 黄土多, CR少) |
- L=62.350m

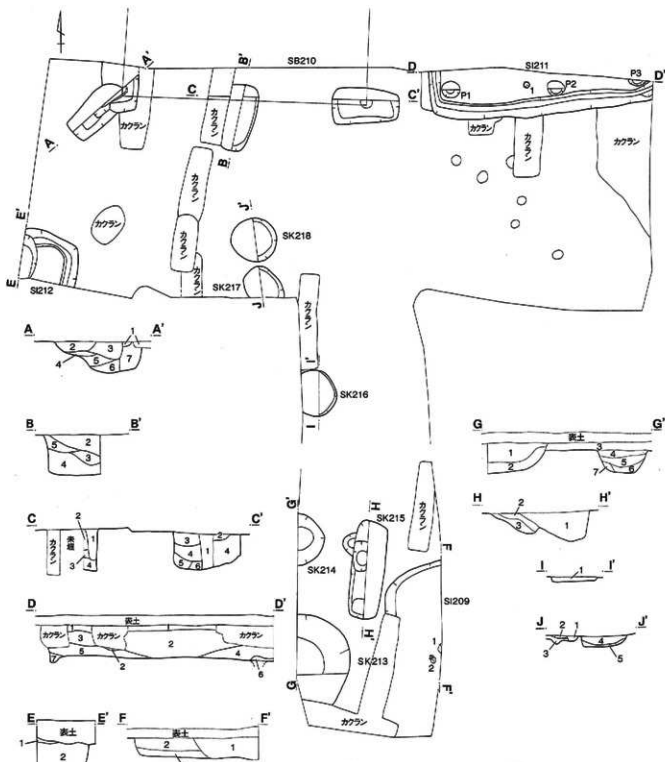
第44図 SI206実測図



第45図 SI207・SK219実測図



第46図 SI208実測図

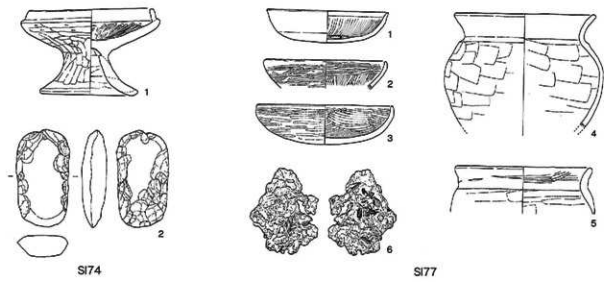


- AA'
- 1 明褐色土 (L.R.少)
 - 2 褐色土 (L.R.少, 黒L.B.層)
 - 3 赤褐色土 (L.R.少, 黒L.B.層, 白R.少)
 - 4 褐色土 (L.R.少, 黒L.B.層, I.P.層)
 - 5 褐色土 (L.R.少)
 - 6 明褐色土 (L.R.少, 黒L.B.層)
 - 7 明褐色土 (L.R.少, 黒L.B.層, 黒L.B.中+少)
- L=82.400m
- BB'
- 1 明褐色土 (L.R.少)
 - 2 明褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.層, CR.少, I.P.層)
 - 3 褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.層, I.P.層)
- L=82.700m
- CC'
- 1 明褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.層)
 - 2 褐色土 (L.R.少, 黒L.B.層)
 - 3 褐色土 (L.R.中+少, L.B.層, 黒L.B.中+少)
 - 4 明褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.層)
 - 5 褐色土 (L.R.少, 黒L.B.層)
 - 6 明褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.中+少)
- L=82.400m
- DD'
- 1 褐色土 (L.R.少, I.P.層)
 - 2 褐色土 (L.R.中+少, I.P.層)
 - 3 明褐色土 (L.R.中+少, I.P.層, CR.層)
 - 4 明褐色土 (L.R.中+少, I.P.層)
 - 5 明褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.層)
 - 6 明褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.中+少)
 - 7 明褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.層, 黒L.B.中+少)
- L=82.700m

- EE'
- 1 明褐色土 (L.R.層)
 - 2 明褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.層, CR.少, I.P.層)
 - 3 褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.層, I.P.層)
- L=82.700m
- FF'
- 1 明褐色土 (L.R.少, 黒L.B.層, CR.層, I.P.層)
 - 2 褐色土 (L.R.少, CR.層, I.P.層)
 - 3 明褐色土 (L.R.中+少, CR.層, I.P.層)
- L=82.700m
- GG'
- 1 褐色土 (L.R.少, I.P.層, 中+少+少)
 - 2 明褐色土 (L.R.少, 黒L.B.層, 中+少+少)
 - 3 明褐色土 (L.R.少, 黒L.B.層, 中+少+少)
 - 4 明褐色土 (L.R.中+少, I.P.層, CR.層)
 - 5 明褐色土 (L.R.中+少, I.P.層)
 - 6 明褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.層)
 - 7 明褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.中+少)
- L=82.700m

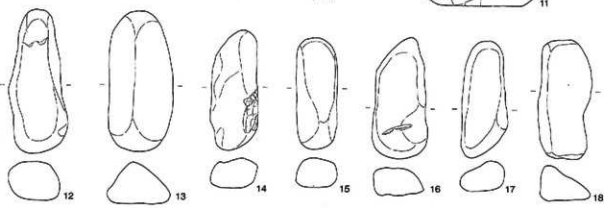
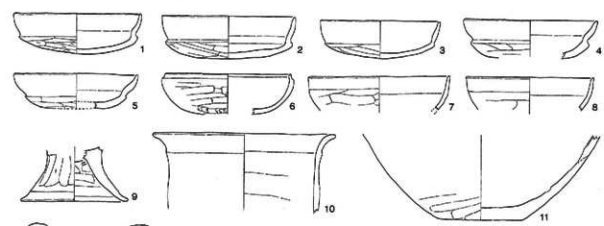
- HH'
- 1 明褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.層, 黒L.B.中+少)
 - 2 明褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.層)
 - 3 明褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.層)
- L=82.400m
- II'
- 1 明褐色土 (L.R.中+少, 黒L.B.層, 中+少+少)
- L=82.400m
- JJ'
- 1 明褐色土 (L.R.中+少)
 - 2 明褐色土 (L.R.中+少)
 - 3 明褐色土 (L.R.中+少)
 - 4 明褐色土 (L.R.中+少, I.P.層)
 - 5 明褐色土 (L.R.中+少, I.P.層)
- L=82.400m

第47図 SB210・SI209・211・212・SK213~218実測図



SI74

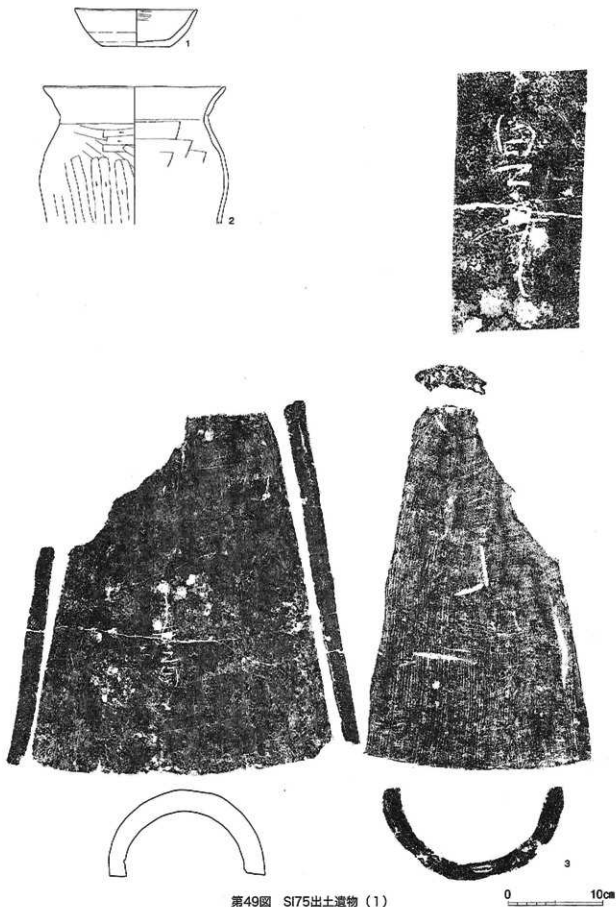
SI77



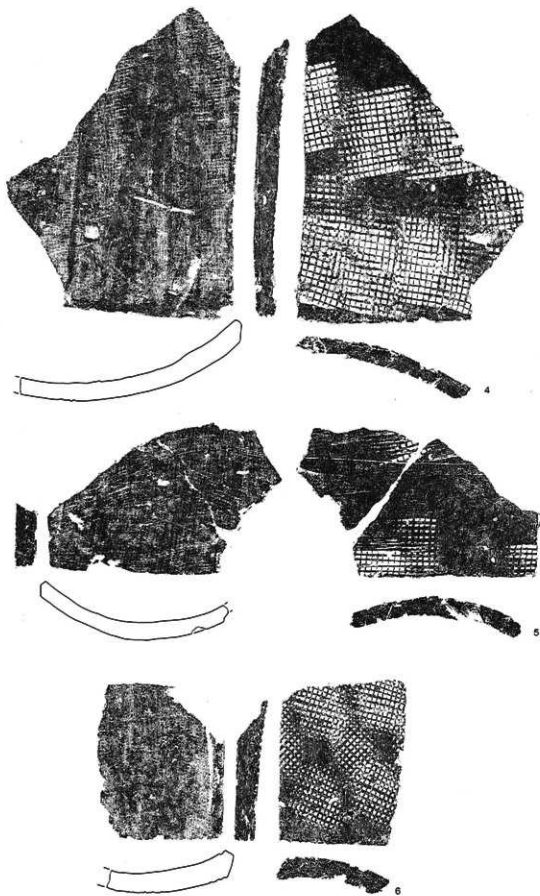
SI78



第48圖 SI74・77・78出土遺物



第49図 SI75出土遺物 (1)

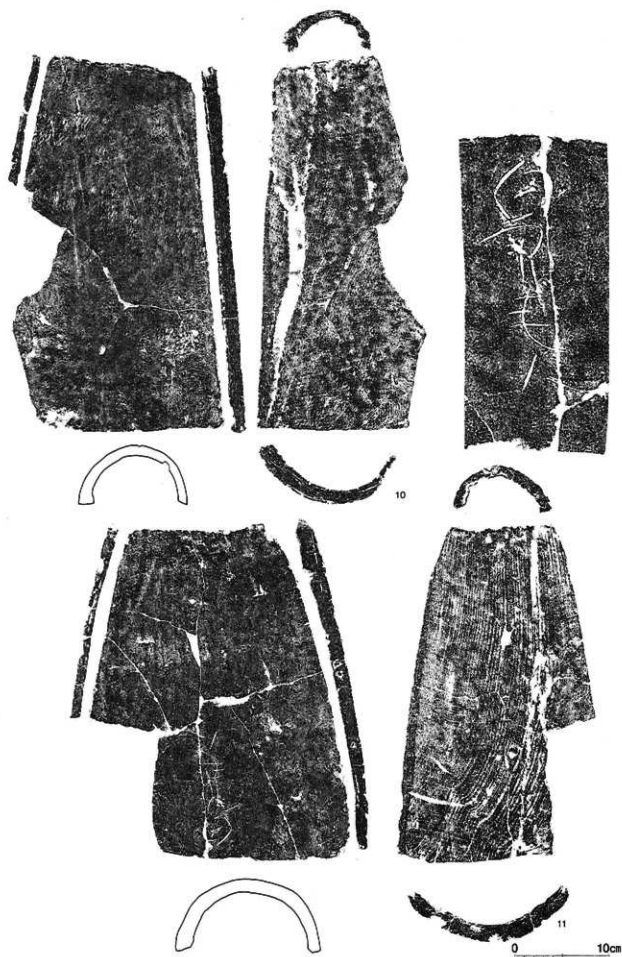


第50図 SI75出土遺物(2)

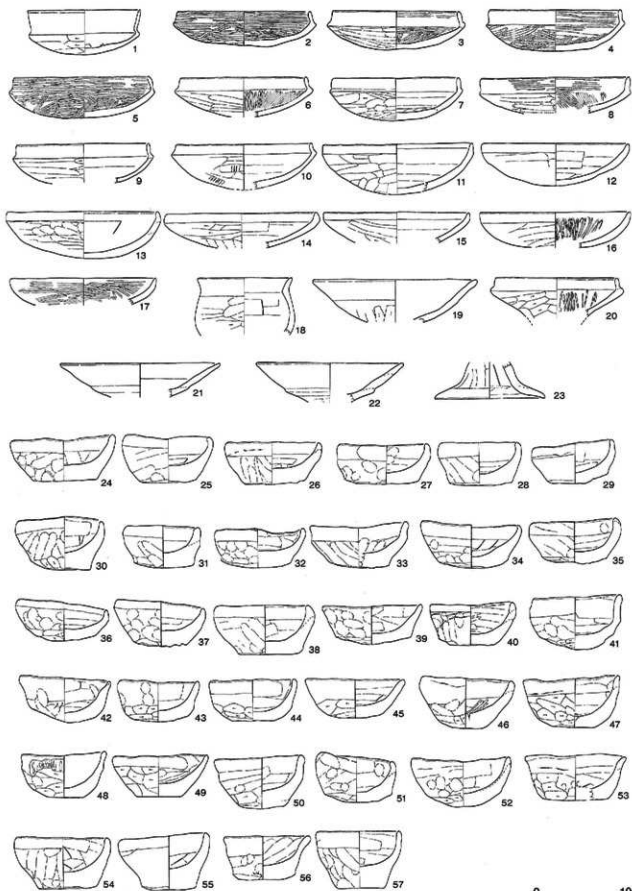
0 10cm



第51圖 SI75出土遺物(3)

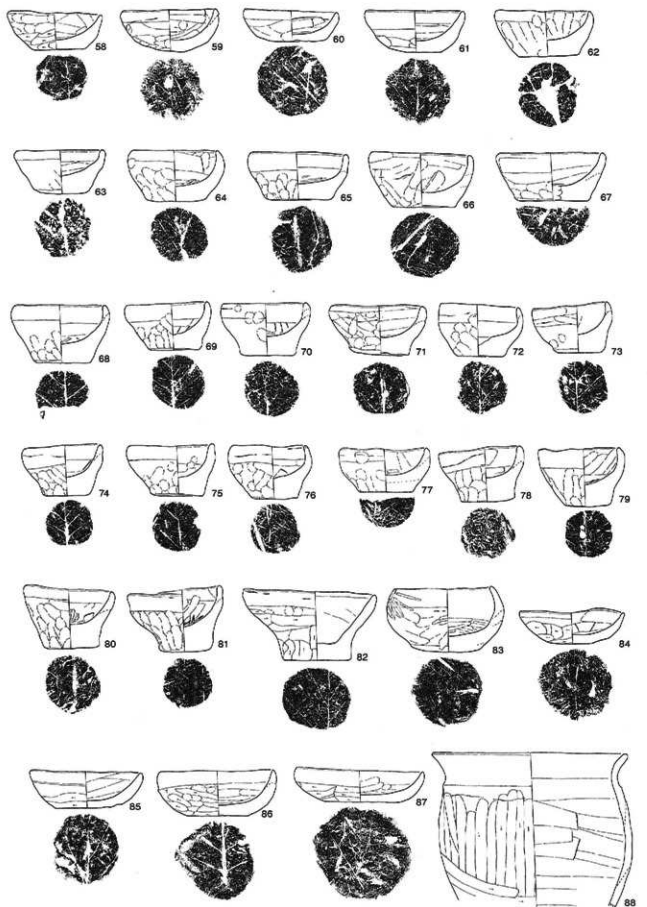


第52図 SI75出土遺物 (4)

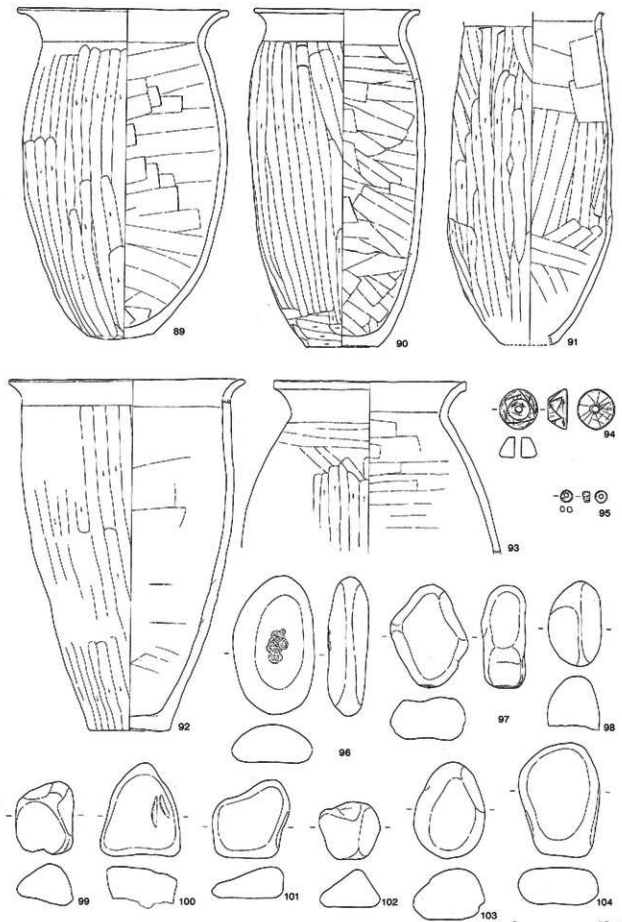


第53图 SI79出土遺物(1)

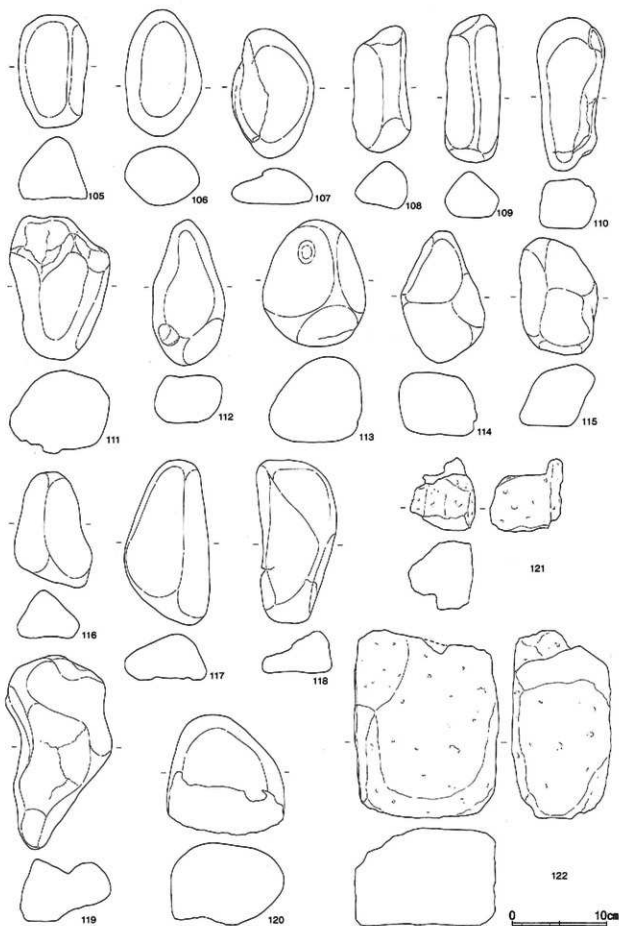
0 10cm



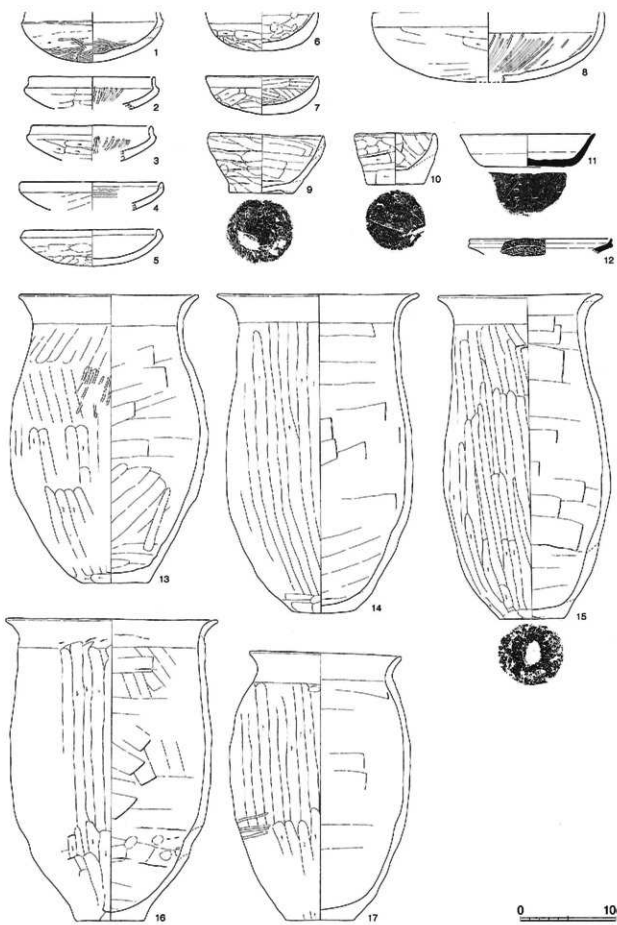
第54図 SI79出土遺物(2)



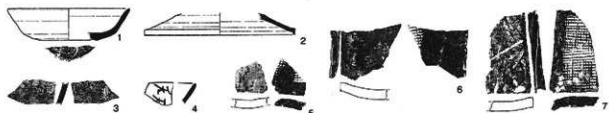
第55図 SI79出土遺物(3)



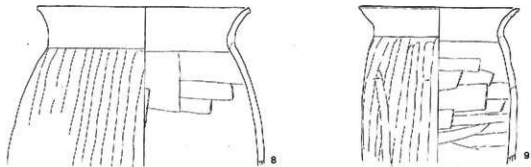
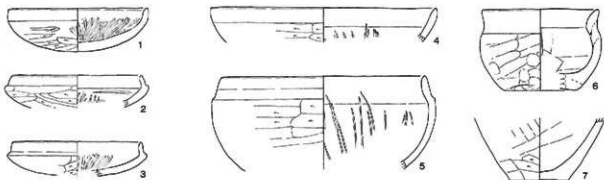
第56図 SI79出土遺物(4)



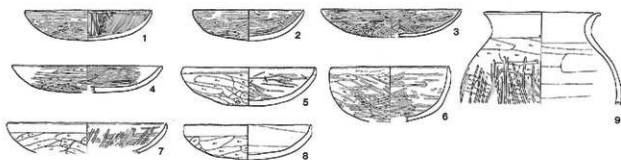
第57図 S181出土遺物



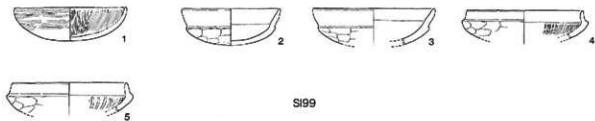
SI82



SI83



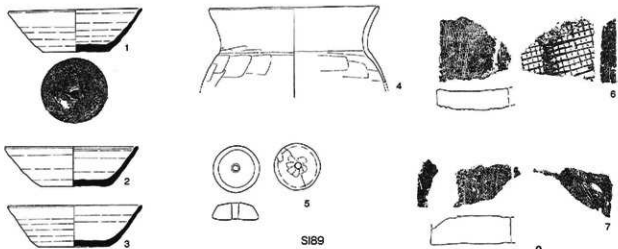
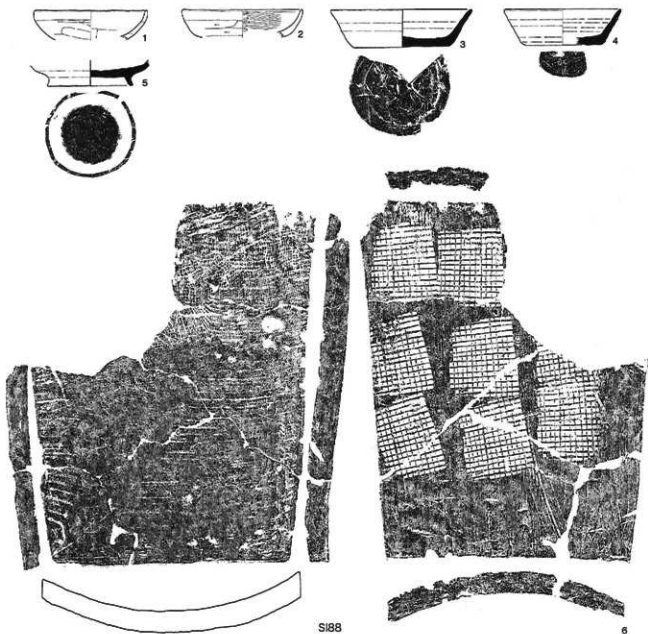
SI90



SI99

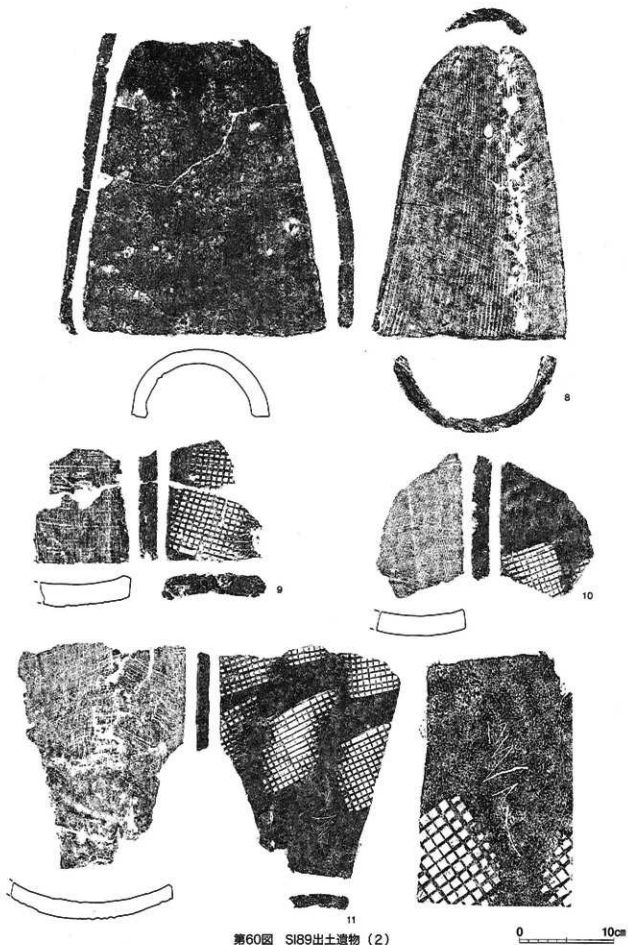
第58圖 SI82・83・90・99出土遺物

0 10cm

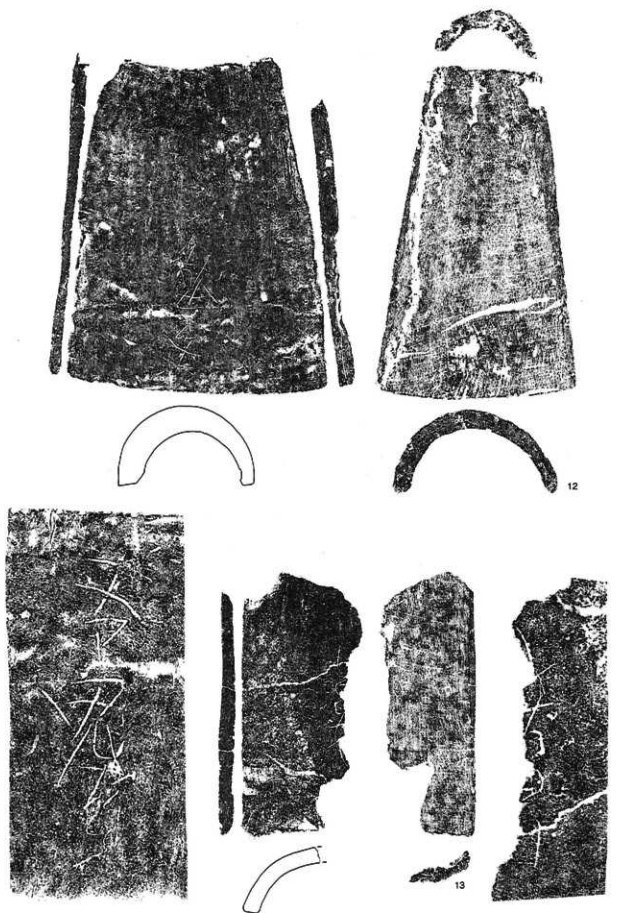


第59圖 S188・89 (1) 出土遺物

0 10cm

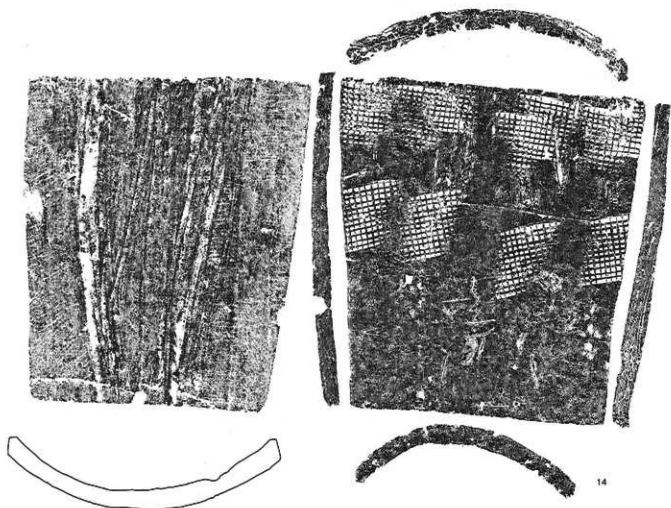


第60圖 SI89出土遺物 (2)

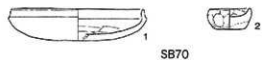


第61圖 SI89出土遺物(3)

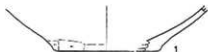
0 10cm



SI89 (4)



SB70



SB91

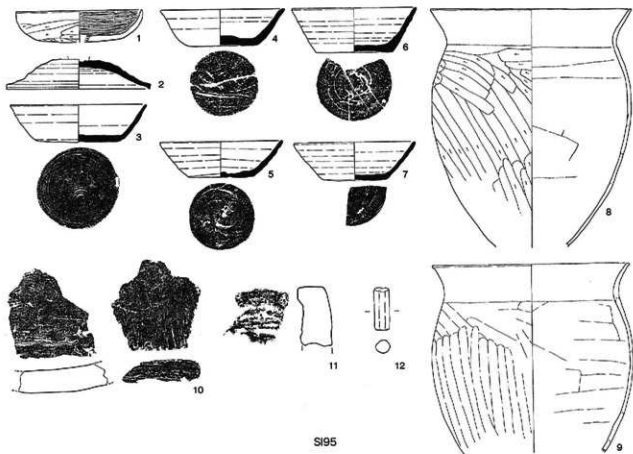


SK80

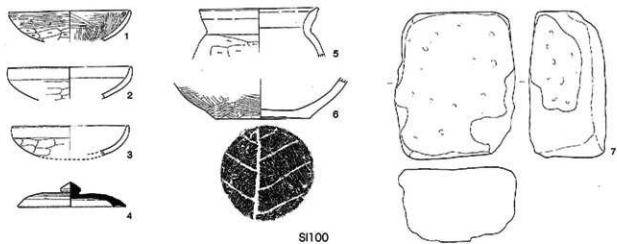


第62圖 SI89 (4) · SB70 · 91 · SK80出土遺物

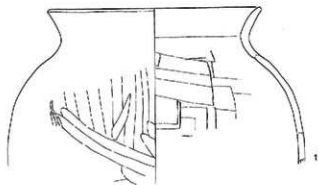
0 10cm



SI95



SI100



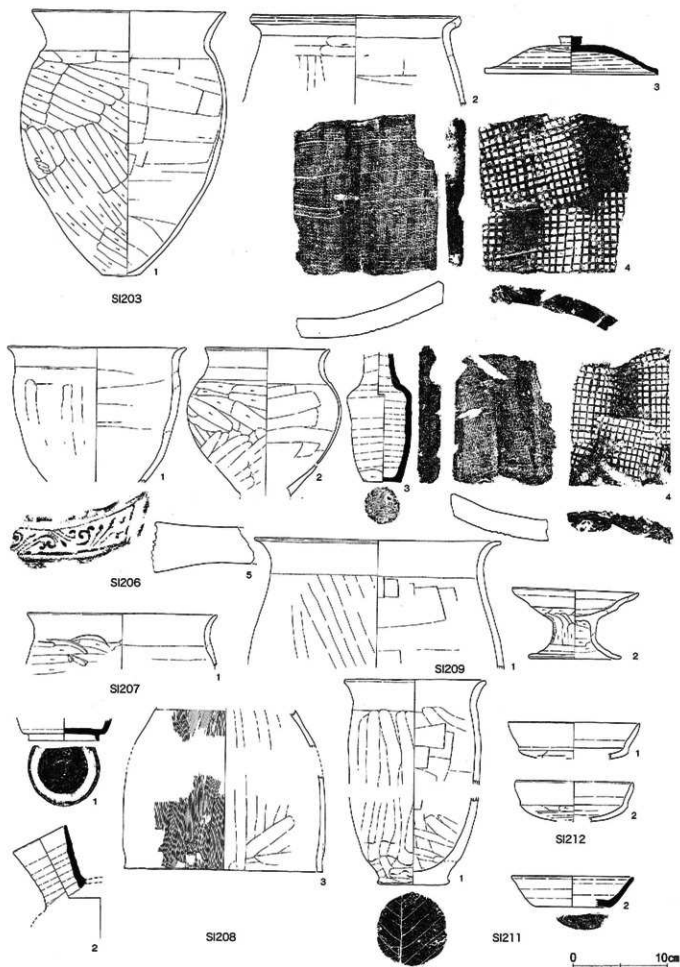
SI101



SI104

0 10cm

第63図 SI95・100・101・104出土遺物



第64圖 SI203・206~209・211・212出土遺物

第3表 SI74出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	胴部の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器高坏	13.2	9.2	10.4	平底を軸を持って口縁部が内丸。短脚。	内面内面は凹状へう磨き、胴部内面は外方へう磨き。	赤褐色	微砂粒	良好	No.1下層	14552形

第4表 SI75出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	胴部の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器平	(13.0)	3.9	(7.0)	体部はやや丸味を持って弱く。	口縁部は、胴部内面手前もへう磨き。 内面ウレシ仕上げ。	赤褐色	砂粒 赤色粒	普通	No.6上層	1/4級
2	土師器高	(19.4)	(14.4)	—	薄手。口縁部は、くの字に外反。	口縁部ナデ。外面へう磨り。胴部内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	砂粒	普通	No.6	上半1/3級

第5表 SI77出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	胴部の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器平	12.8	3.4	—	丸底の強い皿。口縁部が明かに外反。	内面に彫文 (体部に放射状、後見込み彫文)。	暗赤褐色	微砂粒	良好	No.17床直	完形
2	土師器平	(13.0)	(3.0)	—	半球形状。	内外面ともへう磨き。	淡褐色	微砂粒	良好	No.14床直	1/4級
3	土師器平	14.3	4.1	—	丸底で半球形状。	内外面ともへう磨き。	暗赤褐色	微砂粒	良好	No.16床直	完形
4	土師器高	(15.0)	(12.3)	—	台付蓋か？後内面はくの字に外反。	口縁部ナデ。胴部外面へう磨り。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	赤色砂粒	普通	No.15床直	1/3級
5	土師器高	(14.5)	(5.0)	—	小型球瓶。口縁部は短く外反。	口縁部ナデ。胴部内面へう磨り。	淡褐色	砂粒	普通	No.13床直	1/4級

第6表 SI78出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	胴部の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器平	13.6	4.3	—	体部外面に後。口縁は内凹気味に弱く。	口縁部ナデ。体部外面へう磨り。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	微砂粒	良好	No.2下層	2/3級
2	土師器高	14.0	4.5	—	体部外面に後。口縁は内凹気味に弱く。	口縁部ナデ。体部外面へう磨り。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	微砂粒	良好	No.2下層	1/2級
3	土師器平	(12.6)	4.0	—	体部外面に後。口縁は内凹気味に弱く。	口縁部ナデ。体部外面へう磨り。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	微砂粒	普通	33・上層	1/3級
4	土師器平	(14.2)	(4.0)	—	体部外面に後。口縁は内凹気味に弱く。	口縁部ナデ。体部外面へう磨り。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	微砂粒	良好	No.14上層	1/2級
5	土師器平	(13.0)	(3.6)	—	体部外面に後。口縁は内凹気味に弱く。	口縁部ナデ。体部外面へう磨り。	明褐色	微砂粒	普通	No.10中層	1/2級
6	土師器平	(13.6)	(3.4)	—	半球形状の丸底か？	口縁部ナデ。体部外面へう磨り。内面ウレシ仕上げ。	暗褐色	微砂粒	普通	上層	1/3級
7	土師器平	(13.2)	(4.2)	—	半球形状。口部つまみ上げ。	口縁部ナデ。体部外面へう磨り。内面ウレシ仕上げ。	暗褐色	微砂粒	良好	電内	1/3級
8	土師器平	(15.0)	(3.6)	—	半球形状の丸底か？	口縁部ナデ。体部外面へう磨り。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	微砂粒	普通	中層	1/5級
9	土師器高坏	—	(5.4)	(11.4)	短脚。坏型丸底。	口縁部ナデ。胴部外面へう磨り。	淡褐色	微砂粒	普通	No.7床直	1/3級
10	土師器高	(19.4)	(8.4)	—	長脚型。口縁部は外反。	口縁部ナデ。胴部外面へう磨り。	赤褐色	砂粒多し	普通	No.3直	1/3級
11	土師器高	—	(9.0)	9.0	球脚型の流部。	外面へう磨り。	淡褐色	砂粒	不良	No.18下層	流部のみ

第7表 SI79出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	胴部の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器平	11.9	3.7	—	体部外面に後を持って、口縁部が直上。	口縁部と体部内面ナデ。内面ウレシ仕上げ。	明褐色	砂粒 赤色粒	良好	72 下層	完形
2	土師器平	14.0	3.7	—	体部外面に後を持って、口縁部が内丸。	内外とも全面へう磨き。内面ウレシ仕上げ。	明褐色	微砂粒 赤色粒	良好	47 床直	完形
3	土師器平	13.4	4.1	—	体部外面に後を持って、口縁部が内丸。	底面外面へう磨り。内面へう磨り。口縁部ナデ。	明褐色	砂粒 赤色粒	良好	6 床直	14552形
4	土師器平	13.8	4.3	—	体部外面に後を持って、口縁部が内丸。	内外とも全面へう磨き。内面ウレシ仕上げ。	褐色	砂粒	良好	9 床直	3/4級
5	土師器平	14.3	4.3	—	体部外面に後を持って、口縁部が内丸。	内外とも全面へう磨き。	暗褐色	砂粒 赤色粒	良好	69 床直	14552形
6	土師器平	13.2	(4.2)	—	体部外面に後を持って、口縁部が内丸。	体部内面は凹状のへう磨き。	淡褐色	砂粒	良好	36 下層	1/2級
7	土師器平	13.3	4.5	—	体部外面に後を持って、口縁部が内丸。	口縁部と体部内面ナデ。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	微砂粒	良好	43 床直	2/3級
8	土師器平	(13.8)	(4.1)	—	体部外面に後を持って、口縁部が内丸。	口縁部と体部内面ナデ。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	微砂粒	良好	2 下層	1/3級
9	土師器平	(15.8)	(3.8)	—	体部外面に後を持って、口縁部が内丸。	内外面ともへう磨き。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	砂粒 赤色粒	良好	下層	1/5級
10	土師器平	(14.2)	(4.8)	—	体部外面に後を持って、口縁部が内丸。	口縁部と体部内面ナデ。内面ウレシ仕上げ。	暗褐色	砂粒 赤色粒	良好	上層	1/4級
11	土師器平	15.8	5.4	—	体部外面に後を有し、口縁が短く立つ。	口縁部と体部内面ナデ。体部内面へう磨り。	暗赤褐色	砂粒	普通	電中層	2/3級
12	土師器平	15.3	4.5	—	丸底で、浅い半球形状。	口縁部と体部内面ナデ。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	砂粒 赤色粒	普通	3・6床直	完形
13	土師器平	16.0	3.9	—	丸底で、浅い半球形状。	口縁部と体部内面ナデ。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	砂粒	普通	9 床直	完形
14	土師器平	(15.8)	(3.7)	—	丸底で、浅い半球形状。	口縁部と体部内面ナデ。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	砂粒 赤色粒	良好	37 中層	1/4級

15	土層帯	(15.2)	(3.2)	—	丸底で、浅い半球形状。	口縁部と体部内面がナズ。内面ウレシセ上り。	明褐色	砂鉄 赤色粒	良好	下層	1/4枚
16	土層帯	(16.0)	(3.2)	—	丸底で、浅い半球形状。	口縁部は放射状のヘラ磨き。	暗赤褐色	砂鉄 赤色粒	良好	下層	1/3枚
17	土層帯	(15.2)	(2.8)	—	丸底で、浅い半球形状。	内外とも全面ヘラ磨き。内面放射状磨。	淡褐色	薄砂鉄	良好	貯6下層	1/4枚
18	土層帯	(10.0)	(6.0)	—	丸い体部から、口縁部が広く外反。	口縁部ナズ。体部外面ヘラ磨き。	明褐色	砂鉄 赤色粒	普通	下層	1/6枚
19	土層帯	17.5	(4.5)	—	丸底で、口縁部が大きく外反。腹部突出。	口縁部と体部内面がナズ。体部外面ヘラ磨き。	赤褐色	砂鉄 赤色粒	普通	下層	厚部1/2枚
20	土層帯	(12.8)	(4.1)	—	丸底で、口縁部が中反。腹部突出。	口縁部ナズ。体部内面は放射状ヘラ磨き。	褐色	砂鉄 赤色粒	良好	下層	厚部1/3枚
21	土層帯	(17.0)	(3.6)	—	丸底で、口縁部が中反。腹部突出。	口縁部と体部内面がナズ。	赤褐色	薄砂鉄	良好	中層	厚部1/3枚
22	土層帯	(15.6)	(4.2)	—	丸底で、口縁部が大きく外反。腹部突出。	口縁部と体部内面がナズ。	赤褐色	薄砂鉄	良好	中層上層	厚部1/4枚
23	土層帯	—	(3.9)	(11.8)	短脚で腹部が闊く。厚部突出。	腹部がナズ。体部外面ヘラナズ。	赤褐色	薄砂鉄	良好	下層	厚部1/4枚
24	土層帯	10.7	4.6	6.6	平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄	普通	26 床直	完形
25	土層帯	9.0	5.1	5.8	平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄	普通	18 床直	完形
26	土層帯	9.5	4.5	6.5	平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄 赤色粒	普通	14 床直	完形
27	土層帯	9.8	5.2	6.0	平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。体部外面がナズ。本底丸。	淡褐色	砂鉄	普通	4 下層	完形
28	土層帯	9.3	4.7	6.7	平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄	普通	62 下層	完形
29	土層帯	8.5	4.6	5.8	口縁部は内湾気味に立つ。腹部突出。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄 赤色粒	普通	20 床直	完形
30	土層帯	8.8	5.7	5.5	平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	暗褐色	砂鉄 赤色粒	普通	31 下層	完形
31	土層帯	7.7	4.5	6.3	口縁部は内湾気味に闊く。腹部中へ突出。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	暗褐色	砂鉄 赤色粒	普通	30 床直	完形
32	土層帯	9.5	4.2	7.1	平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄	普通	32 床直	完形
33	土層帯	10.0	4.4	6.0	平底で、口縁部は中や外反して立つ。	手取丸。口縁部ナズ。体部外面がナズ。	淡褐色	砂鉄 赤色粒	普通	14 床直	ほぼ完形
34	土層帯	10.3	3.0	7.2	口縁部は内湾気味に闊く。腹部突出。	手取丸。底部外面ヘラ磨き。六角	淡褐色	砂鉄 赤色粒	普通	12 床直	完形
35	土層帯	9.0	4.8	6.8	平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄	普通	27 床直	完形
36	土層帯	9.6	4.5	—	丸底で、半球形状。	手取丸。口縁部ナズ。体部外面ヘラナズ。	淡褐色	砂鉄	普通	33 床直	完形
37	土層帯	8.5	6.3	5.0	狭い平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。体部外面ヘラナズ。	暗褐色	薄砂鉄	良好	34 床直	完形
38	土層帯	9.8	5.1	6.8	平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。体部外面ヘラ磨き。	淡赤褐色	砂鉄	普通	71 床直	3/4枚
39	土層帯	10.5	4.1	7.8	口縁部はまっすぐ闊く。腹部突出。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄 赤色粒	普通	55	ほぼ完形
40	土層帯	8.8	4.5	5.0	平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	暗褐色	薄砂鉄	良好	29 床直	完形
41	土層帯	9.4	5.8	—	丸底で、半球形状。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄 赤色粒	普通	25 床直	完形
42	土層帯	9.5	4.8	—	丸底で、半球形状。口縁は中や外反。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄 赤色粒	普通	38 床直	完形
43	土層帯	8.5	4.4	4.0	口縁部はまっすぐ闊く。腹部突出。	手取丸。口縁部ナズ。体部下層ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄 赤色粒	普通	65 床直	完形
44	土層帯	9.0	4.3	4.0	平底で、口縁部はまっすぐ闊く。	手取丸。口縁部ナズ。体部下層ヘラ磨き。本底丸。	淡褐色	砂鉄 赤色粒	普通	48 床直	完形
45	土層帯	10.6	4.1	—	丸底で、口縁部はまっすぐ闊く。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄 赤色粒	普通	80 床直	完形
46	土層帯	9.7	5.5	5.0	口縁部は内湾気味に闊く。腹部突出。	手取丸。口縁部ナズ。体部外面ヘラ磨き。	淡赤褐色	砂鉄 赤色粒	普通	52 床直	完形
47	土層帯	10.0	3.5	4.5	平底で、口縁部はまっすぐ闊く。	手取丸。口縁部ナズ。体部外面ヘラ磨き。	暗褐色	砂鉄	普通	70 床直	完形
48	土層帯	8.8	4.9	4.0	平底で、口縁部はまっすぐ闊く。	手取丸。口縁部ナズ。体部下層ヘラ磨き。	灰褐色	薄砂鉄	普通	23 下層	完形
49	土層帯	10.0	4.3	4.8	平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。体部下層ヘラ磨き。本底丸。	淡褐色	砂鉄 赤色粒	普通	17 床直	
50	土層帯	10.0	5.0	6.3	平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。体部外面ヘラ磨き。本底丸。	暗褐色	砂鉄 赤色粒	普通	64 床直	ほぼ完形
51	土層帯	7.8	5.3	7.0	口縁部は内湾気味に立つ。腹部突出。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	暗褐色	砂鉄	普通	42 床直	完形
52	土層帯	(10.3)	5.1	—	丸底で、半球形状。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄 赤色粒	普通	94-95床	3/4枚
53	土層帯	(10.0)	4.7	6.0	平底で、口縁部は中や外反して闊く。	手取丸。口縁部ナズ。体部外面ヘラ磨き。	暗褐色	砂鉄	普通	中層上層	1/2枚
54	土層帯	9.7	5.5	6.1	平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	明褐色	砂鉄	普通	68 床直	
55	土層帯	9.2	6.1	5.6	平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。体部外面がナズ。	淡褐色	砂鉄 赤色粒	普通	18	完形
56	土層帯	8.7	4.7	6.0	平底で、口縁部は中や外反する。	手取丸。口縁部ナズ。体部外面ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄 赤色粒	普通	59 床直	
57	土層帯	8.9	6.1	5.0	狭い平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。体部外面ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄	良好	41 床直	ほぼ完形
58	土層帯	10.0	4.1	4.9	平底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。底部外面ヘラ磨き。六角。本底丸。	明褐色	薄砂鉄	良好	63 下層	完形
59	土層帯	10.0	4.5	—	丸底で、口縁部は内湾気味に闊く。	手取丸。口縁部ナズ。底部外面ヘラ磨き。	淡褐色	砂鉄 赤色粒	普通	44 下層	

60	土師器杯	9.8	3.5	5.4	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。底部部縁へう張り。中央に木葉状痕。	灰赤褐色	砂粒赤色粒	普通	67	東直	完形
61	土師器杯	10.7	4.4	—	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。底部部縁へう張り。木葉状。木葉状痕。	灰赤褐色	砂粒赤色粒	普通	73	下野	完形
62	土師器杯	9.2	5.6	4.5	口縁部はまっすぐで開く。底部突出。	手ねね風。口縁部ナデ。底部下へう張り。	灰褐色	砂粒赤色粒	普通	22	下野	完形
63	土師器杯	9.4	4.6	5.5	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。	暗褐色	砂粒	普通	8-9棟直	1445完形	
64	土師器杯	9.2	5.4	6.0	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。	暗褐色	細砂粒	良好	103棟直	完形	
65	土師器杯	10.0	5.1	6.8	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。	灰褐色	細砂粒	良好	39	棟直	完形
66	土師器杯	10.5	5.8	6.5	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。	暗褐色	砂粒	普通	57	下野	完形
67	土師器杯	(11.0)	5.0	7.5	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。木葉状。	暗褐色	砂粒赤色粒	普通	11	棟直	1/2残
68	土師器杯	(9.8)	6.0	5.5	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。木葉状。	暗褐色	砂粒赤色粒	普通	6	棟直	1/2残
69	土師器杯	8.8	5.0	5.4	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。底部部縁へう張り。	灰褐色	細砂粒	良好	40	棟直	完形
70	土師器杯	8.9	5.4	5.8	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。木葉状。	暗褐色	砂粒赤色粒	普通	3	棟直	完形
71	土師器杯	9.0	4.4	7.5	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。底部部縁へう張り。	灰褐色	砂粒赤色粒	普通	3	棟直	完形
72	土師器杯	8.3	5.5	5.3	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。木葉状。	灰褐色	砂粒赤色粒	普通	104棟直	完形	
73	土師器杯	8.0	5.4	5.0	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。底部部縁へう張り。	灰赤褐色	細砂粒	良好	7	下野	完形
74	土師器杯	8.5	5.4	4.8	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。底部部縁へう張り。	暗褐色	細砂粒	普通	46	棟直	1/2完形
75	土師器杯	9.0	5.2	5.4	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。木葉状。	暗褐色	砂粒赤色粒	普通	58	棟直	完形
76	土師器杯	8.0	5.7	5.2	広い平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。木葉状。	灰褐色	細砂粒	良好	24	棟直	完形
77	土師器杯	9.0	4.6	5.5	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。木葉状。	灰赤褐色	細砂粒	普通	15	1/2残	
78	土師器杯	8.8	5.8	5.6	広い平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。	暗褐色	砂粒	普通	28	棟直	完形
79	土師器杯	9.9	6.8	5.3	広い平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。	暗褐色	細砂粒	良好	50	棟直	完形
80	土師器杯	9.3	6.7	5.8	広い平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。木葉状。	灰褐色	細砂粒	良好	56	下野	1/2完形
81	土師器杯	9.0	5.0	5.6	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。	暗褐色	砂粒	普通	8-9棟直	1445完形	
82	土師器杯	14.0	7.4	6.3	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。	暗褐色	砂粒	普通	51	棟直	完形
83	土師器杯	10.4	7.0	7.3	平底で、体部へ口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。木葉状。	暗褐色	細砂粒	良好	81	下野	1/2完形
84	土師器杯	11.0	3.5	—	丸底で、半球形状。	手ねね風。口縁部ナデ。体部外面指ナデ。	灰褐色	砂粒赤色粒	普通	60	棟直	完形
85	土師器杯	11.8	4.1	6.3	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。底部部縁へう張り。木葉状。	灰褐色	砂粒赤色粒	普通	10	棟直	完形
86	土師器杯	12.0	4.7	6.0	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。体部外面へう張り。木葉状。	灰褐色	砂粒赤色粒	普通	45	棟直	完形
87	土師器杯	13.2	3.6	—	丸底で、浅い半球形状。	手ねね風。底部部縁へう張り。中央に木葉状痕。	暗褐色	砂粒赤色粒	普通	60	棟直	完形
88	土師器盃	20.7	(16.4)	—	小型球形。口縁部外反。	口縁部ナデ。体部外面へう張り。内面に木葉状痕。	暗褐色	白色砂粒多	普通	10-11-7	上中2/3残	
89	土師器盃	22.1	34.6	7.0	長胴。口縁は外反。最大径は口縁部。	口縁部ナデ。体部外面は縦方向のへう張り。	暗褐色	砂粒多し	普通	3	棟直	完形
90	土師器盃	17.5	35.5	7.0	長胴。口縁は外反。最大径は口縁部。	口縁部ナデ。体部外面は縦方向のへう張り。	暗褐色	砂粒多し	普通	15	棟直	3/4残
91	土師器盃	—	(35.0)	—	長胴で、やや下膨れ。口縁部欠損。	体部外面は縦方向のへう張り。内面口縁部ナデ。	灰褐色	砂粒赤色粒	普通	東・電18	3/4残	
92	土師器盃	(24.7)	(37.1)	8.0	長胴。口縁部外反。最大径は口縁部。	口縁部ナデ。体部外面は縦方向のへう張り。	暗褐色	砂粒多し	普通	3	下野	3/4残
93	土師器盃	(20.2)	(12.1)	—	球形。口唇部つまみ上げ。	口縁部ナデ。体部外面は縦方向のへう張り。	暗褐色	白色砂粒多	普通	下野	上中2/3残	

第3表 S181出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	装飾の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	底径	高さ							
1	土師器杯	14.0	5.3	—	体部外面に縦を持って、口縁部が内湾。	体部は内外ともへう張り。内湾ケルン上げ。	暗褐色	細砂粒	良好	№1下野	1445完形
2	土師器杯	(13.2)	(3.4)	—	体部外面に縦を持って、口縁部が内湾。	口縁部と体部外面ナデ。内面口縁部欠けへう張り。	暗褐色	砂粒	普通	北原東	1/5残
3	土師器杯	(12.5)	(3.7)	—	体部外面に縦を持って、口縁部が内湾。	口縁部ナデ。体部外面は放射状へう張り。	暗褐色	砂粒赤色粒	普通	上野	1/5残
4	土師器杯	(15.0)	(3.0)	—	口縁部は短く立つ。	口縁部ナデ。体部外面へう張り。内面口縁部ナデ。	暗褐色	砂粒赤色粒	普通	上野	1/5残
5	土師器杯	(14.0)	3.8	—	体部外面に縦、口縁部は短く内湾。	口縁部及体部外面ナデ。内面口縁部ナデ。	暗褐色	細砂粒	良好	G内中野	1/4残
6	土師器杯	11.8	4.0	—	丸底で、半球形状。	手ねね風。体部外面へう張り。内面へう張り。	暗褐色	砂粒赤色粒	普通	G内中野	完形
7	土師器杯	11.7	4.3	—	丸底で、半球形状。	手ねね風。体部外面へう張り。内面へう張り。	暗褐色	砂粒赤色粒	普通	№2下野	完形
8	土師器杯	12.0	6.2	6.8	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手ねね風。体部外面指ナデ。内面へう張り。	暗褐色	砂粒	普通	№3下野	完形

9	土師器環	8.5	5.4	6.5	平底で、口縁部は内湾気味に開く。	手取内縁。体部は外唇へ方り、内縁へ方らず。	淡褐色	砂粒多し	普通	壺No.15	ほぼ完成形
10	土師器鉢 (24.4)	7.5	—	—	大型。丸底で、半球形状。	口縁部縮みナシ。内面は放射状のへら磨き。	褐色	砂粒	普通	壺No.16	1/2既
11	須恵器環 (14.3)	3.5	9.0	—	底径が大きく、器高は浅め。	ロクロ成形。高縁外面はへら切り後ナシ。	灰褐色	微砂粒	良好	壺油	SH20-?
12	須恵器壺 (14.8)	(1.6)	—	—	口縁は大きく外反。口縁部つまみ上げ。	ロクロ成形。外面に磨き放射状。	褐色	微砂粒	普通	上層	小破片
13	土師器鉢 (18.9)	30.4	8.0	—	やや丸味のある長胴型。最大径は口縁部。	口縁部縮みナシ。胴部外面は縦方向へ方り。	暗赤褐色	砂粒多し	普通	壺20-13	2/3既
14	土師器鉢 (21.3)	33.4	6.8	—	長胴で口縁部が外反。最大径は口縁部。	口縁部縮みナシ。胴部外面は縦方向へ方り。	暗赤褐色	砂粒多し	普通	壺16-17	2/3既
15	土師器鉢 (17.5)	34.0	6.8	—	長胴で口縁部が外反。最大径は口縁部。	口縁部縮みナシ。胴部外面は縦方向へ方り。	暗赤褐色	砂粒多し	普通	壺No.11	ほぼ完成形
16	土師器鉢 (22.2)	31.8	7.2	—	長胴で口縁部が外反。最大径は口縁部。	口縁部縮みナシ。胴部外面は縦方向へ方り。	暗赤褐色	砂粒多し	普通	壺No.10-2	ほぼ完成形
17	土師器鉢 (16.0)	28.2	7.1	—	やや丸味のある長胴型。最大径は口縁部。	口縁部縮みナシ。胴部外面は縦方向へ方り。	褐色	砂粒多し	普通	No.18 未	ほぼ完成形

第9表 SI82出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調製の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	須恵器環 (12.0)	3.3	6.0	—	体部下端に丸味。	ロクロ成形。目録未切り。	灰褐色	微砂粒	良好	No.3下層	1/5既
2	須恵器鉢 (16.0)	(2.2)	—	—	口縁部は短く下がる。	ロクロ成形	青灰色	砂粒	良好	中層	1/6既
3	須恵器鉢				胴部縮み。	外層平打タタキ。内層縮み内文。	青灰色	砂粒	普通	No.2下層	
4	須恵器環				口縁部破片。1と同一個体か。	外面に磨き「天文字」あり					

第10表 SI83出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調製の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器環 (14.6)	4.6	—	—	丸底で半球形状。口唇部やや内反。	口縁部縮みナシ。体部内面は放射状のへら磨き。	淡褐色	砂粒	普通	10-8下層	ほぼ完成形
2	土師器鉢 (13.6)	(3.4)	—	—	体部外面に縦を持って、口縁部が内反。	口縁部縮みナシ。体部外面へ方り。内面へ方り。	褐色	砂粒	普通	下層	1/4既
3	土師器鉢 (13.5)	(3.7)	—	—	体部外面に縦を持って、口縁部が内反。	口縁部縮みナシ。体部内面は放射状のへら磨き。	褐色	砂粒	良好	中層	1/6既
4	土師器鉢 (24.0)	(3.6)	—	—	半球形状の大型の器か?	口縁部縮みナシ。体部内面は放射状のへら磨き。	褐色	砂粒	普通	中層	1/6既
5	土師器鉢 (21.5)	(9.7)	—	—	大型。外周に縦を有して口縁は内反。	口縁部縮みナシ。体部内面は放射状のへら磨き。	褐色	砂粒	普通	6-7床	1/3既
6	土師器壺 (12.2)	8.5	(7.6)	—	体部は丸味を持ち、口縁は短く外反。	口縁部縮みナシ。体部外面へ方り。	灰褐色	砂粒	普通	No.12中層	1/2既
7	土師器鉢	(7.0)	6.0	—	長胴型の短器。	胴部外面下部は縦方向へ方り。	暗褐色	砂粒多し	普通	No.2下層	1/3既
8	土師器鉢 (16.7)	—	—	—	長胴型。口唇部が外反。	口縁部縮みナシ。胴部外面縦方向へ方り。	灰赤褐色	砂粒	普通	No.1床	上半1/2既
9	土師器鉢 (17.0)	(16.2)	—	—	長胴で口縁部は外反。最大径は口縁部。	口縁部縮みナシ。胴部外面縦方向へ方り。	暗褐色	砂粒多し	普通	No.5 壺	下半欠損

第11表 SI88出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調製の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器環 (12.0)	(3.1)	—	—	丸底で、浅い半球形状。	口縁部縮みナシ。体部外面へ方り。	赤褐色	微砂粒	良好	上層	1/6既
2	土師器鉢 (12.7)	(2.8)	—	—	浅い半球形状。平底に近いのか?	口縁部縮みナシ。体部内面へ方り。	赤褐色	微砂粒	良好	中層	1/6既
3	須恵器環 (14.8)	4.0	10.1	—	底径が大きく、器高は浅め。	ロクロ成形。高縁外面はへら切り後ナシ。	灰白色	砂粒	普通	壺No.1	2/3既
4	須恵器環 (12.4)	3.8	(8.0)	—	底径が大きく、器高は浅め。	ロクロ成形。高縁外面はへら切り後ナシ。	青灰色	砂粒	普通	中層	1/4既
5	須恵器環	—	(2.2)	9.0	器高は器のハの字状。	ロクロ成形。高縁外面はへら切り後。高台縮み。	青灰色	砂粒	良好	No.1中層	体部欠損

第12表 SI89出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調製の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	須恵器環 (14.1)	4.3	6.9	—	底径は小さめで、体部は開く。	ロクロ成形。高縁へら切り。	青灰色	砂粒	良好	No.3床	ほぼ完成形
2	須恵器環 (13.8)	4.5	6.9	—	底径は小さめで、体部は開く。	ロクロ成形。高縁へら切り。	青灰色	砂粒	良好	No.13中層	1/2既
3	須恵器環 (13.9)	4.4	7.4	—	底径はやや大きめ。	ロクロ成形。高縁へら切り。	灰褐色	微砂粒	普通	No.26中層	1/2既
4	土師器鉢 (18.0)	(8.0)	—	—	口縁部はくの字に外反。	口縁部縮みナシ。胴部外面へ方り。	灰赤褐色	砂粒	普通	中層	1/4既
5	須恵器環	—	(2.2)	9.0	器高は器のハの字状。	ロクロ成形。高縁外面はへら切り後。高台縮み。	青灰色	砂粒	良好	No.1中層	体部欠損

第13表 SI90出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師甕	13.5	3.2	—	丸底で、半球形状。	内外面とも全面へう磨き。内面は放物状。	暗赤褐色	硬砂粒	良好	№13底	3/4残
2	土師甕	(11.7)	3.2	—	丸底で、半球形状。	内外面とも全面へう磨き。	暗褐色	硬砂粒	良好	№6下層	1/2残
3	土師甕	(15.0)	2.9	—	丸底で、浅い半球形状。	内外面とも全面へう磨き。	赤褐色	硬砂粒	良好	№3下層	1/4残
4	土師甕	(16.0)	2.8	—	丸底で、浅い半球形状。	内外面とも全面へう磨き。内面ウレシ仕上げ。	暗赤褐色	硬砂粒	普通	№5下層	1/4残
5	土師甕	14.0	4.0	—	浅い半球形状。口縁部が短く内傾。	口縁部のみナデ。外部は外面へう磨り、内面へう磨き。	赤褐色	硬砂粒	良好	№18下層	3/4残
6	土師甕	(16.8)	(3.2)	—	丸底で、浅い半球形状。	口縁部のみナデ。外部は外面へう磨り、内面へう磨き。	暗赤褐色	硬砂粒	普通	№2下層	1/4残
7	土師甕	13.5	3.7	—	浅い半球形状。口縁部が短く立つ。	口縁部と外部内面のみナデ。内面ウレシ仕上げ。	暗褐色	硬砂粒	普通	№11下層	完形
8	土師甕	12.6	5.9	—	丸底で、深めの半球形状。	内外面とも全面へう磨き。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	硬砂粒	普通	№19底	1/2残
9	土師甕	12.4	(9.6)	—	やや小型で球状。口縁部は短く外反。	口縁部のみナデ。外部は外面へう磨り後に削いへう磨き。	淡褐色	硬砂粒	良好	№17底	下半欠損

第14表 SI95出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師甕	(13.4)	3.3	(9.0)	浅い半球形状で、ほぼ平底。	体へう磨り内面へう磨り。内面全面へう磨き。	暗赤褐色	硬砂粒	良好	中層	1/4残
2	須恵磁器	15.2	(3.1)	—	天弁部はやや丸味を持つ。	口口の直線。天弁部のみへう磨り。つまみ直線。	青灰色	硬砂粒	良好	№4中層	つまみ欠損
3	須恵磁器	14.6	3.9	8.5	底径は大きく、器高は浅め。	底面は多角り傾斜面へう磨り。内面にウレシ仕上げ。	灰白色	硬砂粒	普通	№2下層	ほぼ完形
4	須恵磁器	13.2	3.8	7.2	底径は大きめで、器高は浅め。	底面は切り直しへう磨りナデ。外側に赤の直線。	灰白色	硬砂粒	普通	№7下層	完形
5	須恵磁器	13.0	3.9	7.0	体高は腰かに膨らみを持って開く。	口クラ成形。底面へう磨り。	青灰色	硬砂粒 白色粒	良好	№5中層	ほぼ完形
6	須恵磁器	(13.3)	4.7	8.0	広口の底面から体部が直線的に開く。	口クラ成形。底面へう磨り。底面外面へう磨り。	青灰色	硬砂粒 白色粒	良好	№1中層	1/2残
7	須恵磁器	(12.8)	4.3	(6.8)	体部はほぼ直線的に開く。	口クラ成形。底面へう磨り。底面外面へう磨り。	灰白色	硬砂粒 白色粒	良好	№1	1/4残
8	土師甕	(21.5)	(25.0)	—	母手。口縁部は、くの字に外反。	口縁部のみナデ。外部へう磨り(保留部、製法不明)	暗赤褐色	硬砂粒	普通	6中層	1/3残
9	土師甕	(21.0)	(19.0)	—	母手。口縁部は、くの字に外反。	口縁部のみナデ。外部へう磨り(保留部、製法不明)	暗赤褐色	硬砂粒	普通	№中層	1/3残

第15表 SI99出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師甕	11.8	3.5	—	丸底で、半球形状。	内外面とも全面へう磨き。内面は放物状。	暗褐色	硬砂粒	良好	中層	ほぼ完形
2	土師甕	11.4	2.8	—	丸底で、外面に脱。口縁は内傾気味に開く。	外部外面へう磨り。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	硬砂粒	普通	№2下層	ほぼ完形
3	土師甕	(12.8)	(4.0)	—	体部外面に脱。口縁は内傾気味に開く。	外部外面へう磨り。内面ウレシ仕上げ。	赤褐色	硬砂粒	普通	中層	1/4残
4	土師甕	(12.2)	(3.0)	—	体部外面に脱を有し。口縁部は内傾。	外部外面へう磨り。内面は放物状へう磨き。	赤褐色	硬砂粒	普通	上層	1/4残
5	土師甕	(12.0)	(3.4)	—	体部外面に脱を有し。口縁部は内傾。	外部外面へう磨り。内面は放物状へう磨きで、ウレシ仕上げ。	暗褐色	硬砂粒	普通	上層	1/4残

第16表 SI100出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師甕	12.7	(3.3)	—	丸底で、半球形状。	内外面とも全面へう磨き。内面は放物状。	暗褐色	硬砂粒	良好	№1	底面欠損
2	土師甕	(13.2)	(3.4)	—	半球形状。	口縁部のみナデ。外部は外面へう磨り。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	硬砂粒	普通	中層	1/4残
3	土師甕	(13.0)	(3.5)	—	半球形状。	口縁部のみナデ。外部は外面へう磨り。内面ウレシ仕上げ。	暗褐色	硬砂粒	普通	中層	1/5残
4	須恵磁器	11.3	2.8	—	口縁部内面にカスリ。空巻形つまみ直線。	口クラ成形。天弁部外面のみへう磨り。	灰白色	硬砂粒	良好	№1下層	完形
5	土師甕	(12.6)	(5.2)	—	小型球状。口縁部は短く外反。	口縁部のみナデ。外部は外面に横方向へう磨り。	暗赤褐色	硬砂粒 赤色粒	普通	№6	SI99内と統合
6	土師甕	—	(4.2)	9.8	平底で球状。	外部外面へう磨り後に削いへう磨き。	淡褐色	硬砂粒多し	普通	№3中層	底面のみ

第17表 SI101出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師甕	(22.6)	(16.7)	—	球状で大型。口縁部は短く外反。	口縁部のみナデ。外部は外面へう磨りナデ。	淡褐色	硬砂粒 白色粒	普通	№1下層	

第18表 SI104出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	構成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師甕	(13.0)	(3.3)	—	体部外面に脱。口縁部は中々内傾。	外部外面へう磨り。内面はへう磨り。	淡褐色	硬砂粒	普通	上層	1/4残

第19表 SB70出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器杯	(14.0)	3.4	—	底部外面に縦を持って、口縁部が内反。	口縁部斜ナズ。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	砂鉄多	普通	府中特設住居中、1/2区	ほぼ完成形
2	手取土器	4.4	2.3	3.5	厚めの縁部から口縁部をつまみ出し。	内外とも指図のまま。	暗褐色	砂鉄	普通	府中特設住居中、1/2区	ほぼ完成形

第20表 SB91出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器盃	—	(4.5)	(11.2)	薄腹皿。底部破片。	外面はナズ。	明褐色	砂鉄多	普通	北条特設住居土中	ほぼ完成形

第21表 SK80出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器杯	(16.0)	3.7	—	浅い半球形状。口縁が短く立つ。	外面はへう張り縁部はいへう張り。内面はへう張り。	暗褐色	砂鉄多	良好	上野	1/2区
2	土師器杯	(16.0)	3.5	—	浅い半球形状。口縁が短く立つ。	底部外面へう張り。内面ウレシ仕上げ。	明褐色	砂鉄多	良好	上野	1/3区

第22表 SI203出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器盃	20.5	27.8	4.0	薄手。口縁部はくの字に外反。	胴部外面へう張り。胴部内面へう張り。	明褐色	砂鉄	普通	堀土中	3/4区
2	土師器盃	(22.0)	(9.4)	—	口縁部は短く外反。口唇が覗み出し。	口縁部斜ナズ。胴部ヘラナズ。	明赤褐色	砂鉄	普通	No.2堀土中	1/5区
3	須恵器盃	18.5	4.0	—	尖円部はやや高め。口縁は短く下がる。	コラコ成形。又片外面縁部へう張り後つまみ出し。	灰色	砂鉄 白色	良好	堀土中	1/3区

第23表 SI206出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器盃	(18.4)	(14.2)	—	小型。口縁部は短く外反。	口縁部斜ナズ。胴部内面へう張り。	淡褐色	砂鉄 白色	普通	堀土中	1/4区
2	土師器盃	13.0	(15.4)	—	小型台付型。薄手。コの字状口縁。	口縁部斜ナズ。胴部内面へう張り。	暗褐色	砂鉄	普通	堀	台部欠損
3	須恵器盃	—	13.7	3.9	小型の尖形部(底G)。口縁部欠損。	コラコ成形。底部糸切り。胴部下縁へう張り。	灰色	砂鉄 白色	良好	No.1堀土中	ほぼ完成形

第24表 SI207出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器盃	(20.0)	(5.8)	—	口縁は中々コの字状。薄手。	胴部外面へう張り。	暗褐色	砂鉄	良好	堀土中	1/4区

第25表 SI208出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	須恵器杯	—	(2.3)	7.4	やや高めの高台が付く。底部欠損。	コラコ成形。底部外面縁部へう張り底は白色。	青灰色	砂鉄 白色	良好	堀土中	底面2/3残
2	須恵器平皿	6.2	(6.7)	—	平皿の形。口縁はまっすぐ開く。	コラコ成形。胴部を穿孔し。胴部の断面は白色。	灰白色	緻密	良好	堀土中	胴部欠損
3	電器土製品	—	(17.0)	(21.0)	台座及び縁付口縁付の破片。	外面は横方向の縞目調整。内面はナズ。	淡褐色	砂鉄多	普通	堀土中	

第26表 SI209出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器盃	(26.0)	(13.3)	—	尖形部。口縁部は中々強く外反。	口縁部斜ナズ。胴部内面へう張り。	淡褐色	砂鉄	良好	No.2堀土中	1/6区
2	土師器高杯	13.2	7.4	9.5	平部は外面に鋭。短脚。	胴部内面へう張り。外部内面ウレシ仕上げ。	淡赤褐色	砂鉄 白色	普通	No.1堀土中	ほぼ完成形

第27表 SI211出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器盃	(15.0)	(21.5)	7.5	小型尖形部。口縁部はゆるく外反。	口縁部斜ナズ。胴部内面へう張り。内面ウレシ仕上げ。	暗褐色	砂鉄	普通	No.1堀土中	1/2区
2	須恵器杯	(13.0)	3.1	(8.0)	底径が広く。器高は浅め。	コラコ成形。底部外面縁部へう張り。	灰色	砂鉄 白色	良好	堀土中	1/4区

第28表 SI212出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器杯	(14.0)	(3.8)	—	底部外面に鋭。口縁は内内気味に開く。	口縁部斜ナズ。底部外面へう張り。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	砂鉄 白色	普通	堀土中	1/4区
2	土師器杯	(12.4)	(4.2)	—	底部外面に鋭。口縁は内内気味に開く。	口縁部斜ナズ。底部外面へう張り。内面ウレシ仕上げ。	淡褐色	砂鉄 白色	普通	堀土中	1/3区

III 茂原向原遺跡

本遺跡の北関東自動車側道（市道1791号線）建設地内で確認された遺構は、竪穴住居跡8軒、掘立柱建物跡4棟、土坑、溝等である。なお遺構番号は上神主・茂原官衙遺跡の同側道建設地内からの継続である。

1 竪穴住居跡

S1110 (第66・67・79図)

概要：やや大型の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-8°-Eである。 **位置：**調査区のほぼ中央で、台地上の高位に位置している。 **規模：**東西7.50m×南北不明で、確認面から床面までの深さは0.35mである。 **覆土：**自然堆積である。 **床面：**ほぼ平坦で、中央部はかなり硬化している。 **柱穴：**P1~4（直径45~70cm・深さ40~85cm）の4本が確認されているが、配置的に主柱はP1・P3とみられる。 **壁溝：**幅15~20cm・深さ10cm前後の壁溝がほぼ全周するものとみられる。 **間仕切り溝：**壁溝とほぼ同規模の溝が、東壁側にみられる。 **入口ピット・貯蔵穴：**確認されていない。 **竈：**北壁の東西に2つの竈が確認されている。いずれも後世の溝や土坑の攪乱を受けているが、東の竈は壁から約2m切り込んだ長い煙道が特徴である。なお2つの竈の新旧関係は不明である。 **出土遺物：**図示し得たのは土師器坏4点・須恵器坏2点・皿1点・蓋1点・硯1点・土錘1点及び鉄滓で、いずれも覆土の下層から床面の出土である。

S1111 (第68・79図)

概要：中規模の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-15°-Eである。 **位置：**調査区のやや西寄りで、北半分は調査区外となっている。 **規模：**東西5.60m×南北不明で、確認面から床面までの深さは0.55mである。 **覆土：**自然堆積である。 **床面：**ほぼ平坦で、中央部は硬化している。 **柱穴：**4本主柱とみられるが、確認されたのはP1・2（直径45~55cm・深さ65cm）の2本だけである。 **壁溝：**幅15~20cm・深さ10cm前後の壁溝がほぼ全周するものとみられる。 **貯蔵穴：**南東コーナー寄りに位置し、平面形は115cm×93cmの不整形円で、深さは25cmである。 **間仕切り溝・入口ピット・竈：**確認されていない。 **出土遺物：**出土遺物は比較的多く、図示し得たのは土師器坏3点・壺2点・須恵器坏2点・壺2点及び瓦1点・砥石1点・鉄釘10点などで、いずれも覆土の下層から床面の出土である。なお須恵器坏にはいずれも墨書（「大殿」か）が、また8の土師器甕胴部片には墨画が認められる。

S1112 (第69・80図)

概要：小型の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-22°-Eである。一度建て替えが成されている。 **位置：**調査区のやや西寄りで、S1111のすぐ東脇に並ぶように位置している。 **規模：**南北3.95m×東西3.45mで、確認面から床面までの深さは0.35mである。なお建て替えに伴って西壁側が若干拡張されている。 **覆土：**自然堆積であるが、建て替えに伴って旧床面は厚さ10cm前後のローム土で貼床されている。 **床面：**ほぼ平坦で、電前面は硬化している。 **柱穴：**確認されていない。 **壁溝：**旧床面に伴って幅15~20cm・深さ10cm前後の壁溝が部分的に確認される。 **貯蔵穴：**不整形のもの電右脇（85cm×65cm・深さ30cm）と南西コーナー（65cm×55cm・深さ35cm）の2カ所で確

認されている。 **入口ピット**：東壁中央で直径30cm・深さ25cmの小穴が確認されている。 **竈**：北壁ほぼ中央に位置し、壁を0.60m切り込んで煙道が築かれている。 **出土遺物**：比較的多く出土しており、図示し得たのは土師器坏2点・甕3点・甗1点、須恵器壺1点・蓋1点及び灰坑塼1点で、いずれも覆土の下層から床面の出土である。なお土師器甕6・7は同一個体と思われるが、外面に墨画が認められる。

S1113 (第70・80図)

概要：小型の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-25°-Eである。 **位置**：調査区をやや西寄り、S1112の南に並ぶように位置している。 **規模**：南北2.60m×東西3.65mと東西に長い長方形で、確認面から床面までの深さは0.35mである。 **覆土**：自然堆積である。 **床面**：ほぼ平坦で、電前面は硬化している。 **柱穴**：確認されていない。 **壁溝**：幅15～20cm・深さ10cm前後の壁溝がほぼ全周する。 **貯蔵穴**：竈の前面に45cm×55cm・深さ30cmの小土坑が確認されている。 **入口ピット**：東壁中央付近に、幅25cm・長さ65cm・深さ10cmの溝状の凹みが確認されている。 **竈**：北壁東寄りに位置し、壁を0.65m切り込んで煙道が築かれている。 **出土遺物**：図示し得たのは土師器の坏4点・甕2点及び鉄釘3点などで、いずれも覆土の下層から床面の出土である。

S1126 (第71・81図)

概要：中規模の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-28°-Eである。 **位置**：調査区の西部で、西側の浅い谷を臨む緩斜面地に位置している。 **規模**：南北4.65m×東西5.05mで、確認面から床面までの深さは0.50mである。 **覆土**：自然堆積である。 **床面**：ほぼ平坦で、電前面から中央部は硬化している。 **柱穴**：確認された主柱穴はP1～3（直径45～55cm・深さ50～65cm）の3本で、北東の1本は調査区外である。 **壁溝**：幅20cm前後・深さ10cm前後の壁溝がほぼ全周する。 **間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴**：確認されていない。 **竈**：北壁やや東寄りに位置し、壁を0.45m切り込んで煙道が築かれている。 **出土遺物**：図示し得たのは須恵器の高台付坏2点・蓋2点・甕1点、土師器の坏4点・甕3点などで、いずれも覆土の下層から床面の出土である。

S1127 (第72・80図)

概要：中規模の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-34°-Eである。 **位置**：調査区の西部で、西側の浅い谷を臨む緩斜面地に位置している。 **規模**：南北5.15m×東西不明で、確認面から床面までの深さは0.65mである。 **覆土**：自然堆積である。 **床面**：ほぼ平坦で、中央部は硬化している。 **柱穴**：確認された主柱穴はP1～2（直径35～40cm・深さ75～87cm）の2本で、残り2本は調査区外である。 **壁溝**：幅20～25cm・深さ10cm前後の壁溝がほぼ全周するとみられる。 **間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴・竈**：確認されていない。 **出土遺物**：図示し得たのは須恵器の蓋6点、土師器の坏2点・鉢1点・甕3点及び磁石1点などで、いずれも覆土の下層から床面の出土である。

S1128 (第73・81図)

概要：小型の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-17°-Eである。 **位置**：調査区の東部で、西側の浅い谷を臨む緩斜面地に位置している。 **規模**：南北3.25m×東西3.90mと東西にやや長い長方形で、確認面から床面までの深さは0.30mである。 **覆土**：自然堆積である。 **床面**：ほぼ平坦で、電前面は硬化している。 **柱穴・壁溝・貯蔵穴・入口ピット**：確認されていない。 **竈**：北壁東寄

りに位置するが、煙道部は攪乱を受けている。出土遺物：図示し得たのは須恵器の蓋1点・高台杯1点、土師器の坏2点・壺1点で、いずれも覆土の下層から床面の出土である。

S1129 (第74・82図)

概要：やや大型の堅穴住居跡で、主軸の方位はN-38°-Eである。位置：調査区の最西端で、西側の浅い谷を臨む緩斜面地に位置している。規模：南北6.65m×東西不明で、確認面から床面までの深さは0.55mである。覆土：自然堆積である。床面：ほぼ平坦で、電前面から中央部は硬化している。柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴：確認されていない。竈：位置は北壁のほぼ中央か。壁を0.75m切り込んで煙道が構築されている。出土遺物：図示し得たのは土師器の坏1点・高台杯1点・壺2点で、いずれも覆土の下層から床面の出土である。

2 掘立柱建物跡

SB116 (第75・76図)

概要：桁行3間×梁行2間の側柱式の南北棟建物で、南北の方位はN-10°-Eである。位置：調査区のやや東寄り、台地上の高位に位置している。SB117に切られている。規模・柱間寸法：桁行総長は6.75mで、柱間寸法は東側柱列が北から2.25+2.20+2.30m、西側柱列が北からX+2.15+2.30mである。梁行総長は4.55mで、柱間寸法は北妻柱列が東から2.35m+X、南妻柱列が東から2.30+2.25mである。面積は30.7㎡である。なお南妻柱列の間内側には、間仕切りと思われる2本の柱穴があり、この柱間寸法は東から1.40+1.80+1.35mである。掘方：平面形は直径0.65～0.85mの円形で、確認面からの深さは0.45～0.70mである。大部分が柱痕跡を残しており、柱の太さは15cm前後である。また、間仕切りの柱穴は直径0.35～0.50m・深さ20cm前後と一回り小さく、柱の太さも10cm弱とみられる。出土遺物：なし。

SB117 (第75・76・82図)

概要：桁行3間×梁行2間の側柱式の東西棟建物で、南北の方位はN-2°-Wである。位置：調査区のやや東寄り、台地上の高位に位置している。SB116を切っている。規模・柱間寸法：桁行総長は6.25mで、柱間寸法は南側柱列が東から2.00+2.00+2.25m、北側柱列が東から2.55+1.50+Xmである。梁行総長は4.70mで、柱間寸法は東妻柱列が南から2.25+2.45m、西妻柱列が南から2.20+Xmである。面積は29.4㎡である。掘方：平面形は直径0.45～0.65mの円形で、確認面からの深さは0.20～0.35mである。柱痕跡は残されていない。出土遺物：土師器の坏2点・高台付杯1点・壺1点で、いずれも柱穴埋土中からの出土である。

SB123 (第77図)

概要：桁行3間以上×梁行2間の側柱式の南北棟建物で、南北の方位はN-2°-Eである。位置：調査区の東寄り、東側の浅い谷を望む緩斜面上に位置している。規模・柱間寸法：桁行総長は6.40m以上で、柱間寸法は東側柱列が南から2.10+2.05+2.25m、西側柱列が南から2.05+2.20+Xmである。梁行総長は5.15mで、柱間寸法は南妻柱列で東から2.50+2.65mである。掘方：平面形は直径0.45～0.60mの円形で、確認面からの深さは0.20～0.35mである。柱痕跡は残されていない。出土遺物：なし。

SB130 (第78図)

概要：桁行3間×梁行2間の側柱式の南北棟建物で、南北の方位はN-30°-Eである。位置：調査区の西寄り、西側の浅い谷を望む緩斜面上に位置している。規模・柱間寸法：桁行総長は7.00mで、柱間寸法は西側柱列が北から2.35+2.30+2.35m、東側柱列が北から2.10+2.50+Xmである。梁行総長は4.15mで、柱間寸法は北妻柱列で東から2.25+1.90mである。面積は29.0㎡である。掘方：平面形は直径0.45～0.60mの円形で、確認面からの深さは0.55～0.70mである。柱痕跡は残されていない。出土遺物：なし。

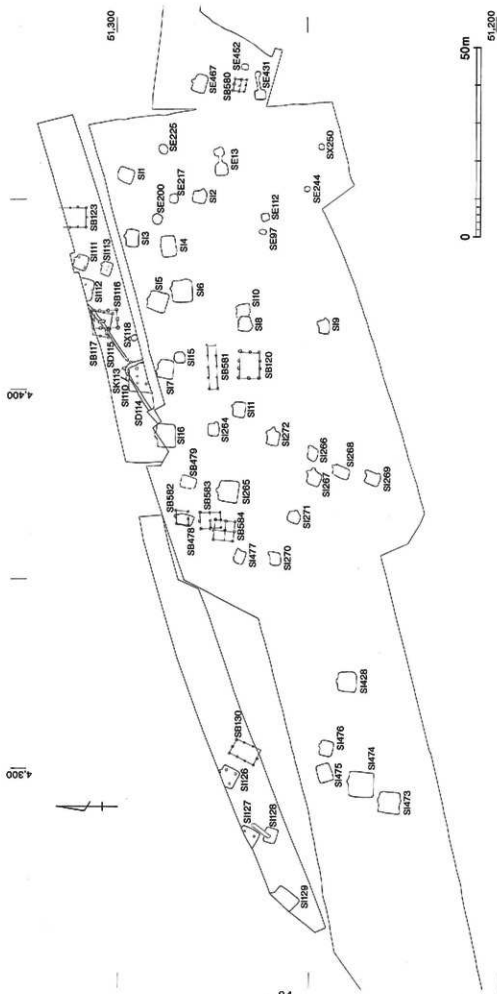
3 その他

井戸 (SE118) (第78図)

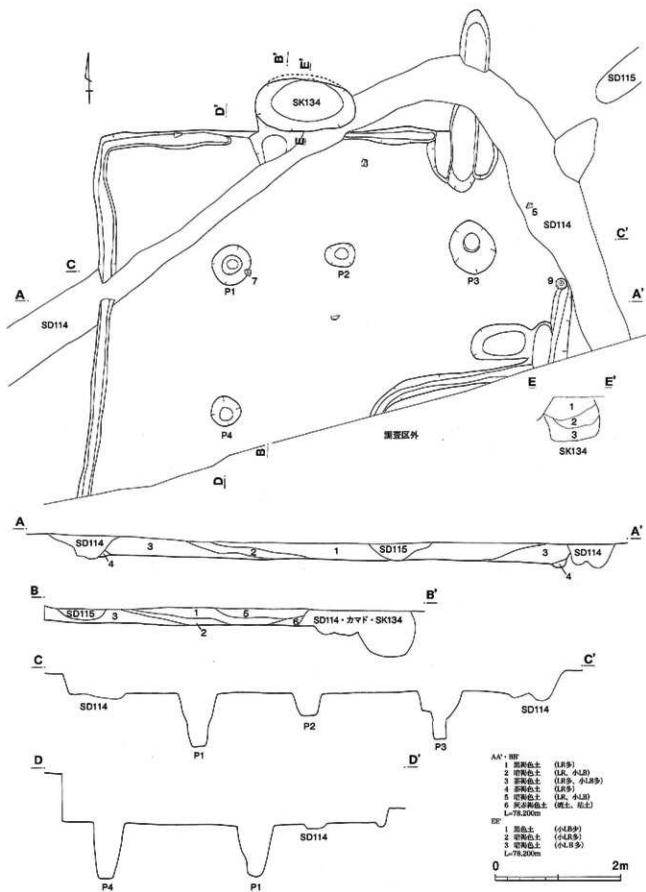
調査区のほぼ中央部に掘られた素掘りの井戸である。平面形は開口部が楕円形(1.70×1.45m)、井筒部が円形(直径0.75m)である。確認面からの深さは3m以上で、鹿沼軽石層を貫いている。覆土は自然堆積で、全体にロームブロックや鹿沼軽石粒等が多く含まれている

土坑 (SK134) (第66図)

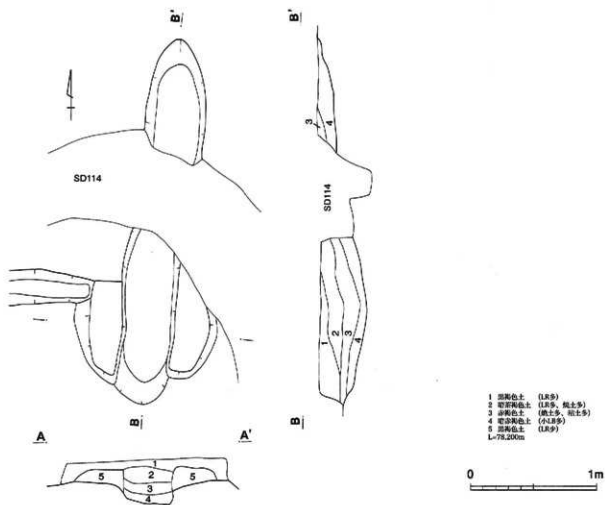
調査区のほぼ中央に位置し、SI110の電を切っている。平面形は1.60×0.85mの東西に長い楕円形で、確認面からの深さは0.75mである。なお北側の壁が若干オーバーハングしており、断面が「L」字形に近い土坑である。



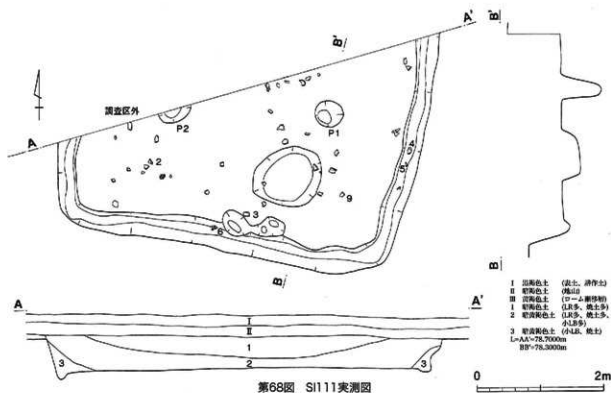
第65圖 茂原向原遺跡遺構配置圖



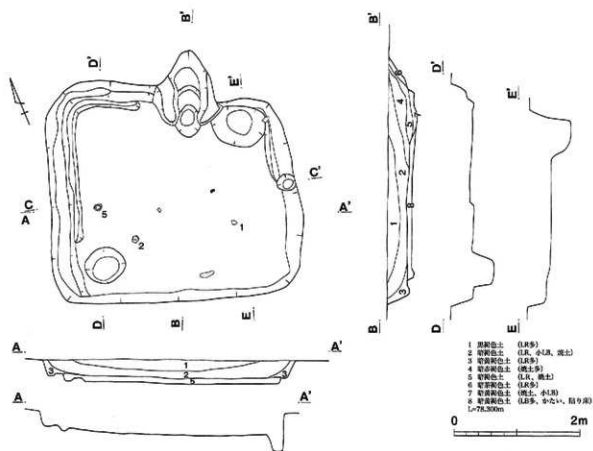
第66図 S110 (1)・SK134実測図



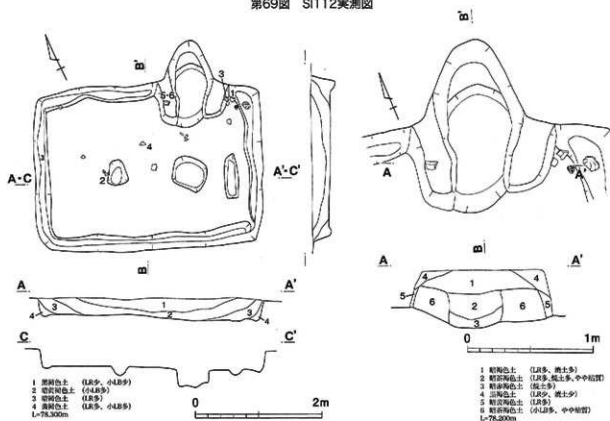
第67图 SI110实测图(2)



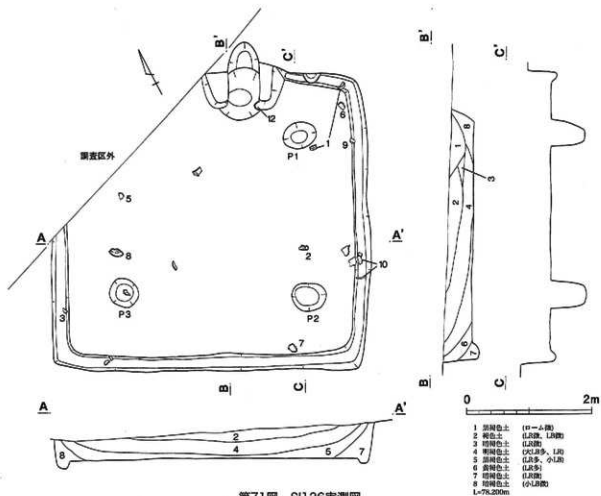
第68图 SI111实测图



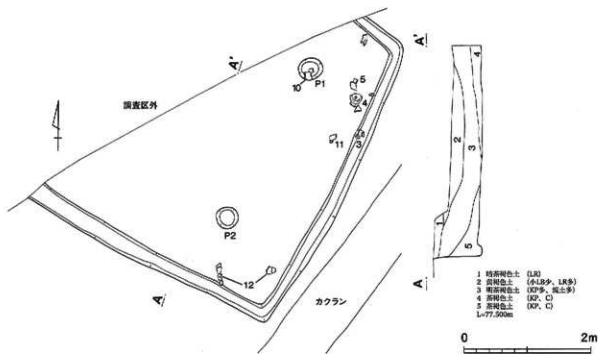
第69图 SI112实测图



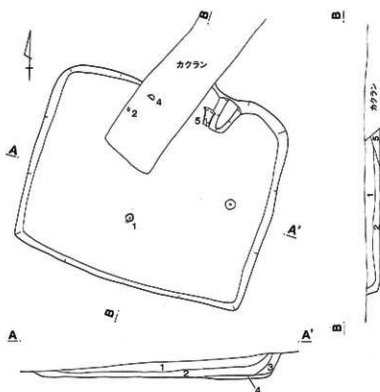
第70图 SI113实测图



第71図 SI126実測図



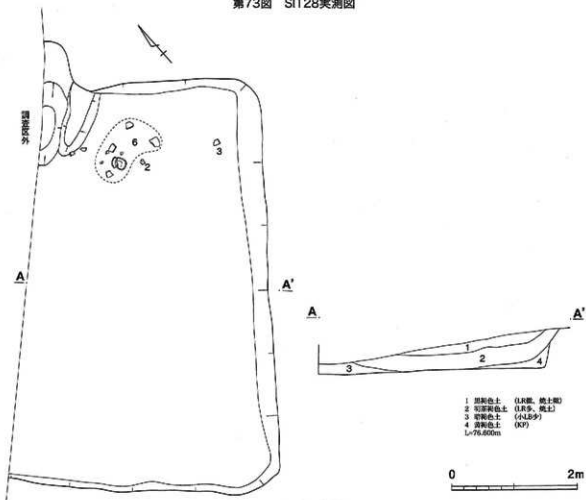
第72図 SI127実測図



- 1 黄褐色土 (小L99)
 - 2 黄褐色土 (C=小多)
 - 3 砂質黄褐色土 (L189, 小L189)
 - 4 黄褐色土 (小L99, L189)
 - 5 C=小層
- L=78.600m

0 2m

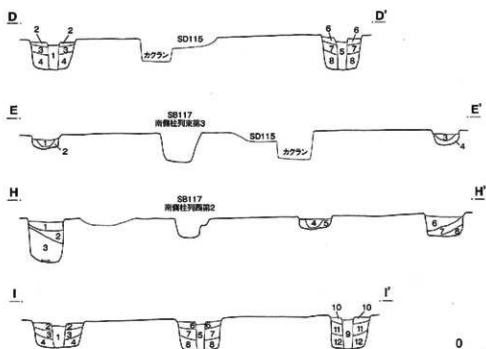
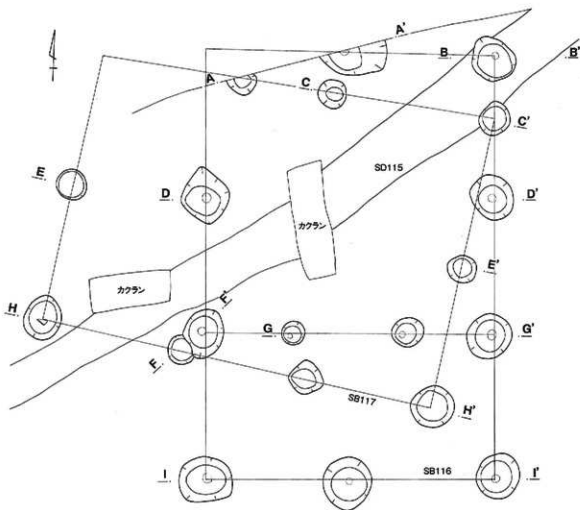
第73図 SI128実測図



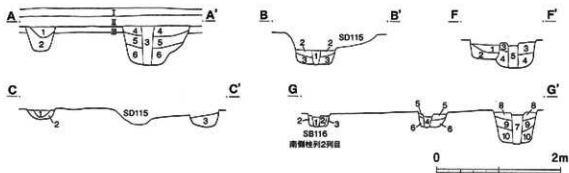
- 1 黄褐色土 (L189, 砂土層)
 - 2 黄褐色土 (L189, 砂土)
 - 3 黄褐色土 (小L99)
 - 4 黄褐色土 (K7)
- L=78.600m

0 2m

第74図 SI129実測図



第75図 SB116・117実測図(1)



AA'

- 1 粉褐色土 (粘土最多)
- 2 灰褐色土 (灰少)
- 3 灰褐色土 (粘土最多)
- 4 粉褐色土 (小灰少)
- 5 灰褐色土 (灰少)
- 6 灰褐色土 (小灰多)

BB'

- 1 粉褐色土 (灰)
- 2 粉灰褐色土 (小灰多)
- 3 灰褐色土 (灰)

CC'

- 1 灰褐色土 (粘土多)
- 2 灰褐色土 (灰多, 灰少)
- 3 灰褐色土 (粘土多, 粘土最多)

DD'

- 1 灰褐色土 (粘土最多)
- 2 灰褐色土 (小灰)
- 3 灰褐色土 (小灰多)
- 4 粉灰褐色土 (小灰多)
- 5 灰褐色土 (粘土最多)
- 6 灰褐色土 (小灰多)
- 7 灰褐色土 (小灰多)
- 8 灰褐色土 (小灰多)

EE'

- 1 粉灰褐色土 (小灰)
- 2 粉灰褐色土 (灰)
- 3 灰褐色土 (粘土多, 粘土多)
- 4 灰褐色土 (灰)

FF'

- 1 粉灰褐色土 (灰)
- 2 灰褐色土 (灰)
- 3 粉灰褐色土 (灰, 小灰)
- 4 灰褐色土 (灰多, 小灰)
- 5 粉灰褐色土 (灰少)

GG'

- 1 灰褐色土 (灰多)
- 2 粉灰褐色土 (小灰多)
- 3 灰褐色土 (灰)
- 4 灰褐色土 (灰少)
- 5 灰褐色土 (小灰多)
- 6 灰褐色土 (小灰多)
- 7 灰褐色土 (粘土最多)
- 8 灰褐色土 (小灰多)
- 9 粉灰褐色土 (小灰多)
- 10 灰褐色土 (灰少)

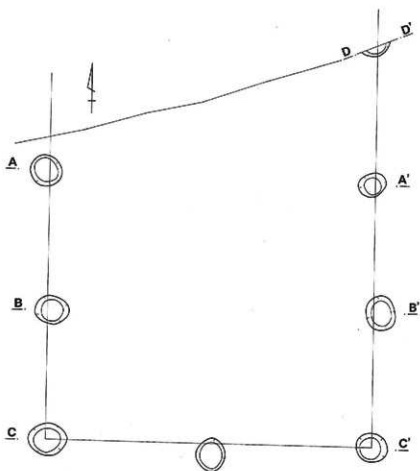
HH'

- 1 灰褐色土 (中灰)
- 2 粉褐色土 (小灰, 灰)
- 3 灰褐色土 (粘土多, C少)
- 4 粉灰褐色土 (粘土)
- 5 灰褐色土 (灰)
- 6 灰褐色土 (小灰, 粘土)
- 7 粉灰褐色土 (灰少)
- 8 灰褐色土 (灰多)

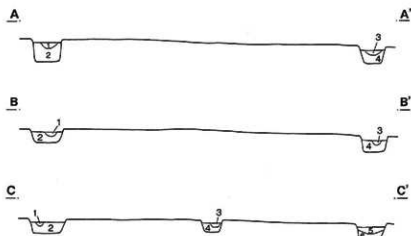
II'

- 1 灰褐色土 (粘土最多, 中灰多)
- 2 粉灰褐色土 (小灰)
- 3 粉褐色土 (灰多)
- 4 灰褐色土 (灰少)
- 5 灰褐色土 (灰多)
- 6 粉灰褐色土 (小灰多)
- 7 灰褐色土 (灰)
- 8 粉灰褐色土 (小灰)
- 9 灰褐色土 (灰多)
- 10 粉灰褐色土 (小灰多)
- 11 灰褐色土 (灰多)
- 12 灰褐色土 (小灰多)

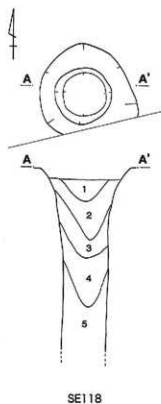
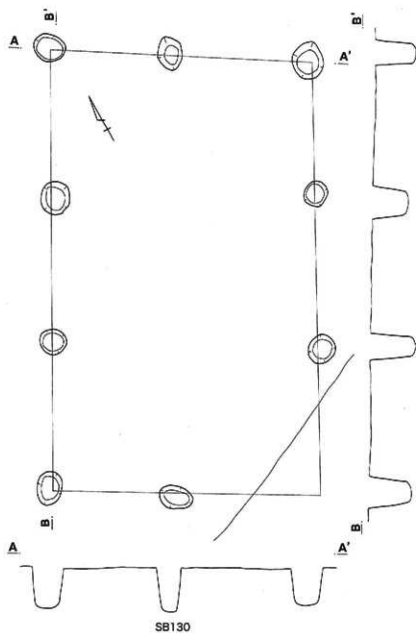
第76图 SB116·117实测图(2)



- AK
- 1 灰黄色土 (L层少)
 - 2 黄褐色土 (小L层多)
 - 3 紫褐色土 (L层?)
 - 4 黄褐色土 (小L层多)
 - L=78.300m
- BB'
- 1 灰黄色土 (L层?)
 - 2 黄褐色土 (H=△多)
 - 3 灰黄色土 (L层?)
 - 4 黄褐色土 (小L层多)
 - L=78.300m
- CC'
- 1 灰黄色土 (L层?)
 - 2 黄褐色土 (H=△多)
 - 3 灰黄色土 (L层?)
 - 4 紫褐色土 (小L层多)
 - 5 灰黄色土 (L层?, 小L层多)
 - 2 黄褐色土 (小L层多)
 - L=78.300m
- DD'
- 1 黄土
 - II 灰黄色土
 - III 紫褐色土
 - IV 灰黄色土 (L层?)
 - 2 黄褐色土 (小L层多)
 - L=78.300m



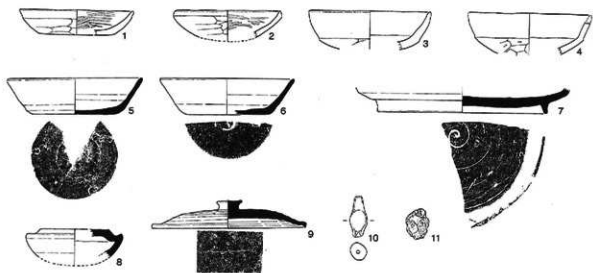
第77图 SB123实测图



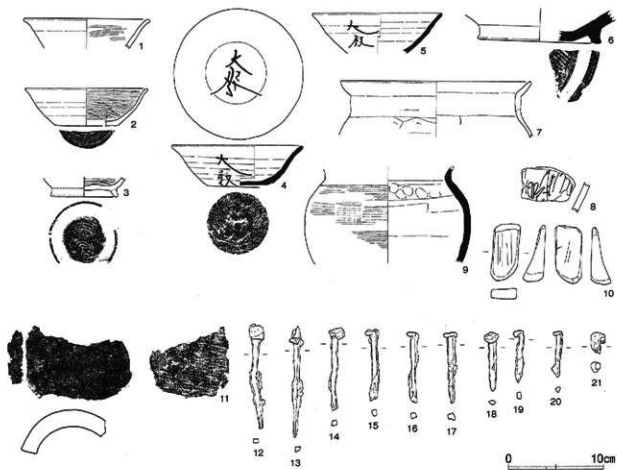
- 1 黄粘土 (OP?)
 - 2 黄粘土 (OP, LB)
 - 3 黄褐色土 (OP?, LB?)
 - 4 黄褐色土 (OP, LB)
 - 5 黄褐色土 (OP?, LB?)
- L=78.200m



第78图 SB130·SE118実測図

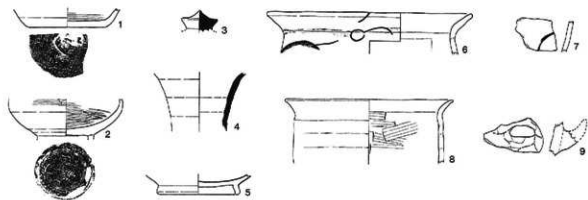


SI110

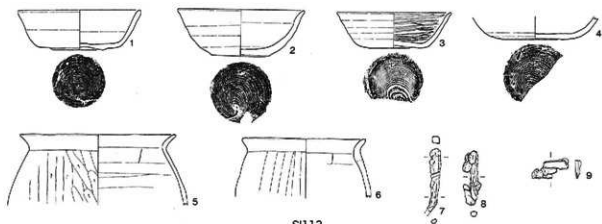


SI111

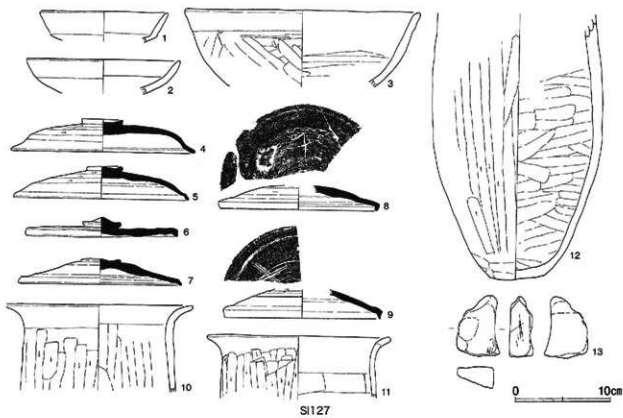
第79図 SI10・111出土遺物



SI112

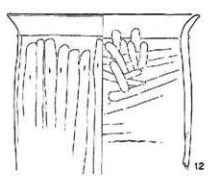
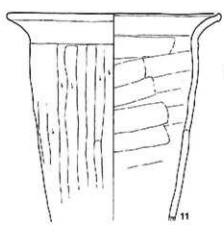
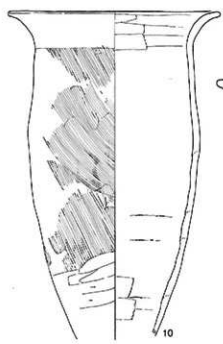
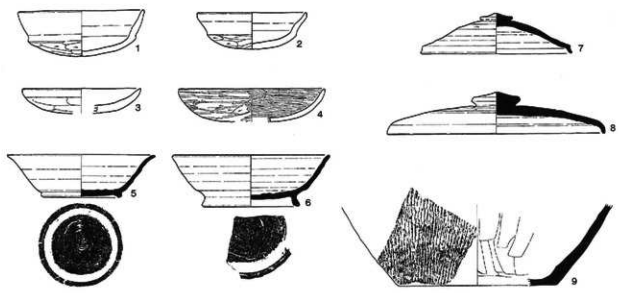


SI113

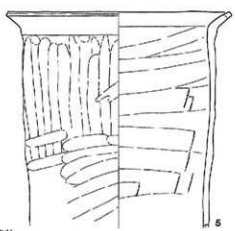
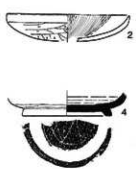
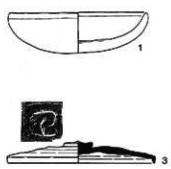


SI127

第80圖 SI112・113・127出土遺物



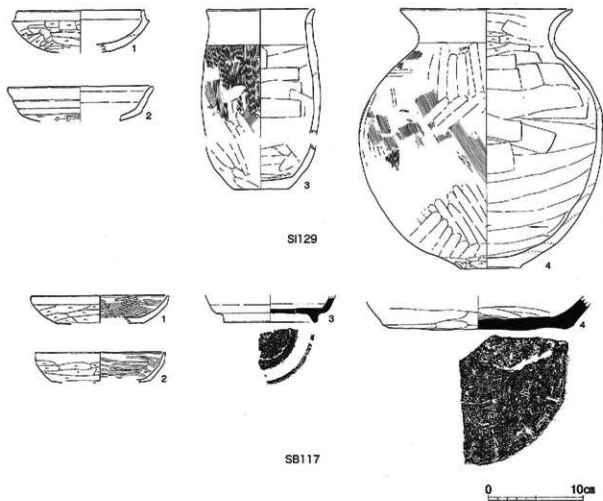
SI126



0 10cm

SI128

第81圖 SI126・128出土遺物



第82図 SI129・SB117出土遺物

第29表 SI110出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器坪	(12.0)	2.5	(8.0)	平底の小形の皿形。	底部から体部外周へう盛り。内面へう磨き。	淡赤褐色	砂・灰・赤色土	良好	上層	1/5残
2	土師器坪	(11.0)	(2.5)	—	半皿形状。	底部から体部外周へう盛り。内面へう磨き。	淡赤褐色	砂・灰・赤色土	良好	上層	1/5残
3	土師器坪	(13.0)	(4.0)	—	体部外周に脱。口縁は内湾気味に開く。	体部外周へう盛り。内面ワムシ仕上げ。	淡褐色	砂粒	普通	上層	1/6残
4	土師器坪	(13.0)	(4.0)	—	体部外周に脱。口縁は内湾気味に開く。	体部外周へう盛り。内面ワムシ仕上げ。	淡褐色	砂粒	普通	上層	1/6残
5	土師器坪	14.2	3.8	9.1	口縁が大きく、器高はやや低め。	口口成形。底部外周にへう切り痕ナシ。	青灰色	砂・灰・赤色土	良好	6・中層	3/4残
6	土師器坪	(14.2)	3.7	(9.0)	口縁が大きく、器高はやや低め。	口口成形。底部外周にへう切り痕ナシ。	明青灰色	砂・灰・赤色土	普通	5・中層	1/3残
7	土師器坪	(24.0)	3.9	(17.5)	高台付き。大型の皿。	口口成形。底部外周にへう盛り痕が内面に出る。	淡灰色	焼砂粒	良好	3・中層	1/5残
8	土師器坪	(7.0)	(3.1)	—	杯型中空の皿。腹面に自然輪付首。	口口成形。杯身の口縁部を削いで縁とする。	灰色	焼砂粒	良好	中層	1/6残
9	土師器坪	16.2	2.9	—	つまみはやや低め。口縁は短く下がる。	天井外周にへう盛り。天井内面にへう磨きナシ。	明青灰色	砂・灰・赤色土	良好	1 下層	欠片

第30表 SI111出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器坪	(13.0)	(3.0)	—	口縁部は僅かに外反。	口口成形。内面へう磨き。口縁部脱。	暗褐色	砂・灰・赤色土	良好	下層	1/4残
2	土師器坪	12.8	4.9	(0.5)	体部に丸味を持ち。口縁が僅かに外反。	口口成形。底部赤切り。内面へう磨き。口縁部脱。	暗褐色	砂・灰・赤色土	良好	9 下層	1/2残
3	土師器坪	—	(2.2)	7.0	ハの字に開く高台。	口口成形。赤切り後高台成形。杯部内面赤色地。	暗褐色	砂粒	普通	14 下層	体部欠損
4	土師器坪	13.7	4.5	6.5	体部がやや膨らみ。口縁は外反。	底部へう切り。見込み部に指首「大蛇」か？	明青灰色	焼砂粒	良好	34・下層	1/3欠損
5	土師器坪	(13.7)	(4.2)	—	体部の破片。	口口成形。体部外周に指首「大蛇」か？	明青灰色	焼砂粒	良好	33 下層	1/4残
6	土師器坪	—	(3.5)	(13.0)	高台の破片。	外周平行タタキ。磨り付け高台。	灰色	焼砂粒	良好	33 下層	1/4残
7	土師器坪	(20.1)	(5.8)	—	口縁部はコの字に外反。	口縁部脱ナシ。底部外周へう盛り。	暗褐色	砂粒	普通	下層	1/4残
8	土師器坪	—	—	—	胴部破片。	外周に指首。	明赤褐色	砂粒	普通	下層	—
9	土師器坪	(12.0)	(10.5)	—	小型球脚形。口縁は短く立つ。	底部外周平行タタキ。内面磨り仕上げ。	暗灰色	砂粒	普通	26 中層	1/3残

第31表 SI112出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器坪	—	(2.0)	(8.0)	底部破片。	口口成形。底部へう切り。内面暗褐色地。	暗褐色	焼砂粒	良好	4下層	1/4残
2	土師器坪	—	(3.9)	—	高台丸形。体部に丸味。輪形。	口口成形。赤切り後高台成形。杯部内面赤色地。	暗褐色	焼砂粒	良好	2下層	2/3残
3	土師器坪	—	(2.3)	—	宝珠形のつまみ。上面に自然輪。	口口成形。	灰色	焼砂粒	良好	下層	—
4	土師器坪	—	(6.0)	—	長形。胴部破片。腹面か？	口口成形。	青灰色	砂粒	良好	電	1/2残
5	土師器坪	—	(2.1)	8.4	高台部の破片。腹面か？	口口成形。体部内外に磨削。	灰白色	磨面	良好	1下層	—
6	土師器坪	(21.8)	(4.3)	—	長形。口縁部は外反。外周に指首。	口縁部脱ナシ。胴部外周にへう磨きナシ。	明褐色	砂粒	普通	上層	1/4残
7	土師器坪	—	—	—	Gの胴部片。外周に指首。	—	—	—	—	—	—
8	土師器坪	(17.8)	(6.6)	—	長形。口縁部は短く外反。	口縁部脱ナシ。胴部外周に指首が取残。	明褐色	砂粒	普通	下層	1/5残
9	土師器坪	—	—	—	指手の破片。	手柄ね。器ナシ。	明褐色	砂粒	普通	上層	—

第32表 SI113出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器坪	12.8	4.2	5.5	胴部に張り。口縁はまっすぐ開く。	口口成形。底部赤切り。	暗褐色	焼砂粒	良好	9・10層	1/3欠損
2	土師器坪	13.3	4.9	6.3	体部に丸味を持ち口縁は僅かに外反。	口口成形。底部赤切り。	明褐色	砂粒	良好	4 下層	3/4残
3	土師器坪	12.1	3.7	5.3	口縁部は僅かに外反。	口口成形。底部赤切り。内面へう磨き。口縁部脱。	褐色	砂・灰・赤色土	良好	9 電	1/2残
4	土師器坪	—	(2.3)	(7.0)	胴部の破片。	口口成形。底部赤切り。内面へう磨き。	褐色	砂・灰・赤色土	良好	5 下層	1/2残
5	土師器坪	(16.4)	(7.2)	—	長形。口縁は短く外反。指手。	口縁部脱ナシ。胴部外周にへう磨きナシ。	明褐色	砂粒	普通	電1下層	1/6残
6	土師器坪	(12.8)	(6.2)	—	小形。口縁部は短く外反。	口縁部脱ナシ。胴部外周へう磨きナシ。	暗褐色	砂粒 多	不良	電1	1/4残

第33表 SI126出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器坪	13.2	4.8	—	体部外周に脱。口縁は内湾気味に開く。	体部外周へう盛り。内面ワムシ仕上げ。	暗褐色	砂粒	普通	4-2下層	3/4残

2	土師器環	(11.5)	3.8	—	体外部に脱、口縁は内気味に固く。	体外部へう張り、内面ウレシ仕上げ。	淡青色	砂粒	普通	13	下層	1/4枚
3	土師器環	(12.4)	2.6	—	浅めの半球形状。	体外部へう張り、内面ウレシ仕上げ。	淡青色	砂粒	普通	13	下層	1/4枚
4	土師器環	15.4	3.5	—	浅めの半球形状。	外部に浅いへう張り、内面は密なへう張り。	赤褐色	砂粒、赤色皮	良好	中層	1/3枚	
5	須恵器環	(10.0)	5.4	10.2	高台はハの字状で、やや高め。	ロクろ成形、底部外面縁へう張り後、高台付。	青灰色	砂粒、白色皮	良好	3	中層	1/4枚
6	須恵器環	(15.0)	4.5	8.6	浅い高台で、口縁は脱く。	ロクろ成形、底部外面縁へう張り後、高台付。	灰色	微粒砂	良好	7	下層	1/2枚
7	須恵器蓋	(16.6)	4.2	—	天井部は高く、つまみは鑿宝珠状。	ロクろ成形、天井外面縁へう張り後つまみ付。	灰色	砂、白皮、微粒砂	良好	17	下層	2/3枚
8	須恵器蓋	23.0	4.4	—	大形、口縁は丸味を持って下がる。	ロクろ成形、天井外面縁へう張り後つまみ付。	灰色	微粒砂	良好	8	中層	1/2枚
9	須恵器蓋	—	(8.5)	(17.0)	胴部下端の薄片。	胴部内面平行タテキ、内面へう張り。	灰白色	砂粒	普通	6	下層	1/4枚
10	土師器蓋	22.5	(34.0)	—	長割型、口縁部は大きく外反。	口縁部削ナデ、胴部外面縁も目下。	暗褐色	砂粒多し	普通	15-16	下層	1/4枚
11	土師器蓋	22.4	(21.0)	—	長割型、口縁部は外反。	口縁部削ナデ、胴部外面縁方向へう張り。	暗褐色	砂粒多し	普通	1-15	下層	1/2枚
12	土師器蓋	20.	(16.7)	—	長割型、口縁部は外反。	口縁部削ナデ、胴部外面縁も目下。	暗褐色	砂粒多し	普通	18	中層	1/2枚

第34表 SI127出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徵	調製の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考	
		口径	器高	底径								
1	土師器環	(13.4)	(3.1)	—	体外部に脱。	口縁部削ナデ、内面ウレシ仕上げ。	淡青色	砂粒	普通	下層	1/4枚	
2	土師器環	(16.2)	(3.0)	—	浅い半球形状。	口縁部削ナデ、内面ウレシ仕上げ。	淡青色	砂粒	普通	下層	1/4枚	
3	土師器鉢	(25.0)	(7.0)	—	大形の浅形、口縁は僅かに外反。	口縁部削ナデ、内面ウレシ仕上げ。	淡青色	砂粒	普通	6・下層	1/4枚	
4	須恵器蓋	19.5	3.5	—	口縁内側に脱、つまみはボタン状。	ロクろ成形、天井外面縁へう張り後つまみ付。	赤褐色	砂、赤皮、赤色皮	良好	4下層	3/4枚	
5	須恵器蓋	18.5	3.4	—	口縁内側に鋭い稜、つまみはボタン状。	ロクろ成形、天井外面縁へう張り後つまみ付。	灰白色	微粒砂	普通	3-4下層	1/2枚	
6	須恵器蓋	(16.0)	2.1	—	天井部は平ら、つまみは鑿宝珠状。	ロクろ成形、天井外面縁へう張り後つまみ付。	灰白色	微粒砂	良好	下層	1/4枚	
7	須恵器蓋	(17.3)	2.7	—	口縁は鋭く固く、つまみはボタン状。	ロクろ成形、天井外面縁へう張り後つまみ付。	灰色	微粒砂	良好	下層	1/4枚	
8	須恵器蓋	(16.5)	(2.5)	—	口縁は短く下がる。	ロクろ成形、天井外面縁へう張り後つまみ付。	青灰色	砂、赤皮、白色皮	良好	下層	1/3枚	
9	須恵器蓋	(16.3)	(3.0)	—	口縁は短く下がる。	ロクろ成形、天井外面縁へう張り後つまみ付。	青灰色	砂、赤皮、白色皮	良好	上層	1/4枚	
10	土師器蓋	(19.0)	(9.0)	—	長割型、口縁部は外反。	口縁部削ナデ、胴部外面縁方向へう張り。	淡褐色	砂粒	普通	1	中層	1/4枚
11	土師器蓋	(19.4)	(6.7)	—	長割型、口縁部は鋭く外反。	口縁部削ナデ、胴部外面縁方向へう張り。	淡褐色	砂粒	普通	5	下層	1/3枚
12	土師器蓋	—	(28.0)	6.0	長割型、胴部下手に最大形。	胴部外面縁方向へう張り、下部は削ナデ。	暗褐色	砂粒多し	普通	2	中層	1/2枚

第35表 SI128出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徵	調製の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考	
		口径	器高	底径								
1	土師器環	(14.4)	4.2	—	半球形状、やや平手。	口縁部削ナデ、体外部へう張り。	灰白色	砂粒、赤皮	普通	2	下層	3/4枚
2	土師器環	(12.9)	2.8	—	浅めの半球形状。	体外部へう張り、内面に放射状のへう張り。	赤褐色	砂粒	良好	3	下層	1/5枚
3	須恵器蓋	15.6	2.3	—	小形の長割型、口縁部は短く下がる。	ロクろ成形、天井外面縁へう張り後つまみ付。	青灰色	砂、赤皮、白色皮	良好	1	床	完形
4	須恵器環	—	(2.4)	9.6	やや低めの高台が付く。	ロクろ成形、底部外面縁へう張り後高台付。	灰白色	微粒砂	良好	4	下層	1/3枚
5	土師器蓋	(24.1)	(22.7)	—	長割型、口縁部は外反。口径が広い。	口縁部削ナデ、胴部外面縁方向へう張り。	暗褐色	砂粒	普通	電5	1/3枚	

第36表 SI129出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徵	調製の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考	
		口径	器高	底径								
1	土師器高杯	(13.5)	(4.5)	—	体外部に脱を有し、口縁が内傾。	口縁部削ナデ、体外部へう張り。	暗褐色	砂粒	普通	中層	1/4枚	
2	土師器高杯	(15.3)	(3.0)	—	外部に2段の脱を有し、口縁が内傾。	口縁部削ナデ、体外部へう張り。	淡褐色	微粒砂	良好	3	中層	1/4枚
3	土師器蓋	(11.2)	(19.0)	5.6	小形の長割型、口縁部は僅かに外反。	口縁部削ナデ、胴部外面縁は滑毛目調に削ナデ。	淡青色	砂粒	普通	1	中層	1/3枚
4	土師器蓋	(18.4)	27.4	4.4	長割型、口縁部は大きく外反。	口縁部削ナデ、胴部外面縁は滑毛目調に削ナデ。	淡青色	砂粒	普通	2-4・5下	2/3枚	

第37表 SB117出土土器観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徵	調製の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器環	(14.5)	(2.9)	(9.2)	平直の浅い皿形。	体外部へう張り、内面へう張り。	暗褐色	砂粒、赤皮	良好	北東部院土中	1/4枚
2	土師器環	(13.7)	(3.2)	(10.4)	平直の浅い皿形。	体外部へう張り、内面へう張り。	赤褐色	砂粒、赤皮	良好	北東部院土中	1/4枚
3	須恵器環	—	(2.9)	(10.0)	やや低めの高台が付く、体厚欠け。	ロクろ成形、底部外面縁へう張り後高台付。	灰褐色	砂粒、赤皮、白色皮	普通	北郷柱貫土3	院土中
4	須恵器蓋	—	(3.6)	(20.0)	平らで広い底面。	内面ともへう張り。	灰色	砂粒、白色皮	普通	南西院土中	1/4枚

IV おわりに

今回の発掘調査では、上神主・茂原官衙遺跡地内において掘立柱建物跡15棟・長方形竪穴建物跡4棟・竪穴住居跡14軒等、同遺跡第26次確認調査地内において竪穴住居跡8軒・掘立柱建物跡1棟等、および茂原向原遺跡において竪穴住居跡8軒・掘立柱建物跡4棟等の遺構が確認された。各遺構の状況や出土遺物については前章までに記したとおりであるが、ここではそれらの位置付けについて上神主・茂原官衙の変遷と対比しながら整理しまとめたい。なお下表は、出土遺物・重複関係・方位・配置等から両遺跡における遺構変遷を考えたものである。

上神主・茂原官衙遺跡（第26次調査区を含む）の変遷

今回の調査区は、栃木県調査分の北関東自動車道本体部と合わせ官衙施設内の北部にあたり、官衙Ⅰ・Ⅱ期においては政庁北側に展開する雑合群（北方建物群）が配置された場所である。まず官衙施設造営以前には、台地上東寄りに竪穴住居を中心とした古墳時代後期の集落が営まれている。中でも大型のSI79からは大量の手捏ね土器が出土し、集落内祭祀の様子が窺われる。

官衙造営が開始するⅠ期には、長方形竪穴建物（SI99、SI100等）が先行して建てられたものとみられる。この建物は南北棟を基本とする大型竪穴建物で、長い煙道の竪を有することや人為的に埋め戻されていることなどの特徴を持っている。なお同時期のSI77からは、飛鳥Ⅳ段階の特徴を有する畿内系土器（第48回SI77-1）が出土しており、年代比定の目安となっている。続くⅡ期は、政庁がコの字状配置となる官衙としての充実期ととらえられるが、この北方建物群も大型掘立柱建物が主体となってくる。特に南もしくは東半分が三面廂状となるSI48やSI91は他にあまり類をみない独特な建物である。なお第26次確認調査地の北部でSB210が確認されたことにより、当初想定さ

上神主・茂原 官衙の変遷	遺跡調査区内の主な遺構変遷			備考
	上神主・茂原官衙遺跡	(26次調査区)	茂原向原遺跡	
官衙造営以前	SI74・SI79 SI81・SI83 SI78	SI212 SI209 SI211	SI129	
Ⅰ期 (7世紀後葉)	SI99・SI104 (SB50・71) (SB105) SI100 SI77・SI90			SI77から畿内系土器(飛鳥Ⅳ段階)出土
Ⅱ期 (8世紀前葉)	(SB48・73) (SB70・SB91) (SB102・103、SB108)	SI208 (SB210)	SI127・SI128 SI126 (SB130) SI110 SB117	コの字状配置の政庁が成立
Ⅲ期 (8世紀後半)	SI88	SI203		正倉城中心に大型瓦葺建物
Ⅳ(a・b)期 (9世紀前半)	SI95 SI75 SI89	SI206 SI207	SI111	SI206から壺G出土
官衙廃絶後	SI82		SI112 (SB123) SI113	

第38表 上神主・茂原官衙遺跡、茂原向原遺跡の主な遺構変遷

れていた官衙域はさらに北方に延びることが明らかとなっている。

Ⅲ期は官衙としての大きな変換期で、政庁が消失し、大型瓦葺建物を中心とした正倉域のみに縮小する時期である。この時期の遺構はほとんどみられないが、次のⅣ期を迎える頃には再び竪穴住居を中心とした集落が営まれるようになり、官衙（正倉域）廃絶後まで継続している。そしてこれら竪穴住居の多くでは、電構築材として大量の瓦の利用が確認されている。正倉域の大型瓦葺建物のものとみられるが、既にそれらが容易に入手できる状況に至っていたことが窺われる。なお、Ⅳ期初め頃とみられるSI206では、長岡京内から集中的に出土することで知られる「壺G」と呼ばれる須恵器長頸壺が出土しており、本期の年代を推定する上で重要な手掛かりとなっている。

茂原向原遺跡の変遷

本遺跡は、上神主・茂原官衙遺跡のすぐ西側に位置するとともに、初期官衙施設と考えられる西下谷田遺跡とも近接しており、官衙とは直接的・間接的に深い繋がりがあった集落とみられる。まず官衙施設造営以前の古墳時代後期においては、台地西寄りの谷部に面して小規模な集落が確認されている。官衙造営期に入ると集落が徐々に東側（官衙施設寄り）に拡大していく状況が窺われ、Ⅱ期段階には掘立柱建物を伴う竪穴住居群が台地全体に及んでいたようである。例えば官衙施設から西へ僅か200mの位置で確認されたSI110はこの時期の竪穴住居の一軒であるが、瓦片（第79図SI110-8）の出土が目ざされる。竪穴として大型であることや掘立柱建物（SB117）を伴うことなどを考え合わせると、官衙の運営にたずさわる人々の居住区であったことも十分に想定できる。そしてこのことを裏付けるかのように、官衙から政庁機能が消失するⅢ・Ⅳ期になると遺構はほとんど見られなくなっている。

本遺跡に再び集落が営まれるのは、官衙廃絶期以降となる。それはSI112・113等の小型竪穴住居を主体としたものであるが、北関東自動車道本体部と合わせると竪穴数は20軒近くにのぼり、集落として一定の隆盛をみせていたものと思われる。

以上、上神主・茂原官衙の変遷を基軸に、今回確認された両遺跡の遺構群の位置付けについて考えてきた。官衙の成立・廃絶あるいは機能変更等による遺構群の在り方の変化、官衙周辺部における集落の動向等、限られた調査からではあるが興味深い資料が得られたものと思われる。今後の調査研究等により、官衙と周辺集落のより具体的な関係が解明されることを期待したい。

（参考文献）

- 安永真一 2001『上神主・茂原 茂原向原 北原東』栃木県教育委員会・(財)ちぎ生涯学習文化財団
板橋正幸・田熊清彦 2003『西下谷田遺跡』栃木県教育委員会・(財)ちぎ生涯学習文化財団
深谷昇・梁木誠 2003『上神主・茂原官衙遺跡』上三川町教育委員会・宇都宮市教育委員会
今平利幸 2007『西下谷田遺跡 古代編Ⅰ』宇都宮市教育委員会
今平利幸 2008『西下谷田遺跡 古代編Ⅱ』宇都宮市教育委員会
深谷昇・前原義之 2015『上神主・茂原官衙遺跡Ⅱ』上三川町教育委員会・宇都宮市教育委員会

写 真 图 版



調査地区全景（上が北、下部は建設中の北関東自動車道路）



独立柱建物跡群（上が西、左手は建設中の北関東自動車道路）



SB48確認状況 (北から)



SB48調査風景 (北から)



SB48東側柱列北第4柱 (西から)



SB48北西隅柱 (西から)



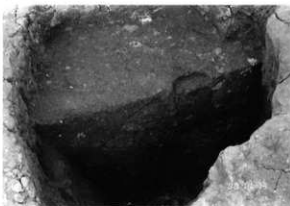
SB50確認状況 (北から)



SB50完掘状況 (北から)



SB50北棟持柱 (西から)



SB50西側柱北第3柱 (南から)



SB70確認状況(北から)



SB70完掘状況(北から)



SB70西側柱列北第3柱(西から)



SB70北東隅柱(南から)



SB71～73確認状況(東から)



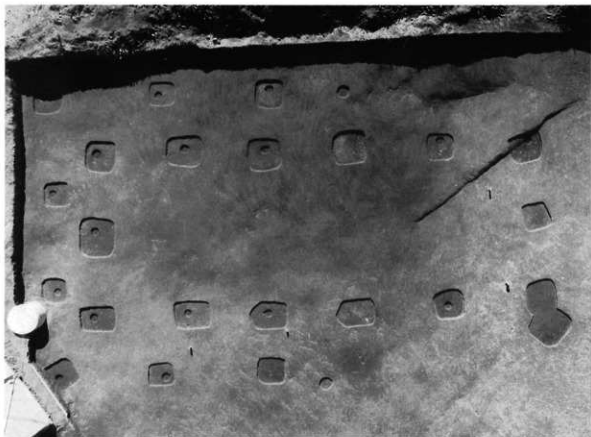
SB71～73確認状況(西から)



SB71～73完掘状況(西から)



SB71～73完掘状況(北から)



SB91確認状況・全景(上空から)



SB91確認状況(東から)



SB91調査風景(東から)



SB91東棟持柱(東から)



SB91北側柱列東第2柱(北から)



SB102全景（東から）



SB102北東隅柱（南東から）



SB103確認状況（北から）



SB103調査風景（北から）



SB103北棟持柱（東から）



SB103北東隅柱（東から）



SB105～107確認状況（北から）



SB105～107確認状況（東から）



SB105～107調査風景(北から)



SB105～107完掘状況(北から)



SB105西側柱列北第2柱(西から)



SB106北西隅柱・107東側柱列南第5柱(南から)



SB109確認状況(北から)



SB109完掘状況(東から)



SI99調査風景(南から)



SI99全景(西から)



SI99 堀 (北から)



SI100 堀 (西から)



SI100 全景 (北から)



SI90 (西から)



SI104 (北から)



SI74 (南から)



SI76 (南東から)



SI75全景 (南から)



SI75竈 (南から)



SI77全景 (西から)



SI77竈 (北から)



SI78調査風景 (南から)



SI78遺物出土状況 (南から)



SI81全景 (南から)



SI82炭化物出土状況 (北から)



SI79調査風景（南から）



SI79全景（南から）



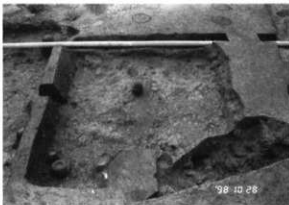
SI79土器出土状況（南から）



SI79廬（南から）



SI83・95（東から）



SI95（北から）



SI88（南から）



SI89（南から）



SE94確認状況 (南から)



SE94断面観察状況 (南から)



SE93・92確認状況 (南から)



SE93・92 (北上空から)



SI203 (南から)



SI203遺物出土状況 (南から)



SI206 (南から)



SI206堀 (南から)



SI206土器出土状況（南から）



SI207（南から）



SI208（南から）



SI208竈（南から）



SI211（東から）



SB210（南から）



SB210（西から、奥がSI211）



SB210南東隅柱（南から）



調査地区全景 (西から、右手が北関東自動車道)



調査地区全景 (東から)



SI110作業風景 (西から)



SI112 (東から)



SI111 (東から)



SI111鉄製品(釘)出土状況



SI113 (東から)



SI129 (南東から)



SI126遺物出土状況（南東から）



SI126土器出土状況



SI127遺物出土状況（南東から）



SI127土器出土状況（南東から）



SB116・117（西から）



SB123（東から）



SB130（北東から）



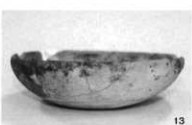
SE118（北から）



SI74



SI78



SI79 (1)

(手捏粘土器一類)



SI79 (2)



SI81



SI75



SI83 (1)



8
SI83 (2)



9



3



5

SI88



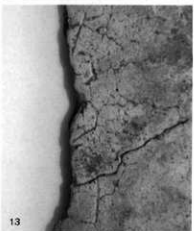
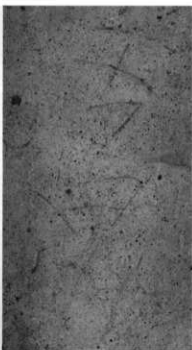
1



5



12



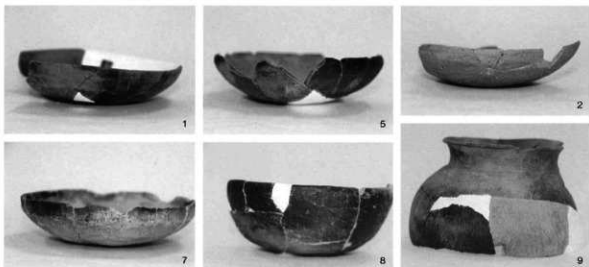
13



14



SI89



SI90



SI95



SI100



SI99

SK80



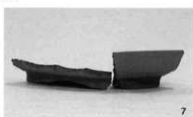
SI209



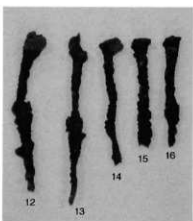
SI203



SI206



SI110



SI111



SI112



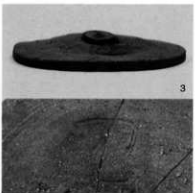
SI113



SI126



SI127



SI128

報告書抄録

ふりがな	かみこうぬし・もぼらかんがいせき もぼらむかいほらいせき
書名	上神主・茂原官衙遺跡 茂原向原遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第99集
編著者名	梁木 誠 清地良太
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号 TEL028-632-2764
発行年月日	西暦 2017年(平成29年) 3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみこうぬし・もぼら 上神主・茂原 官衙遺跡	かみこうぬし 上三川町 かみこうぬし 上神主及び うつのみやし 宇都宮市 もぼらむか 茂原町	09301	1	36度 27分	139度 53分	19980525 ~19990330	3500	道路建設及 び遺跡保存 のための確 認調査
		09201	4321	28秒	11秒	20151002 ~20151224	500	
もぼらむか 茂原向原 遺跡	うつのみやし 宇都宮市 もぼらむか 茂原町	09201	4320	36度 46分 52秒	139度 87分 83秒	19980525 ~ 19990330	2400	道路建設に 伴う確認調 査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上神主・茂原官 衙遺跡	官衙	古墳時代	掘立柱建物跡 15棟	土師器坏、高坏、甕、	
		飛鳥時代	長方形竪穴建物跡 4棟	埴、須惠器坏、蓋、甕、	
		奈良時代	竪穴住居跡 14軒	瓦、須惠器壺、甕形	
		平安時代	井戸跡 1基 等	土製品、軒先平瓦、 丸瓦、平瓦等	
茂原向原遺跡	集落跡	飛鳥時代	竪穴住居跡 8軒	土師器坏、甕、甕、	
		奈良時代	掘立柱建物跡 4棟	高坏、須惠器坏、蓋、	
		平安時代	等	甕、壺、灰釉陶器	

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第99集

上神主・茂原官衙遺跡
茂原向原遺跡

発行 宇都宮市教育委員会
編集 宇都宮市教育委員会
宇都宮市旭1丁目1番5号
TEL 028-632-2764
発行日 平成29年3月31日発行
印刷 有限会社 印刷親友社
宇都宮市瑞穂3-9-11
TEL 028-656-3655
